

331

66



始



331-66

大正二年三月刊



京都市三大事業誌

第二琵琶湖疏水編

第四集

第五集

第六集

卷二



京都市三大事業誌

第二琵琶湖疏水編

第四集

本集及次集ニハ專ラ線路ノ測量工事ノ施行ヲ輯録スルモノニシテ工事ハ大津起點ヨリ伏見終點ニ至ル一萬八百五十四間ヲ五工區ニ分テ各工區ニ工區事務所ヲ設テ主任技師ヲ置キ其區間ニ就キ施行セシメタルヲ以テ今此ノ順序ニ從ヒ先ツ第一工區ヨリ第二工區ヲ本集ニ收メ第三工區ヲ第五集ニ第四工區及第五工區ヲ第六集ニ收ム

第四集目錄

一	水路測量	一
一	工事設計	七
一	第一工區	〇
	大津三保崎防波堤築造工事	一三
	大津市北保町地先埋立工事	一七
	湖中浚渫工事	二二
	水量取入口工事	二五

大津制水開門工事	二七
古關隧道以東水路工事	三三
古關隧道工事	五五
附横坑工事	七六
同隧道以西水路工事	九一
大津市西部飲料水補給工事	一〇八
第二工區	一二九
柳山隧道工事	一三二
同隧道東西兩端水路工事	一五四
安祥寺山隧道工事	一六二
同隧道東西端工事	一六五
階島工事	一七四

京都市三大事業誌

第二琵琶湖疏水編

工事概要

第二琵琶湖疏水工事ニ係ル設計其他豫算并成績等ハ各工區ノ分擔ニ從ヒ施行位置ノ順序ニ追ヒ本集以下第六集ニ分記セシト雖モ區域ノ廣濶ニシテ施行ノ煩多ナル爲メ記事モ亦詳密ナラサル可ラス故ニ之ヲ通讀セントスルモ亦容易ナラサルヲ慮リ左ニ工事ノ概要及竣工表ヲ附シ以テ閱讀ニ便ナラシム

○

水路ハ起點ヲ琵琶湖大津三保崎^{大津市內}ニ取り第一疏水運河ノ北ニ沿ヒ十五間ノ間隔ヲ以テ三井寺山下ヲ貫キ藤尾^{滋賀縣下}ニ出テ此ヨリ第一疏水路ヲ離レ柳山^{京都府下宇治郡山科村}ノ下ヲ貫キ安米^{山科}村ニ至リ第一水路ニ近ツキ復離レテ安祥寺山下ヲ貫キ再度第一水路ニ近接ス是ヨリ以西ハ大概併行シテ黒岩日岡ノ両山下ヲ貫キ三條藏上ニ至リ第一水路ヲ合併ス此距離四千〇七十九間四厘勾配二千二百分ノ一平均速度五尺三寸水量一秒時五百五十立方尺水位ハ三保崎取入口ニ於テ第一水路ト平均スレトモ制水門ニ於テ此レヨリ二尺低下シタル所ヲ基準ト爲シタルヲ以テ三條藏上ニ於テハ勾配及距離ノ

關係ニヨリ河水ヲ滄合セシムル爲メ洗堰ヲ設ケ第一水路ヨリ來ル三百立方尺ノ水ヲシテ此ノ洗堰ヲ超流シテ第二水路ニ滄流セシム
此ノ兩水路ニ由ツテ引用スル總水量ハ一秒時八百五十立方尺ニシテ是カ使用ハ各種ノ狀態ニ由リ同カラスト雖トモ山科地方ニ於テ灌溉用トシテ約九立方尺蹴上ニ於テ上水及防火用五十立方尺御所御用水トシテ十立方尺其他防火或ハ水車用トシテ十一立方尺合計八十立方尺ヲ分チ残り七百七十立方尺ノ内七百五十立方尺ハ發電用ニ供シ其餘ハ從來ノ分線路ニ放流スル豫定ナリト雖トモ第一水路山科地方ニ於テ漏水アルヲ以テ是カ量ヲ一定スルコト能ハス
第一第二兩水路滄合ノ水量ハ大日山腹ニ穿テル合流隧道ヲ經テ瀦水池ニ入ル發電使用ノ水量ハ該池ノ北端ニ設ケタル制水閘門ヲ經テ二條ノ水壓管ニ注キ蹴上發電所ニ至リ水車運轉ノ用ヲ遂ケ排水隧道ニ由リ南禪寺通ノ地下ヲ通過シテ船溜ニ入り運河ノ水量ト爲ル而シテ瀦水池ノ一方ニ放水路ヲ設ケインクラインノ東側ニ沿ヒ下船溜ニ連絡シアルヲ以テ發電使用外ノ水ハ常ニ此ノ水路ニ由ツテ運河ニ注ケリ
上瀦水池ト下船溜ト水面高低ノ差ハ百十五尺ニシテ有効落差ハ百六尺ナリトス而シテ發電使用水量ハ毎秒時七百五十立方尺ニシテ水車ノ總發生力ハ六千八百馬力發電機ノ總發生力ハ四千八百キロワットナリ
發電所ニ於テ發生セシ電氣ハ特別高壓ニ屬スルモノニシテ内千八百キロワットハ小川變電所ニ千二百キロワットハ姉小路電氣軌道變電所ニ孰レモ地中電纜ニ依リ送電

シ發電所ニ於ケル殘餘ノ千八百キロワット及小川變電所ニ送ル千八百キロワットハ各遞降變壓器ニ依リ高壓電氣ニ遞降セル後架空線ニヨリ市内及附近ノ郡村ニ配電セリ
南禪寺船溜以西鴨川迄九百六十四間ハ舊水路ヲ襲用シ斷面ヲ大ニスル爲メ夷川ニ至ル迄ハ現在川幅廣キヲ以テ單ニ川底ニ於テ巾三十尺深四尺一割勾配ノ増増ヲナシ夷川以下ハ現在川幅狹キ爲メ基礎ニ於テ高五尺ノ石垣ヲ築キ以テ護岸トナセリ
夷川閘門ニ於テ得ル落差十二尺ヲ利用シ茲ニ發電所ヲ設ケタル爲メ舊堰門ヲ改造シ且ツ發電所地盤工事ヲ施セリ發電氣工事ハ第二經路ニ屬スルヲ以テ茲ニ省ク
夷川鴨川出會點以南伏見終點橋土ニ至ル迄ハ五千三百七十二間二分ニシテ内四千九百二十二間二分ハ舊運河ノ部分ニシテ残り四百五十間ハ舊桃山城ノ殘塚ヲ改築擴張シタルモノナリ而シテ夷川壙小路間ハ東ハ人家櫛比シ西ハ鴨川ニ沿ヒタルヲ以テ鴨川ノ幅員ヲ減縮シテ運河ヲ鴨川ノ方ニ擴張セリ此カ爲メ鴨川ニ堆積スル土砂ヲ浚渫シ幅ニ失フ所ハ之ヲ深サニ得セシメ以テ鴨川洪水ノ疏通ニ支障ナカラシメタリ又此ノ間ニ於ケル運河ノ勾配ハ鴨川ノ勾配ニ抑制セラレ急峻トナリ流速亦急ナルヲ以テ之ヲ調節セン爲メ途中ニ六個ノ閘門ヲ設ケ千百分ノ一乃至三千七百分ノ一ノ勾配ヲ附シタリ然レトモ市街地ヲ離レ郡部地内ニ入りシヨリ以南ハ所謂南郊ノ一部ニシテ他ニ支障物ナキヲ以テ四千分一ノ勾配ニテ一直線ニ田圃間ヲ經過シ伏見インクライン上ノ船溜ニ到着セリ

船溜ハ一方ニ放水堰門ヲ設ケ水ハ此ノ堰門ニ由リテ百十八間一分ノ隧道ヲ流過シイ
ンクライオン下ノ船溜ニ入り再度運河ノ水量トナレリ而シテ此ノ地點ニ於テ五十尺ノ
落差アルヲ以テ茲ニ發電所ヲ新設スル爲メ水路取入口工事ヲ施シタリ發電工事ハ第二
ニテ茲
ニテ

「インクライオン」下船溜ヨリ土橋ニ至ル間ハ伏見市街ニ在ル舊壕ヲ利用シタルヲ以テ水
路ハ曲折スレトモ勾配ハ二千二百分ノ一ナリ

右ハ工事ノ大體ニ繫ルモノニシテ其節目ハ左ノ如シ

水路延長一萬〇八百五十四間

三保崎防波堤 長百二十間 巾五間

水路ノ起點ハ大津市北國町水陸分界線ニ在リ此ノ位置ハ南ニ京都築地ヲ控ヘ北
ニ觀音寺崎突出シテ灣形ヲナセトモ湖邊一帶ハ水淺ク泥深ク北風起レハ濁浪岸
ヲ打チ且ツ降雨毎ニ市街ノ下水注入スルヲ以テ此等ノ豫防トシテ水路起點ノ北
部ニ防波堤ヲ築ケリ構造ハ塊石ヲ以テ水中ニ地盤ヲ作り其ノ上ニ石垣ヲ築キ之
レヲ埋ムルニ隧道堀鑿ノ土砂ヲ以テシタリ然レトモ兩地間ハ土砂埋没スルヲ以
テ浚渫機ヲ用ヒ之レヲ除キ水路ノ下底ト均一ナラシメタリ

水路取入口

三保崎防波堤現在第一築地ノ會合點ニ設ク爰ニ設ケタル鐵門ハ琵琶湖水面三保
崎量水標十尺ニ達シタル時之レヲ閉ツモノトス

外面ニ鐵柵ヲ設ケ以テ泛艸ノ流入ヲ豫防セリ

埋立水路 長二百七十五間一分

此ノ埋立水路ハ湖岸取入口ヨリ古關隧道東端迄ノ距離ニシテ構造ハ專ラ鐵筋コ
ンクリトヲ用ヒ此レヨリ三條線上ニ至ル迄ハ同一ノ構造ナリトス高十三尺五寸
巾十三尺水深十尺隧道斷面モ亦同シ

水路ノ目的ハ單ニ通水ノミニ在ルヲ以テ一旦土地ヲ關鑿シ水路ノ構築ヲ終レハ
隨ツテ土ヲ覆ヒ舊ニ復シ地上ニ痕跡ヲ留メス故ニ工事施行中ニ非サレハ現狀ヲ
窺フコト能ハス此ノ間ハ大津市街北國町鹿關町及三尾神社境內并ニ大津物産陳
列場等ノ地下ヲ貫キタル爲メ障礙物殊ニ多ク且ツ地質粗惡湧水多量ニシテ頃刻
モ唧筒ノ運轉ヲ休止スルコト能ハス之レヲ山間ノ工事ニ比スレハ煩雜多事意外
ノ勞役ヲ費シタリ

制水閘門 高三十尺五寸巾十三尺

閘門位置ハ運河ノ北部ニアリ構造ハ總テ鐵ヲ用ヒ磚石ヲ以テ之ヲ補ヒ門扉ハ機
ニ由ツテ開閉シ得ル裝置トナセリ閘身ハ地中ニ在ルヲ以テ開扉ノトキニ非サレ
ハ見ルコト能ハス

水路ノ水位ハ三保崎量水標零點下二尺ヲ以テ基點トナセリ即チ海面上二百八十
尺六寸ノ所トナス此レ湖ノ水位低落シテ零點以下二尺ニ達スルコトアルモ所定
ノ水量ヲ得ルニ支吾ナカラシメン爲メナリ

古關隧道 長一千四百七十一間

本道ハ三井寺山下即チ古關峠ノ下ヲ貫ク以テ古關隧道ト稱セリ各隧道中最長ノモノナリ地質ハ中央ハ堅硬ナル花崗岩ニシテ其ノ他ハ砂岩角柱岩石盤岩等ニシテ崩壞頗ル困難ナリキ

工事ハ本道崩壞ニ先ク第一水路ノ第一隧道ヨリ北ニ向ツテ十有一箇ノ横孔ヲ穿テ新水路ノ位置ニ達スレハ左右ニ分岐シテ各崩壞ニ着手シ監督員ノ出入工夫ノ交代材料ノ搬送土砂ノ運出湧水ノ排除等一切此ノ横孔ニ由リタルヲ以テ著シク工程ヲ進歩セシムルコトヲ得タリ又坑中ヲ照ス燈火及脚筒ヲ運轉スル電力ハ俱ニ水利事務所ノ送電ニ由リタルヲ以テ其ノ便利亦大ナリキ

埋立水路自古關隧道西口至柳山隧道東口 長二百七十五間六分

構造同前

開展水路 長三十間

水路中大津蹴上間ニ於テ水量調査ノ爲メ之ヲ設ク構造ハ穹窿ノ一部ヲ開展シ他ハ埋立水路ニ同シ巾十三尺深十二尺

柳山隧道 長三百五十八間三分

本道ハ宇治郡山科村字四ノ宮地内ニ在リ構造ハ古關隧道ト同型ニシテ地質ハ石盤岩大部分ヲ占ム崩壞中湧水アリト雖トモ著シキ困難ハナカリキ

埋立水路自柳山隧道至安祥寺隧道 長百六十五間

構造同前

安祥寺山隧道 長四百〇六間

本道ハ宇治郡山科村大字安朱地内ニシテ地質ハ堅硬ナル石盤岩ニシテ山上ニ小溪アリシヲ以テ湧水多量作業稍困難ナリキ

埋立水路自安祥寺隧道至黑岩隧道 長四百十八間三分四厘

構造同前

黑岩隧道 百二十一間

本道ハ宇治郡山科村大字御陵ニ在リ構造ハ同前

埋立水路自黑岩隧道至日岡隧道 長五十九間七分

構造同前

日岡隧道 長四百九十九間

本道ハ宇治郡山科村字日岡ニアリ兩端ハ山勢急峻ニシテ且第一水路ノ船溜ヲ帯ヒタルヲ以テ湧水ノ量殊ニ多ク空氣亦稀薄ニシテ是カ爲メ脚筒ノ運轉空氣ノ輸送日夜絶ヘス作業甚ク困難ナリキ開鑿ハ兩端ノ外第一水路ノ第三隧道内ヨリ横孔一箇ヲ穿テ左右ニ分岐シテ各着手セリ

本隧道西口ハ大日山隧道ニ對峙シ共ニ石造ノ洞門ヲ建造セリ

洗堰 長十八間

第一水路ハ運河ヲ兼用スルヲ以テ線道迂曲速度緩漫ナリシモ新水路ハ是ニ反シ

ヲ直線ヲ取り二千二百分一ノ勾配ヲ以テ大津ヨリ蹴上ニ達シタルヲ以テ両水路ノ蹴上ニ澮スルヤ舊水路ノ水位ハ新水路ヨリ高キコト二尺三寸ニ及ヘリ仍テ新舊兩水澮合點ニ於テ長サ十八間ノ洗堰ヲ築キ水ヲシテ此堰ヲ超ヘテ新水路ニ澮合セシム地盤ハセメントコンクリートヲ堰堤ハ總テ花崗石ヲ用ヒタリ

上水取入口

市街全體ニ供給スル上水ハ日岡隧道終點ニ鐵管二條ヲ布敷シ以テ取入口トナシ一秒時五十立方尺ヲ送水スヘキ裝置ヲナセリ而シテ御所御用水モ亦該所ヲ以テ取入口トナシ十立方尺ノ水ヲ引用セリ

澮流口 六間八分

本口ハ舊水路ヨリ來ル三百立方尺ノ水ヲ受容スル澮合點ニシテ昔ニ日岡洞門ヲ負ヒ前ハ大日山洞門ニ面シ右ハ山峯ニシテ左ハ即チ洗堰ナリ山峯ハ石ヲ以テ築キ下底ハセメントコンクリートヲ用ヒタリ

大日山隧道 長四十八間

本道ハ大日山ノ半腹上京區粟田口町地内ニアリテ新舊兩水ヲ併呑スル咽喉ニシテ構造ハ他ノ水路ニ同シ口ニ洞門ヲ備フ悉ク石造トナス地質ハ全部角矽岩ノミニシテ工事中湧水少ク操業甚ク困難ナラサリキ支保工ハ總テ煉瓦ヲ用ヒタリ斷面ハ南ニ接續スル埋立隧道ニ同シ

發電澮水池 長六十間

本池ハ大日山隧道ノ北端ニアリ地盤ハ裂歟アル石板岩ナルヲ以テ漏水ヲ防ク爲メ悉クセメントコンクリートヲ用ヒ側壁ハ花崗石ヲ積砌シテ寸分ノ虧隙ナカラシメタリ巾ハ五間ヨリ八間ニ至ル而シテ池中ノ北端ニ更ラニ分水路ヲ設ケ以テ北郭ヲ迂廻スル分線路ニ連絡セシメタリ

放水路 長二百九十七間七分五厘

本水路ハ大日山隧道ノ北端三十間ノ處ヲ起點トナシインクラインノ東側ニ沿ヒ南禪寺船溜ニ達ス水路ノ位置頗ル急斜ニシテ流水ノ速力極メテ猛迅ナルヲ以テ左右ハ花崗石ヲ以テ石壁ヲ築キ下底ハセメントコンクリートヲ基礎トナシ上ニ割石ヲ施セリ

制水閘門 高二十七尺 巾三十六尺

本門ハ大日山ノ半腹澮水池ノ北部即チ發電所送水管ノ咽喉ニ在リ地形ノ一部ハ絕壁ナルヲ以テセメントコンクリートニテ地盤ヲ築キ石材及煉瓦ヲ以テ高十六尺幅三十六尺ノ閘室ヲ作り而シテ送水管ハ双列ナルヲ以テ更ラニ閘室ヲ二分シ中央ニ徑八尺ノ母柱ヲ建テ左右兩室ヲ各十四尺トナシ又室毎ニ徑七尺ノ双扉ヲ付ス扉ノ開閉ハ機ニヨツテ一上一下シテ其ノ用ヲ爲ス裝置トナセリ

埋立隧道 長五十間五分

本道ハ送水鐵管ヲ布設スル爲メインクライン下ヲ横貫セリ支保材ハ總テ煉瓦ヲ用ヒタリ

運河自南禪寺新溜 八百間八分五厘

此ノ部分ハ舊運河ヲ襲用シ川幅ハ依然六十尺ナレトモ下底ニ於テ更ラニ巾三十尺深四尺ヲ堀下ケ從來ノ水深五尺ヲ九尺ニ改メタリ勾配ハ七千分ノ一

夷川通船開門 長十四間

本門ハ從來ノ設備ニ依リ改造セス落差十二尺

通水路

從來ノ放水路ヲ毀テ更ラニ開門ニ併行シテ其北部ニ通水路ヲ開キ且制水開門ヲ設ク高十尺幅十二尺基礎及側壁ハ煉瓦及石材ヲ用ヒ扉門ヲ備フ舊水量ハ一秒時二百五十立方尺ニシテ其ノ大部分ハ此ノ近傍ニ於テ需求者ニ供給セシヲ以テ平素ノ水量ハ極メテ少數ナリシモ新工事ハ更ラニ五百立方尺ヲ増加シタルヲ以テ此水量ヲ通過シ得ル水路ヲ新設シタリ而シテ新ニ制水開門ヲ設ケタルハ此水路ニ隣リ將來發電所ヲ建設スヘキ計畫ナルヲ以テ其ノ水面ヲ調整スル必要アルニ據ル

夷川發電所

此ノ夷川開門ノ上下水面ニ於テ十二尺ノ落差アルヲ以テ制水開門ノ上流ニ於テ水路取入口ヲ設ケ發電所設置ノ準備トシテ基礎工事ヲ施セリ

運河自夷川開門長百七十七間

此間モ亦舊運河ヲ襲用シタルトモ河心ニ於テ更ラニ四尺ヲ増堀シタルヲ以テ此

レニ係ル部分ハ左右兩岸ニ於テ高五尺ノ石垣ヲ築キ以テ護岸トナセリ
巾四十八尺深十尺

白川放水路 百三十四間二分

從來白川ノ水ハ南禪寺舟溜ニ於テ一旦運河ニ合シ慶流橋西ニ於テ再度白川ニ放流シテ鴨川ニ排出セシメシモ新設計ニ於テハ之ヲ夷川船溜迄導キ此ヨリ直ニ鴨河ニ放流セシメシヲ爲メ新水路ヲ開鑿セリ而シテ新水路ノ出口即チ船溜ノ西北部ニ堰門ヲ設ケ水量ヲ調整スルモノトス水路巾二十四尺深七尺

鴨川運河自夷川出合長千四百五十六間

此ノ間ハ東岸ハ人家櫛比シ西岸ハ鴨川ナルヲ以テ線路ハ鴨川ノ狀態ニ由リ勾配モ亦是ニ準セサルヘカラス故ニ流量ト速力トヲ調節スル爲メ六個ノ開門ヲ設ケタリ而シテ鴨川ニ架セシ三條四條五條ノ三大橋ノ外夷川二條團栗松原七條、植小路等ノ諸橋アリテ施行頗ル困難ナリキ川巾四十四尺水深八尺

仁王門放水所及排水所

此ノ間、東山一帶ヨリ流下シ來ル密流ハ一旦之レヲ運河ニ受容シ更ラニ此ノ放水所ニ由ツテ鴨川ニ排除スルモノトス
排水所ハ運河掃除ノ爲メ運河ノ水ヲ排出スルノ用ニ供ス

仁王門開門

開室ハ長四十二尺巾五尺落差四尺九寸隻扉ヲ具ヘ機ニ依ツテ開閉ス開室ノ西側

ニ放水溝ヲ設ク巾六尺深十三尺悉ク石造トナス閉扉ノ時ハ此ニ由ツテ通水ス以上ノ勾配ヲ二千分ノ一トス

三條排水所

目的同前

三條閘門

構造同前 落差六尺

四條排水

目的同前

四條閘門

構造同前 落差五尺

團栗排水所

目的同前

團栗閘門

構造同前 落差六尺三寸

五條排水所

目的同前

五條閘門

構造同前 落差四尺五寸

正面排水所

目的同前

正面閘門

構造同前 落差六尺三寸

運河自正面閘門至伏見船溜延長 二千九百三十三間

此ノ間モ亦舊運河ヲ擴張改築シタルモノニシテ兩岸ハ悉ク石垣ヲ築キ河中ヲ四十四尺水深ヲ八尺勾配四千分ノ一トス線路ハ田畝ノ間ヲ經過セシヲ以テ工事ハ困難ナラスト雖トモ此邊水路ハ東山一帶ヨリ來ル用惡水路ト交叉スルモノ多ク爲メニ一轉降雨ノ際ハ多量ノ水量ト土砂ヲ流下シ來ルヲ以テ勉メテ運河ニ合流セシメサル方針ヲ取リタリ

又鳴川東匯ニ於テ東海道鐵道ノ下ヲ橫斷スル爲メ通船ニ支障スルヲ以テ更テニ東側ニ巾十五尺ノ通船水路ヲ設ケタリ

伏見船溜

伏見船溜ハ一ハインクライン上ニ在リ一ハ其ノ下ニ在リ上部船溜ハ發電溜水池ヲ兼用セリ長十三間五分七厘ニシテ巾二十間トナス石垣ヲ三方ニ築キ繫船ニ便ナラシメ下部船溜ハ舊形ヲ襲ヒ之レヲ擴張セス

排水所 長八十七間九分
排水所ハ船溜ノ北部ニ沿ヒ設置ス發電使用後ノ水ハ此ノ排水所ニ由リ隧道ヲ過

下部船溜ニ排出ス

伏見發電所

此ノ地五十尺ノ落差アルヲ以テ發電所設置ノ爲メ水路取入口工事ヲ施シタレトモ殘餘ノ工事ハ第二次ノ計畫ニ係ルヲ以テ未ダ着手セス

放水路 長三十間

「インクライン」上部ニ在リ

伏見隧道 百十八間一分

本道ハ伏見街道ノ下ヲ貫クモノニシテインクラインノ北部ニアリ排水所及放水場ヨリ來ル水ヲ受ケ之ヲ下部船溜ニ注ク將來發電所ヲ設置スル時ハ發電所ニテ使用シクル水ノ排水路ニ兼用ス

「インクライン」長百五十間

伏見墨染町ニアリ構造ハ專ラ舊形ニ仍リ長十間ヲ短縮セリ

運河自伏見町土橋「インクライン」下部船溜七百五十八間七分

「インクライン」下部船溜ニ起リ伏見市街ヲ屈折シテ字土橋ニ達ス是レ即チ本水路ノ終點ナリ本河ハ舊運河ヲ擴張延長シタルモノニシテ線路ハ桃山城ノ廢墟ヲ利用セリ川巾四十二尺水深五尺五寸勾配二千二百分一舊運河ニ比スレハ更ラニ四百五十間ヲ延長セリ

蹴上發電所

此地ハ上下兩區ノ犬牙地ニ屬シ東山ノ一部ナル華頂山ノ北麓ニシテ地勢ハ十五分ノ一ノ勾配ヲ以テ岡崎町ニ至ツテ盡ク此ノ中央ニ發電所ヲ設クル爲メ地中ヲ堀鑿スル六十尺餘其ノ下底ヲ以テ水車ノ放水點トナシ且之レヲ發電所建築物ノ地盤トナセリ

基礎ハ鐵筋コンクリートヲ用ヒ四壁ノ要所ハ石材其他ハ煉瓦ヲ使用シ屋根ハ石綿板ヲ以テ之ヲ葺ケリ地上五十五尺五寸地下十四尺室内ヲ大分シテ三個所トナシ東ノ一室ハ配水鐵管室トナシ中央ノ廣室ニ水車直結發電機五基及ヒ水車直結斷磁機二基ヲ据付ケ西ノ一室ハ二階造ニシテ階上ニ配電盤ヲ裝置シ階下ハ變壓器室及倉庫トナセリ其ノ建坪左ノ如シ

鐵管室 九十九坪〇八

機械室 百七十七坪八五六

配電盤室 四十四坪一六七

共計三百二十一坪一合三勺

附屬室 木造 十六坪五

發電所設備機械

水壓管 二條

内徑七呎四吋八分ノ三 直長八百六十四呎十吋
構造ハ軟鋼板鉄綴ヲランテ接續型ニシテ厚サ最上部取入口ニ於テ四分ノ一時

發電所外部ニ於テ八分ノ三吋其ノ内部ニテ二分ノ一時及八分ノ五吋弱トス
水車 七基

横軸フランシス型レアシヨントーピン發電機用五基内一基豫備每基一千七
百馬力廻轉數毎分四百五十

勵磁機用二基内一基豫備每基二百馬力廻轉數毎分七百
調速機

油壓式

發電機 五基 内一基豫備

廻轉磁田型

交流

千五百キロワットアマヘア 力率八十五パーセント(千二百キロワット) 六千
六百ワット

三相式 六十サイクル 毎分四百五十廻轉

星形結線 單一勵磁 水車直結

勵磁機 二基 内一基豫備

百二十五キロワット 毎分七百廻轉 百二十五ワット 複巻水車直結

變壓器 四個 内一個豫備

「シユルタイプ」七百五十キロワットアマヘア 一次電壓六千六百ワット

二次電壓二千二十ワット 單相式 六十サイクル 油入通水却却
一次線三角 二次線星形結線

保安裝置

發電機ノ鐵臺變壓器ノ外函并ニ特別高壓用機械器具ニ屬スル變壓器及變流器ノ

二次線并ニ發電機ヨリ自働遮斷器ニ至ル電線ノ鉛被ハ之ヲ接地セリ

配電盤ハ全部大理石盤ニシテ之ニ裝置セル諸器具ニ接続セル電路ハ總テ低壓ト

ス 發電機ヨリ母線ニ至ル電路ニハ「レバースカール」レント、リレー及トリツプアコイル付

油入自働遮斷器并ニ單極單投及單極雙投開閉器并ニ檢漏器ヲ裝置セリ

母線ヨリ送電線ニ至ル電路ニハ單極單投開閉器、タイムリミットリレー及トリツ

プアコイル付油入自働遮斷器并ニスタチツク、サスチヤイチャイヲ裝置セリ

母線ヨリ變壓器ニ至ル電路ニハ單極單投開閉器、タイムリミット、リレー及トリツ

プアコイル付油入自働遮斷器ヲ裝置セリ

配電線母線ニハ檢漏器及ボテンシャル、サスチヤイチャイヲ備ヘ母線ヨリ各配電

線ニ至ル電路ニハ單極單投開閉器、タイムリミット、リレー及トリツプアコイル付油

入自働遮斷器并ニキョーキングコイル及マルチャツプ型避雷器ヲ裝置セリ

各送電線及配電線路ニハ豫備油入遮斷器ヲ備ヘリ

送電線路設備

自白上發電所 地中送電線路 亘長一萬二千九百三十五尺

至小川變電所 地中送電線路 六千六百ヴオルト

地中電線路構造

電線 二條 内一條豫備

布設方法

地下約三尺ノ處ニ線路ヲ穿テ下部ハ直ニ土ニ接シ左右兩側及上部ハ各厚サ三寸ノ板石ヲ用ヒ其内ハ砂ヲ填充シ以テ他動的ノ損傷ヲ豫防セリ

電路地下線及電氣軌道其他下水溝ヲ横斷スル部分ハ悉ク各特種ノ工事ヲ施コシ互ニ支障ナカラシメ河川横斷ノ個處ハ橋背ニ添架シタリ

電線ノ構造ハ三心入鉛裝電纜ニシテ紙ヲ以テ被覆絶緣物トナセリ 心線ハ軟銅線三十七本撚ニシテ斷面積ハ百二十平方ミリメートルトナス

保安裝置

地中電線ノ鉛被ハ電氣的完全ニ接續接地セシメタリ又地中電線路ノ兩端ニハ「スタチック」チアシチア「イ」チ設置セリ

自白上發電所 地中送電線路

至電氣軌道變電所 地中送電線路 六千六百ヴオルト

地中電線路構造

電線 一條 別ニ小川變電所ニ至ル電線ヲ共通豫備線トナス

布設方法及保安裝置ハ白上發電所小川變電所間地中送電線路ニ同シ

電線構造ハ三心入鉛裝電纜ニシテ紙ヲ以テ被覆絶緣物ト爲セリ心線ハ軟銅線十九本撚ニシテ斷面積ハ七十平方ミリメートル

排水隧道 長百四十三間

水車運轉使用後ノ水ハ此ノ隧道ニ由リ南禪寺町船溜ニ排出ス

小川變電所 上京區小川通夷川角

機械室 煉瓦二階建四十坪二合三四

事務室 木造平家建八坪五合

機械室ハ地下六尺ヲ穿テセメント、コンクリートヲ施コシ地上煉瓦二枚積トナシ屋根ハ石綿板葺トナス高サ三十尺八寸二五

變電所機械設備

シエルトタイプ變壓器 四基内一基豫備七百五十キロヴオルトアマムベア

第一次電壓 六千四百ヴオルト

第二次電壓 二千二十ヴオルト

單相式 六十サイクル

一次線三角 二次線星形結線 油入通水冷却

保安裝置

變壓器ノ外函并ニ特別高壓用機械器具ニ所屬スル變壓器及變流器ノ二次線ハ

之レヲ接地ス配電盤ハ全部絶縁良好ナル大理石盤ニシテ之レニ装置セル諸器
具ニ接続セル電路ハ總テ低壓トス
地中電線引込線ヨリ變壓器ニ至ル電路ニハ單極單投開閉器及油入遮斷器并ニ
「スタチック、デスチャイヤ」ヲ装置セリ
配電線母線ニハ檢漏器及ボテンシャルサスチャイヤ「ヲ備ヘ母線ヨリ各配
電線ニ至ル電路ニハ單極單投開閉器タイムリミットリレ」及「トリップコイル」
付油入自働遮斷器并ニ「チヨロキングコイル」及「マルチギヤツプ」型避雷器ヲ装置
セリ
各送電線及配電線路ニハ豫備油入遮斷器ヲ具備ス

琵琶湖第二疏水竣工表

工區別	工 事	着 手	竣 工
第一工區	琵琶湖々中浚渫	四四・五・二六	四五・三・三一
	水量取入口堀鑿	四四・五・四	
	防波堤築造	四二・七・一	四五・三・三一
	大津市築地及溝渠改築并道路		
	自一五鎖至二二鎖埋立水路堀鑿		
	自二鎖至三八鎖八一節同上	四二・九・一	四四・三・三〇

第二工區				
第二工區	自一一鎖至二七鎖八〇節埋立水路構築	四四・六・一一	四五・三・三一	
	大津制水門	四四・三・二八	四五・三・三一	
	自二八鎖三〇節至三七鎖七三節埋立水路構築	四三・五・三二		
	古關隧道橫坑十一ヶ所構築	四一・六・二六	四一・一・九	
	古關 隧 道	四二・四・六	四四・二・二〇	
	自一八四鎖八〇節至一九八鎖五〇節埋立水路堀鑿	四二・七・一	四五・三・三一	
	自一九八鎖五〇節至二〇六鎖同上	四二・四・二	四二・五・二〇	
	自一八五鎖至一八九鎖埋立水路堀鑿及埋戻	四三・一・七		
	自一八九鎖至二〇六鎖同上	四四・五・一	四五・三・一	
	自一八五鎖至一八九鎖埋立水路構築	四三・二・一		
	自一八九鎖至二〇六鎖同上	四四・九・一〇		
	自二〇二鎖至二〇五鎖開展水路	四四・二・二四	四五・三・三一	
		自二〇六鎖至二一五鎖五六節埋立水路	四二・五・二一	
		二二鎖一〇節橫斷下水		
		柳山 隧 道		
	自二五三鎖六〇節至二六六鎖、埋立水路	四二・四・二二	四四・五・一〇	
	二五七鎖七八節橫斷下水			

第三工區		二六四鎖四〇節同上 安米道及マンホールの並ニ下水 安米川附替 自二五六鎖至二七〇鎖一〇節埋立水路 安祥寺山隧道 自三二一鎖九二節六至三二五鎖埋立水路 自三二五鎖至三三七鎖同上 三二二鎖橫斷下水 三二〇鎖同上	四三・三・二七 四二・一〇・三一 四二・八・九 四二・八・九 四四・九・一
自三三七鎖至三六二鎖三〇節埋立水路 自三六二鎖三〇節至三六三鎖七六節同上 自三六一鎖六五節至三六四鎖四二節埋立水路堀整 三三八鎖三〇節橫斷下水 三四六鎖二五節同上 三五一鎖八五節同上 三六一鎖七〇節同上 三六四鎖四〇節同上	四三・二・二七 四二・六・二三 四一・一一・二五 四四・一〇・一二 四三・二・二〇 四四・一一・一一 四二・八・二三 四三・二・一一	四四・一〇・一〇 四三・一・三一 四三・一・一八 四五・二・二三 四三・四・六 四五・三・八 四三・一・一八 四三・三・二六	

黑岩 隧道		自二七四鎖八七節至二七八鎖埋立水路堀整 自三七五鎖八六節至三七七鎖五〇節同構築 自三七七鎖五〇節至三八一鎖八三節埋立水路 三七六鎖八〇節上部橫斷下水 日岡隧道橫坑 日岡隧道 自四二九鎖三四節至四三三鎖三二節埋立水路 四二九鎖三四節上部橫斷下水 上水道鐵管取入口 新舊水路連絡洗壓 合流 隧道 蹴上發電所溜水池構築 蹴上放水洗壓構築 同 放水路一部構築 同 放水路構築 同 放水路落日 同 送水管取入口及同支臺築造	四一・一一・一五 四二・六・一二 四二・八・二三 四一・一一・一八 四二・八・四 四二・八・二一 四二・八・五 四四・二・二七 四四・八・二〇 四三・七・二三 四二・九・一三 四三・七・二八 四三・一・二五 四四・一一・一七 四二・二・二三 四三・八・四	四三・一・一八 四五・三・三一 四五・一・一一 四二・一・一五 四五・三・三一 四三・一・一五 四三・一・三〇 四五・二・二五 四三・三・一八 四五・二・一三 四五・三・三一 四三・八・二〇 四五・三・三一 四三・八・一〇 四五・四・一五
-------	--	--	--	---

	蹴上送水管布設線 同 發電所堀整 同 基 礎 排水隧道入口 排水 隧道 同 吐 口 南禪寺町下水附替	四三・七・一五 四二・二・二六 四三・一・二六 四三・六・一七 四二・二・一〇 四三・一・一二 四二・二・一六	四三・二・一五 四三・二・一三 四五・三・三一 四四・五・三一 四三・二・一九 四三・四・一四 四三・二・二四
第四工區 自南禪寺町船溜至夷川船溜運河浚渫 白川放水路 夷川通水路 自夷川出會至丸太町間石垣及附屬 夷川閘門上流浚渫 夷川閘門下流改修 荒神橋丸太町間鴨川床下 夷川發電所豫備工事堀整 同 取入水路 同 排水路		四四・一〇・一六 四四・七・二四 四四・七・六 四四・六・二一 四五・一・八 四四・二・七 四四・六・二六 四四・六・一八 四四・九・一九 四四・二・四一	四五・三・一五 四五・二・二九

	同 基 礎 自夷川出會至五條間開展水路 自五條至七條間東側石垣 自五條至工區終点開展水路 仁王門閘門築造 仁王門排水所 仁王門洗堰 孫橋下水 三條閘門 三條排水所 四條閘門 四條排水所 團栗下水落日 團栗閘門 團栗排水所 五條閘門 五條排水所 音羽川落日	四四・一〇・三〇 四三・二・二四 四三・一・一九 四四・九・二九 四四・二・一八 四四・五・二八 四四・六・二一 四四・五・一 四四・七・一六 四四・三・一 四四・四・一五 四四・四・一八 四四・三・四 四四・四・四 四四・三・五 四三・五・一	四五・二・一五 四三・五・三一 四五・二・一五 四五・二・一〇
--	--	---	--

伏見發電所排水路及附替
同 取入水路

四四・三・一九
四四・五・八

大尾

京都市三大事業誌

第二琵琶湖疏水編

第四集

水路測量

水路測量

明治三十九年四月四日新水路開鑿事業ニ對シ京都府滋賀縣兩知事ノ許可ヲ得同月十三日市會ニ於テ水路測量工事設計費トシテ金九千六百八拾六圓ノ豫算ヲ議定セシヲ以テ第二水利部ヲ南禪寺町ナル現水利部内ニ開設シ先ツ測量班ヲ組織シ本市土木顧問田邊工學博士ヲ全線監督トナシ技師井上秀二ヲ測量主任トナシ又測量地域ヲ第一第二ニ區分シ大津蹴上間ヲ第一區トナシ蹴上伏見間ヲ第二區トナシ技師境田賢吉ヲシテ第一區ヲ分任セシメ技師中村輪ヲシテ第二區ヲ擔當セシメ技師手工數名之ニ附屬シ左ノ測量心得ニ由ツテ事業ニ從事セシム

測量心得

一 高低測量

- 第一條 高低測量ハ凡テ既設ノ水準標ニ照查スヘシ
 - 第二條 土地ノ高低ハ必ス鎖杭毎ニ測ルヘシ
- 但シ鎖杭ノ中間ト雖モ地勢ニ劇變アル箇所ハ必ス其高低ヲ測ルヘシ

測量心得

水路測量

第三條 地盤ノ高低ハ寸以下五分ニ止メ二拾三入シテ差支ナキモノトス
第四條 器械ヲ据換フルトキハ必ス既設水準基標ヨリ精細ニ照査シタル後基標ニ照
查スヘシ

第五條 假設基標ハ杭ヲ充分ニ打込ミタル上ニ釘ヲ打チタルモノ若クハ他ニ適切ナ
ル物ヲ選フヘシ

第六條 測量ノ終リニハ必ス其日ニナシタル區間ニ對シ假設基標ノミニ由リ逆ニ再
測量ヲナシ其日ノ測定ノ正否ヲ檢スヘシ

第七條 許容スヘキ誤差ハ千間ニ對シ二分以內トス

第八條 器械ハ毎日測量ニ取掛ル以前晝飯後及其日ノ業務ニ從事中ト雖モ時々正否
ヲ檢スヘシ

第九條 其日測量シタルモノニ對シテハ其夜必ス計算ヲナシ其正否ヲ檢査スヘシ

二 橫斷測量

第十條 橫斷測量ハ必ス鎖杭毎ニ之ヲ行フヘシ

但シ鎖杭ノ中間ト雖モ地勢ニ劇變アル箇所ハ必ス測量スヘキモノトス

第十一條 橫斷測量ハ中心線ノ左側ニ於テハ現在運河以外迄トシ右側ニ於テハ土地
ノ稍平坦ナル部分ニ至リテハ約十間斜面ノ處ニ於テハ其狀態ニ應シ二十回前後ト
ス

三 地形測量

第十二條 地形測量ハ凡テ中心線ニ沿ヒ其左右各約三十間以內ニ於ケル地形ヲ測ル
モノトス

但シ三十間以外ト雖モ現在運河及ヒ沿岸市有地ハ必ス包容セシムヘク且又橫斷水
路ノアル部分ハ其ノ土地ノ狀態ニ應シ廣ク測量スヘシ

第十三條 野帳ノ付方ハ正確明瞭ヲ旨トシ測量シタル日附ヲ記シ測量者ハ記名捺印
シテ他日ノ參照ニ便ナラシムヘシ

調製スヘキ表及書類

- | | |
|-----------|-----------|
| 一、曲線表 | 一、水準基標表 |
| 一、切取築立土坪表 | 一、用地表 |
| 一、買收地表 | 一、工事方法書 |
| 一、工費豫算書 | 一、各種材料數量表 |
| 一、各種器械表 | 一、各種建物表 |
- 調製スヘキ圖面
- | | |
|----------------------|------------|
| 一、平面圖(大津引水口ヨリ伏見放水口迄) | 一、縱斷面圖(同上) |
| 一、橫斷面圖(同上) | 一、用地圖(同上) |
| 一、引水口附近工事圖 | 一、制水門構造圖 |
| 一、隧道水路構造圖 | 一、築立水路構造圖 |
| 一、埋立水路構造圖 | 一、發電所附近明細圖 |

- 一、排水路構造圖
- 一、閘門堰門構造圖
- 一、用惡水路付替又ハ變更構造圖

- 一、改築水路構造圖
- 一、放水口附近工事圖
- 一、橋梁其他構造圖

圖面縮尺
平面圖

第一種 二千分ノ一 第二種 六百分ノ一

縱斷面圖

第一種 橫二千分ノ一 第二種 橫六百分ノ一

橫斷面圖

第一種 二百分ノ一 第二種 六十分ノ一

報告事項

一、日々ノ作業ハ其概要ヲ主任技師ニ報告スルモノトス

出張所位置

一、出張所ハ左ノ二ヶ所トス

大津、山科

測量擔當區域既ニ定マリタルヲ以テ同年四月二十四日大津蹴上間ノ線路實測ニ着手シ同年五月五日蹴上伏見ニ着手ス同月二十二日蹴上伏見間ノ測量成リ同二十五日大

津蹴上間ノ實測成ル又電氣事業ニ係ルモノハ技師大瀧鼎四郎ヲ以テ之レヲ測量セシメタリ確定線路左ノ如シ

- 一、自湖岸埋立水路 一、六八一尺八(二百八十間三分)
 - 一、古關隧道 八、八二六尺 (千四百七十一間)
 - 一、自古關埋立水路 一、六五三尺六(二百七十五間六分)
 - 一、同開展水路 一、一八〇尺 (三十間)
 - 一、柳山隧道 二、一五〇尺 (三百五十八間三分)
 - 一、自柳山埋立水路 九、九〇尺 (百六十五間)
 - 一、自安祥寺埋立水路 二、四三六尺 (四百〇六間)
 - 一、安祥寺隧道 二、三二八尺 (三百八十八間)
 - 一、自安祥寺埋立水路 一、一八〇尺 (三十間)
 - 一、同開展水路 七、二六尺 (百二十一間)
 - 一、黑岩隧道 三、三八尺 (五十六間三分)
 - 一、自黑岩埋立水路 二、九九四尺 (四百九十九間)
 - 一、日岡隧道 二、四八三尺四(四千〇八十間六分)
- 計 一、六四八尺八(二百七十四間八分)

明治四十五年三月三十一日工事成ルニ及ンテ更ラニ之ヲ測量セシメ即チ總間數ニ於

テ八尺ヲ短縮シタリ
一、自湖岸埋立水路

内水量取入口二二尺八制水門一八尺

一古關隧道

八、八二六尺 (千四百七十一間)

一自古關埋立水路

一、六五五尺四 (二百七十五間九分)

一同上開展水路

一八〇尺 (三十間)

一柳山隧道

二、一四九尺八 (三百五十八間三分)

一自柳山埋立水路

九九〇尺 (百六十五間)

一安祥寺隧道

二、四三六尺 (四百〇六間)

一自安祥寺埋立水路

二、五一〇尺 (四百十八間三四)

一黑岩隧道

七二六尺 (百二十一間)

一自黑岩埋立水路

三五八尺二 (五十九間七分)

一日岡隧道

二、九九五尺二 (四百九十九間二分)

計

二四、四七五尺四 (四千〇七十九間二分)

工事設計

工事設計

明治三十九年五月全線ノ測量ヲ了リタルヲ以テ直ニ製圖及設計ニ着手シ工事材料ハ
 總務課ノ分任タルヲ以テ其ノ調査ノ通知ヲ受ケ各品ノ單價ニ基キ使用數量ノ價格ヲ
 算出シ以テ全般ノ設計ヲ終リ豫算額ヲ參百七拾八萬壹千九百九拾六圓トナス内譯ハ
 用地費參拾萬貳千參百六拾壹圓水路費百八拾貳萬參千拾四圓四拾六錢發電及配電費
 百五萬五千四百五拾七圓白川附替費壹萬八千七百九拾圓材料費六萬壹千七百拾貳圓
 器具器械費拾五萬七千九百七拾參圓總係費貳拾八萬五千百拾九圓五拾七錢壹厘豫備
 費六萬八千參百貳拾四圓五拾四錢而シテ工事施行ノ順序ハ之ヲ三段ニ別チ第一ヲ用
 地ノ買收器具器械ノ購入事務所倉庫等ノ建設及工事ニ要スル電燈電力ノ送致トナシ
 第二ヲ工事ノ施行ト爲シ先ツ大津京都間ニ着手シ其ノ一部ヲ竣レハ京都伏見間ニ着
 手スルモノトシ第三ヲ發電及配電工事ト爲ス而シテ此等ノ工事ハ四十一年度ヨリ四
 十五年度ニ互リ前後五箇年ノ繼續事業ト定メ同三十九年十一月十九日市會ニ提案シ
 其ノ決定ヲ經テ同年十二月四日工事施行認可ヲ京都府滋賀縣兩知事ニ申請シ越ヘテ
 四十一年二月二十八日兩知事ノ認可ヲ得タルヲ以テ更ラニ水路課ニ於テ詳細ナル設
 計ヲ爲シ一工事毎ニ或ハ之レヲ請負ニ附シ或ハ之レヲ直營シタリ工事ノ施行ハ全線
 一萬一千五百四間ヲ五工區ニ別チ各工區ニ事務所ヲ設ケ工區長ヲ置キ所員ヲ統ヘ工
 事ヲ監督シ工務ヲ所理セシメタリ

第一工區 大津市内京都築地

自起點至二〇六鎖 二千〇六十間

第二工區 宇治郡山科村大字安朱

自二〇六鎖至三三七 鎖一千三百十間

第三工區 本市三條通蹴上

自三三七鎖至四七〇鎖 一千三百三十間

第四工區 本市鴨川筋三條南入中島町

自四七〇鎖至七六四鎖 二千九百四十間

第五工區 紀伊郡深草村大字福稻

自七六四鎖至一、一〇二鎖三千九百十八間

右ノ五工區ヲ總括スル水路課ハ即チ南禪寺町水利事務所内ニ併置シアル臨時事業部ニ屬シ其ノ幹部職員左ノ如シ

監督	顧問工學博士	田邊朔郎
水路課長(前任)	技師	井上秀二
同(後任)	同	境田賢吉
調査係	技手	長谷輔八
	同	田原宗晴
	同	河野一茂
	同	山本石馬

事務員

川島舟三

同

奈良龍太郎

技手

小林隆三

同

小島有

同

杉山藤次郎

事務員

矢島次郎

營繕係

セメント試験係

第一工區

明治四十年四月二日市參事會ニ於テ第一工區事務所ヲ大津市京都築地ニ建築ノ議ヲ決シ同年五月八日落成セシヲ以テ直ニ事務ヲ開始シ技師大杉齡次ヲ以テ工區長トナシ其他事務員技手工手等ヲ配置セリ

第一工區長

技師 大杉 齡 次

事務員 橋本 忠 一 郎

技 手 妻 鹿 源 藏

同 山 口 義 彦

同 嵯 峨 山 高 之 助

同 黒 川 賢 二

同 高 橋 鎮 雄

同 千 田 益 夫

第一工區ノ分擔事業ハ水路ノ堀鑿及ヒ構築ニシテ内湖岸ヨリ隧道東口迄二百八十間三分隧道千四百七十一間隧道以西二百十間開展水路三十間ト及防波堤百二十間湖中浚渫百間大津北保町地先埋立并大津市西部飲料水補給工事其他附屬工事ニシテ施工位置ノ順序左ノ如シ

一 防波堤築造 百二十間

一 湖中浚渫 百間

一 大津北保町地先埋立 一千六十三坪

一 古關隧道以東湖岸迄埋立水路二百八十間三分

一 制水閘門

一 古關隧道 一千四百七十一間

一 同隧道以西埋立水路 二百十間

一 山科開展水路 三十間

一 大津市西部飲料水補給工事

一 附屬工事

第一工區ノ分擔ニ係ル工事ノ種類ハ前記ノ如クニシテ就中古關隧道開鑿工事ヲ以テ主眼トナス近時各地ニ開鑿セシ隧道ハ頗ル長距離ノモノアリト雖モ今ヨリ二十七年前ニ於テ穿キタル第一疏水工事ニ係ル古關隧道ハ其當時人皆其成功ヲ疑ヘリ幸ニシテ距離ニ於テ長短ヲ愆ラス方位ニ於テ上下左右ヲ差ヘス美事ニ成功シタリシヲ以テ初メテ世上ノ疑團ヲ解キタリシ今ヤ學問技術大ニ進歩セント雖モ一千有餘間ノ隧道ヲ無事ニ貫通セシムルハ亦容易ナル事業ニ非サルナリ是ヲ以テ全線一萬又餘間ノ内此隧道ヲ以テ第一ノ難關トナシ第一工區ニ於テハ此ノ隧道工事ヲ首位ニ置キ此ノ東西ニ接續スベキ埋立水路ノ如キハ此ノ隧道工事ニ附隨セシメ且湖中ニ築造スベキ防波堤ノ如キモ此ノ隧道中ヨリ堀出シタル土石ヲ以テ埋立材料ニ使用スルコト、ナシタルヲ以テ工事ノ施行ニ自然ノ聯絡ヲ生シ相離ルヘカテサル

事トナリタリ是ヲ以テ工事ヲ請負入札ニ付スルニ及ソテ亦之レヲ連關事業トナシ
タリ今本編ヲ編纂スルニ當リ工事執行ノ位置ニ從ヒ湖中防波堤次ニ湖中浚渫次ニ
埋立水路次ニ隧道工事トナセシト雖トモ請負契約ニ至ツテハ隧道工事ノ契約中ニ
包括シアル爲メ今之ヲ分離スルコト能ハス是レ編者ノ以テ遺憾トナス所タリト雖
トモ亦己ムヲ得サルモノナリ讀者諒焉

大津市三保崎防波堤築
造工事

大津三保崎防波堤築造工事

第二疏水路ハ第一疏水路ノ北ニ沿ヒ起點ヲ大津市北保町地先湖中百間ノ所ニ取レリ
此ノ邊總テ三保崎ト稱ス水路ノ位置ハ南ニ京都築地第一疏水工事ノ時水路ヲ築シテ
ノ下第一築地ト稱シ南ニ在ルモノナリ第二築地第二疏水工事ノ時水路ヲ築シテ
地下稱セリ是レ京都築地ノ稱アル所以ナリヲ扣ヘ北ニ觀音崎突出シ一小灣ヲナセト
モ此邊一帶水淺ク泥深ク東北風起レハ濁浪岸ヲ打チ且降雨毎ニ陸上ノ汚水流入スル
ヲ以テ陸上及湖中ニ向ツテ豫防工事ヲ施サ、ルヘカラス第一疏水築地ハ水中ニ沈床
工ヲ施シ以テ基礎トナシタレトモ埋立工事ノ進ムニ從ツテ土石ノ重量漸ク加ハリ遂
ニ東朶ノ連絡ヲ保ツコト能ハサルニ至リタリ本築堤ハ第一築地ニ比スレハ長ニ二十
間ヲ加フレトモ申ハ滋賀縣ノ命令ニ依ツテ五間ニ短縮セサルヲ得サリシヲ以テ地盤
ノ築造ハ其ノ軌ヲ同フスルコト能ハス故ニ湖中ニ多數ノ塊石ヲ投シ堅牢ナル基礎ヲ
造リ礎上築クニ石垣ヲ以テセリ石堤築造ハ位置ニ於テ多少異ナリ石材ノ長短亦同シ
カラサリシ

本工事ニ對スル當初ノ豫算額ハ壹萬八千九百貳拾六圓九拾五錢タリシモ其ノ後防波
堤ノ北部ニ接續シテ大津市ノ爲メニ新ニ一千餘坪ノ湖面ヲ埋立ツルコトニ決セシ爲
メ四千貳拾六圓五拾四錢貳厘ヲ節シ得ルヲ以テ更ラニ市參事會ノ議ヲ經テ左ノ通り
豫算ヲ變更シタリ

一金一八、九二六圓九五錢九
金一四、九〇〇圓四一錢六

前 豫 算
後 豫 算

差四、〇二六圓五四錢二

内

一五、七七七圓四八錢一

一二、四九八圓一九錢五

差三、二七九圓二八錢六

内

二、五八二圓〇四錢六

一、九七八圓六九錢九

差六、〇三圓三四錢七

五六七圓四三錢二

四三二圓五二錢二

差一、四三圓九一錢

減少額

前材料費

後材料費

減少額

前請負額

後請負額

減少額

前直營額

後直營額

減少額

本工事ハ古關隧道堀鑿ノ土石ヲ埋立ノ材料ニ供セシテ以テ便宜上該工事請負人石本健次郎ヲシテ俱ニ之ヲ請負シメ明治四十二年八月二十六日隧道工事ト同時ニ着手シ同四十五年三月三十一日竣工シタリ此間九百四十八日請負契約ハ古關隧道ノ部ニ載ス

京都市築地石垣工事仕様書

一、築地石垣ハ石垣断面圖ニ示ス如ク二種ニ別テ尙之ヲ細別スルコト左ノ如シ

一、捨石基礎ニ造ル石垣 捨石及打留杭ハ市ニ於テ直營施行スルヲ以テ請負人ハ之ヲ基礎トシテ石垣ヲ構築スルモノトス

一、第一種 法高二間一分裏込平均厚四分石空積トス

一、第四種 法高二間二分四厘裏込平均厚四分石空積トス

一、第六種 法高一間半裏込平均四分石空積トス

一、第七種 同上

一、地盤上ニ造ル石垣 土臺木ヲ掘付之ヲ基礎トシテ石垣ヲ構築スルモノトス

一、第一種 法高二間一分裏込平均四分石空積トシ基礎ハ算盤胴木横横止トシ尺毎ニ止杭打ヲ施スモノトス

一、第三種 法高六尺裏込平均厚二分石空積トシ基礎ハ一本胴木止杭打トス

一、第五種 法高四尺二寸裏込平均厚二分石空積トシ基礎ハ一本胴木止杭打トス

一、第八種 法高五尺裏込平均厚二分石空積トシ基礎ハ一本胴木止杭打トス

一、第九種 法高一間半裏込平均厚四分石空積トシ基礎ハ算盤胴木横横止トシ三尺毎ニ止杭打ヲ施スモノトス

一、溝石垣 法高四尺八寸裏込平均厚二分基礎ハ一本胴木止杭打トシ溝底巾二尺五寸ハ張石積トス

一、古石垣ハ取壊ノ後一定ノ場所ニ運搬スルモノトス

一、古石垣ハ取壊ノ後一定ノ場所ニ運搬スルモノトス

一、工事ノ仕方ハ臨時事業部水路課工事仕様書ニ準據スルモノトス

工事竣成検査報告

工檢第一一號 明治四十五年四月二十六日

施工ノ場所 大津市三保崎北部湖面

工事ノ種類 京都市築地

工 費 金一、九五一圓二四錢

請 負 人 西本健次郎

竣成期間 自明治四十二年八月二十六日至同四十五年二月二十一日 二年二百十

八日

竣成年月日 明治四十五年三月三十一日

検査ノ成蹟 設計ノ通

大津市北保町地先埋立工事

大津市埋立工事トハ該市西部飲料水補給事件ニ附帶シテ起リタルモノニシテ(第三集ニ詳記セリ)該市ヨリ本市ニ對シテ北保町地先ニ於テ約一千餘坪ノ新地ヲ設ケ無償ニテ交附セラレノコトヲ交渉シ來リ而シテ飲料水事件ハ第一疏水起工以來ノ懸案ニシテ第二疏水起工ニ際シテハ該件ヲ解決セサルヘカラサル場合ニ至リ此ノ埋立地ハ其一條件タルヲ以テ遂ニ市會ノ決議ヲ經テ之ヲ承諾シ茲ニ一千餘坪ヲ埋立テ之ヲ大津市ニ交附スルコトニ決定セリ

一、工費金六五五七圓二四錢 總 額

内

材料費 四五五二圓六二錢 直 營

工 費 二〇〇四圓六二錢

内

直營工費 二三四圓九〇錢

請負工費 一七六九圓七二錢

此ノ埔立地ニ係ル工事施行方法ハ材料ノ全部及工費ノ内打止杭ハ直營トナシ其他ノ工費一切ハ請負ニ付ス而シテ前掲ノ築堤工事ニ連關スルヲ以テ該工事請負人タル西本健次郎ニ前契約ヲ變更且追加シテ請負ハシメタリ

變更及追加工事請負契約書

明治四十二年三月二十二日契約ノ分

一大津三保崎築地北部湖面

三保崎築地埋立工事

此請負金貳千貳百六拾四圓參拾五錢

竣工期限 明治四十五年三月二十一日

右契約ヲ左ノ通變更ス

一大津三保崎防波堤築造工事

此請負金千九百五拾壹圓貳拾四錢

竣工期限 明治四十五年三月三十一日

追加工事ノ分

一大津市北保町及同地先湖面

大津市築地埋立及溝渠改築工事

此請負金九百八拾壹圓拾七錢

竣工期限 明治四十五年三月三十一日

右變更追加工事請負金

合計金貳千九百參拾貳圓四拾壹錢

差引增加金額六百六拾八圓六錢

此增加額ニ對スル契約保證金六拾七圓也

右金額ヲ以テ變更及追加工事請負仕候ニ就テハ明治四十二年一月二十五日京都市公
告第六號工事施行規程及同年三月二十二日締結セシ契約事項ヲ遵守シ且設計書仕樣
書圖面ノ通期限內ニハ必ラス竣工可致仍テ内譯書相添契約書差出候也

和歌山縣和歌山市小野町三丁目三十番地
請負人西本健次郎代理
西本 良 吉

明治四十二年九月二十六日
京都市參事會
京都市長 西鄉菊次郎殿

防波堤築造請負工事費新舊比較表

工 種	單 價	舊		新	
		數 量	金 額	數 量	金 額
第一種 石垣甲	三・八五〇〇〇	二八・五六	一〇九・九五六	二八・五六	一〇九・九五六
第二種 同 丁乙丙	三・四七〇〇〇	四六五・三六	一、六一四・七九九	二九八・四一	一、〇三五・四八三
第三種 同 戊	二・三七〇〇〇	一四・五〇	三四・三六五		
第四種 増築同	三・四七〇〇〇	一四五・六〇	五〇五・二三二	一四五・六〇	五〇五・二三二
第五種 石 垣	二・三七〇〇〇			五二・七八	一二五・〇八九
石垣取毀	一・三二一五二			五六・〇九	七四・一二四

第八種 石垣	三・一六四七五		三三・八三	一〇七・二二三
第九種 同	三・四一四五〇		六・三三	二一・五八〇
計		二、二六四・三五二		一、九七八・六九九

大津市築地及溝渠改築請負見積内譯

種類	數量	單位	單位	金額	備考
第三種 石垣	三九・九〇	面坪	二・三〇〇	九一・七七〇	
第六種 同	一六五・九〇	同	三・四〇〇	五六四・〇六〇	
第七種 同	四七・四〇	同	三・四二一	一六二・一八〇	
溝渠取毀	二九・二〇	同	一・二〇〇	三五・〇四〇	
同上付替	三八・五〇	同	二・八五〇	一〇九・七二七	
北保町附近 暗渠(溝渠) 附替	二・〇〇	同	九・二〇〇	一八・四〇〇	
計				九八一・一七七	蓋石切手間ヲ除ク

本埋立地ハ湖中ニ斗出シ東北西ノ三面ハ堅牢ナル石壁ヲ築キ南部ハ則チ防波堤ニ接續セリ且新ニ北保町ヨリ道路ヲ開キ此ニ通シタリ工事ハ明治四十二年八月二十六日古關隧道堀鑿ノ土砂ヲ以テ埋立ニ着手セント雖トモ竣工ハ隧道成功ノ日ヲ待タサルヘカラス故ニ九百八十八日ヲ閱シ同四十五年三月三十一日初メテ終結シタリ埋立面

工檢第二號

積ハ道路ヲ併セテ一千〇六十三坪トナス同年七月之ヲ大津市交付シタリ
 工事竣成検査報告

工檢第一二號 明治四五年四月二十六日
 施工ノ場所 大津市三保崎北部湖面
 工事ノ種類 大津市築地
 工費 金九八一圓一七錢五
 請負人 西本健次郎
 竣成期間 自明治四二年八月二六日至同四五年三月三十一日 二年二一八日間
 竣成年月日 明治四十五年三月三十一日
 検査ノ成績 設計ノ通

湖中浚渫工事

本水路取入口ハ起點ヲ天津市北國町ノ水陸分界點ニ取レリ此レ即チ第一疏水工事ノ時築造シタル京都築地ノ北隣ニシテ所謂三保崎ノ一部ナリ此ノ地方ハ戶口離落泊舟稀ナリト雖モ降雨毎ニ陸上ノ土砂ハ雨水ニ隨テ湖中ニ入り湖上ノ泛藻浮萍ハ東北風ノ爲メ茲ニ漂着シ漸次遠淺ノ形ヲナシタルヲ以テ豫定ノ水量ヲ引カントスレハ必ラズ浚渫工事ヲ施サ、ルヘカラス明治四十四年四月浚渫土積其他ノ設計ヲ爲シ同月二十一日市參事會ニ於テ先年購入シ浚渫船ヲ以テ從事スルコトニ定メ左ノ費用ヲ決シ工區長直轄ノ下ニ同月二十五日ヨリ之ヲ營ミタリ

一 工費金四、九七七圓四六錢

總額

内

四二七七圓四六錢

工費

七〇〇圓

雜費

浚渫土砂

一、〇六九坪三六五

一坪ニ付四圓

浚渫坪數計算表

断面番號	距	離	断面坪	平均断面坪	断面間坪數	累加坪數
九		一	四四、五〇〇	〇	〇	〇

六五		五	四、〇四四	四、三九七	二一、九八五	九九七、四三七
六〇		五	四、七五〇	五、一二五	二五、六二五	九七五、四五二
五五		五	五、五〇〇	五、八六七	二九、三三五	九四九、八二七
五〇		五	六、二三三	七、〇〇二	三五、〇一〇	九二〇、四九二
四五		五	七、七七二	八、四九七	四二、四八五	八八五、四八二
四〇		五	九、二二三	一〇、二九九	五一、四九五	八四二、九九七
三五		五	一一、三七五	一二、四二九	六一、一四五	七九一、五〇二
三〇		五	一三、四八三	一〇、五〇七	七一、五三五	七二九、五五七
二五		五	一五、五三一	一八、二〇八	九一、〇四〇	六五六、八二二
二〇		五	二〇、八八五	二四、二八〇	一一一、四〇〇	五六五、七八二
一五		五	二七、六七四	二九、六四七	一四八、三七〇	四四四、三八二
一〇		一	三一、六七四	三六、一〇六	一八四、一八一	二九六、〇一一
九		一	二七、六七四	二九、六四七	一四八、三七〇	四四四、三八二
一〇		一	四二、八六七	四四、〇六一	二二一、四〇〇	五六五、七八二
一一		一	四二、二六一	四二、五六四	一四八、一八一	四二二、〇四二
一二		一	四一、八二三	四二、〇四二	一四八、一八一	二八七、二二五
一三		一	四〇、五三八	四一、一八一	一四八、一八一	二五九、九〇六
一四		一	三一、六七四	三六、一〇六	一四八、一八一	二九六、〇一一
一五		一	二七、六七四	二九、六四七	一四八、一八一	四四四、三八二
二〇		五	二〇、八八五	二四、二八〇	一一一、四〇〇	五六五、七八二
二五		五	一五、五三一	一八、二〇八	九一、〇四〇	六五六、八二二
三〇		五	一三、四八三	一〇、五〇七	七一、五三五	七二九、五五七
三五		五	一一、三七五	一二、四二九	六一、一四五	七九一、五〇二
四〇		五	九、二二三	一〇、二九九	五一、四九五	八四二、九九七
四五		五	七、七七二	八、四九七	四二、四八五	八八五、四八二
五〇		五	六、二三三	七、〇〇二	三五、〇一〇	九二〇、四九二
五五		五	五、五〇〇	五、八六七	二九、三三五	九四九、八二七
六〇		五	四、七五〇	五、一二五	二五、六二五	九七五、四五二
六五		五	四、〇四四	四、三九七	二一、九八五	九九七、四三七

七〇	五	三、四四四	三、七四四	一八、七八〇	一、〇一六、一五七
七五	五	二、七三三	三、〇八九	一五、四四五	一、〇三一、六〇二
八〇	五	二、二二二	二、四七八	一二、三九〇	一、〇四五、九九二
八五	五	一、六六七	一、九四五	九、七二五	一、〇五三、七一七
九〇	五	一、二一七	一、四四二	七、二一〇	一、〇六〇、九二七
九五	五	七五六	九八七	四、九三五	一、〇六五、八六二
一〇〇	五	三四四	五五〇	二、七五〇	一、〇六八、六一二
一〇四、三七五	四、三七五	〇	一七二	七五〇	一、〇六九、三六五

本工事ハ陸上工事ト題テ異ニシテ浚渫船ニ由リ攪拌器ヲ使用シ水底ノ土砂ヲ浚渫スルヲ以テ地質ノ硬軟ニ由ツテ著シク工程ニ影響ス然レトモ此邊ノ地質概シテ軟柔ニシテ攪拌器ノ使用ニ適セシヲ以テ成績頗ル良好ナリシ其以前該器ヲ以テ南禪寺船溜以西ノ運河ヲ浚渫セシモノニ比スレハ同日ノ論ニ非ラサリキ操業ハ明治四十四年五月二十六日着手シ同四十五年三月三十一日竣工セリ此ノ間三百日以上ヲ費セシト雖トモ湖畔一帶ハ三冬ニ至レハ氣候急變降雨霏々六花粉々湖中一隻ノ漁舟ナク一片ノ白帆ナシ從ツテ運送船集ラス浚渫土砂運搬ニ由シナク己ムヲ得ス臨時休業セシコト亦尠カラサリシ

水量取入口

水路ノ起點ハ湖中百間ノ所ニ在レトモ水量取入口ハ水陸分界點即大津北保町ニ在リ茲ニ水門ヲ設ケ之レニ由ツテ一秒時五百五十立方尺ノ水ヲ引用セリ水路ノ下底ハ之レヲ舊水路ニ比スレハ低キコト七尺ナリトス
取入口ハ其ノ形狀及斷面ハ隧道其他埋立水路ト異ナラサレトモ位置ノ極メテ緊要ナル爲メ特別ノ構造ヲ施セリ此ノ部分ヲ二十二尺トナス
工事ハ現在地盤ヨリ以下二十八尺迄ヲ掘下ケ茲ニ長二十六尺四寸巾三十八尺ヲ畫シテ之レヲ水門地盤トナシ此ノ間ニ於テ二尺ノ間隔ヲ以テ長十二尺末口六寸ノ松丸太ヲ打込ミ其間ニ塊石ヲ投入レ又其ノ間隙ヲ填ムルニ砂礫ヲ以テシ更ラニ其上ニ厚二尺五寸ノコンクリートヲ施シ以テ地盤ヲ構造セリ
此ノ新造地盤ヨリ地皮迄ハ二十五尺五寸ナルヲ以テ水門位置ヲ隔テ、煉瓦及コンクリートヲ以テ左右ニ側壁ヲ築キタリ之レヲ八層ニ分チ最下層ハ巾八尺厚ヲ四尺トナシ以上一層毎ニ巾ヲ七尺厚ヲ三尺トナシ最上層ニ至ツテ巾ヲ三尺厚ヲ三尺五寸トナセリ
水門ハ兩壁ノ中央ニ築キ總テ石材ヲ用フ此ノ部分高十三尺五寸巾十三尺長二十二尺通水後八十尺ノ水深ヲ保チ水上ニ三尺五寸ノ空位ヲ存ス而シテ此ノ水量取入口ヨリ三條蹴上日岡隧道ニ至ルノ間山科ニ於ケル一ヶ所ノ檢査所長三十間ヲ除ク外悉皆同一ノ斷面トナス

扁額 取入口ノ上部ニ一ノ扁額ヲ掲ク一尺五寸幅六尺裕撰ノ花崗石ヲ用フ而ニハ
 久邇宮殿下ヨリ下賜セラレタル萬物資始ノ四大字ヲ刻シ以テ事業ノ本源タル意ヲ表
 示セリ而シテ其ノ上部及左右ニハ磚石ノ欄壁ヲ設ケ觀リニ人ノ接近スルヲ防キタリ
 門扉 此ノ水量取入口ニ一個ノ鐵製門扉ヲ設ク此レ京都府滋賀縣兩知事カ本事業起
 工ニ對シテ許可シタル條件ノ一ナリ然レトモ其實用果シテ何ノ日ニ在ルヤ知ルヘカ
 ラス

鐵製塵除 水門ノ外部即チ湖ニ面シタル所ニ鐵製ノ塵除柵ヲ設ケ以テ湖ヨリ流入ス
 ル浮萍泛艸ヲ防ク柵ノ高サ十八尺六寸巾十三尺柵條十三一條ノ巾ハ四吋ニシテ厚ハ
 二分ノ一時トナシ條間ヲ一尺トナス
 一工費豫算金一七二九六圓一五錢 總額

- 內
- 八六一一圓〇八錢五 材料費
 - 八一八五圓〇六錢五 工費
 - 五〇〇圓 雜費

明治四十四年五月二十六日直營ヲ以テ工事ニ着手シ翌四十五年三月三十一日竣工セ
 リ此ノ間日ヲ關スルコト約三百日トナス

大津制水門

明治四十四年三月十四日大津制水門工事ニ着手ス是ヨリ先キ水門地盤及之レニ接續
 スル水路ノ堀鑿及埋立等ハ隧道請負人西本健次郎ニ請負ハシメントセシモ同人之ヲ
 辭セシヲ以テ遂ニ直營ニ決定シタリ

本門ノ位置ハ測點第二十七鎖八十節ト同二十八鎖三十節トノ間ニ在リ長十八尺水門
 ハ英國ランサム、ラピア會社ノ製造ニ係ルストニ一式ニシテ門ノ高ハ十三呎六吋ニ
 シテ巾ハ水路ノ巾ト同一ニシテ十三呎トナス門扉ノ昇程ハ十三呎六吋ナルヲ以テ開
 扉ノトキハ殆ント二十七呎二吋ノ高サニ達ス材料ハ總テ鋼鐵ニシテ頗ル堅牢ヲ極ム
 門上ニ機ヲ設ケ門扉ノ昇降ハ是ニ依テ之ヲ爲スヲ以テ甚ク自由ナリ假令一方ニ全水
 量ノ壓力ヲ受クルモ之ヲ開闔スルニ隻手ノ力ニ過キス實ニ輕便ニシテ簡捷ナリ
 水門位置ノ地質ハ粘土ニシテ岩石ナラサルヲ以テ基礎ヲ構造スルニ當リ地中四尺ヲ
 隔テ、末口六寸長十二尺松丸太七十六本ヲ打込ミ栗石ヲ其ノ間ニ填充シ又其ノ間隙
 ニハ砂礫ヲ密充シ之ヲ撃チ之ヲ突キ以テ凹凸ナカラシメ然ル後其ノ上ニ厚二尺ノ混
 凝土ヲ敷キ以テ一大盤石ヲ作り以テ基礎工事ヲ終リ左右ハ堅磚ヲ以テ側壁ヲ築キ壁
 隅ハ花崗石ヲ用フ左右壁ノ外部ハ總テ混凝土ヲ以テ階段狀ニ築キ初段ノ高五尺次ハ
 四尺次ハ六尺次ハ七尺次ハ五尺八寸合計二十七尺八寸厚サハ初段ヲ五尺トナシ一段
 ヲ昇ル毎ニ一尺ヲ減シ最高段ニ於テ一尺トナス
 操業ノ當時ハ梅雨ノ季節ニ係リ且ツ此ノ位置ハ第一疏水閘門ヲ距ルコト僅ニ十間ニ

シテ該水路ノ水ハ自然ニ地層ヲ潜リ堀鑿セシ窪所ニ滯溜シ且他ノ地下水モ悉ク茲ニ湧出スルヲ以テ堀鑿中ハ脚筒ヲ以テ屏水ヲ絶タサリシモ屢々危険ニ遭遇セリ監督以下十分ノ注意豫防ヲ以テ漸ク無事ニ竣功セシメタリ本工事ニ對シ臨時事業委員ニ諮問シ市參事會ノ決議ヲ經テ決定セリ

一 工費金六、二九五圓一九錢

總額

內

材料費 三五〇九圓七〇錢

工費 二、四八五圓四九錢

直管額 一九三一圓三〇錢

請負額 五五四圓一九錢

雜費 三〇〇圓

本工事ハ明治四十四年三月二十八日着手シ同四十五年三月三十一日竣工セリ

一 ストニー式制水門購入 明治四十二年九月二十八日市參事會ノ議ヲ經テ「ストニー式水門」ヲ採用スルコトニ決シ之ヲ英國倫敦市セームスモリソン會社ニ定約シ左ノ契約書ヲ徵シタリ

物品供給契約書

英國ランサム、ラヒー、ア、會社製

ストニー式制水門門牌入

一 ストニー式制水門中十三呎高十三呎六寸一組

但別紙仕様書ノ通り

此供給代金六千五百九圓也

納入場所 滋賀縣大津市鹿關町京都市水利部出張所構内

引渡期限 契約ノ日ヨリ七ヶ月以内

右金額ヲ以テ前記ノ物品供給ヲ引受候ニ就テハ明治四十二年一月二十五日京都市公告第六號工事施行規程ヲ遵守シ別紙仕様書圖面并ニ追加契約事項ノ通期限内ニハ必ラス引渡可致依テ仕様書相添へ契約書差出候也

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地

セームスモリソン有限責任會社

代表者 ヴィサングイネツチ代

大阪市東區大川町二十六番地

石田美喜藏

明治四十二年十一月二十日

京都市參事會

西郷菊次郎殿

追加契約事項

第一條 市ハ供給入場所ニ使用材料目錄ニ適合スル諸材料ノ納入完了セリト認ムル時供給入場所ノ代金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ノ支拂ヲ受クルモノ

トス

第二條 供給入カ物品ノ完納ヲナシタルトキハ市ハ制水門ヲ組立テ其構造及運轉等カ本仕様書ニ適合セリト認ムル時供給入ハ前項代金ノ殘額ノ支拂ヲ受クルモノトス

第三條 市カ制水門ノ構造運轉等ニ不適合ノ點ヲ發見シタルトキハ供給入ハ自己ノ費用ヲ以テ直チニ之レヲ改造スルカ若クハ相當ノ設備ヲナスヘキモノトス

制水門仕様書

- 一、本制水門ハ幅十三呎高十三呎六吋ノ水路ヲ十分ニ開閉スル目的ニ使用セラル、者ニシテ其昇程十三呎六吋トス
- 二、制水門兩側ノ水位ハ上流ニテハ二十六呎六吋下流ニテ零呎トス
- 三、制水門ハ前條ノ水頭ニ依テ生スル壓力ニ對シテ十分ノ強力ヲ有シ且全閉ノ際上下左右總テノ部分ニ於テ十分ニ漏水ヲ防ク裝置ヲ施スモノトス
- 四、門扉ハ轉子及平均重量ヲ用ヒテ十分ニ摩擦減殺裝置ヲ附シ全壓力ノ下ニテ一人ノ力ヲ以テ容易ニ全開シ得ルモノタルヘシ
- 五、制水門ハ制水門井内ニ取付ケラル、モノニシテ井ノ深サハ三十一呎零五トス
- 門扉昇降傳輪機ハ其ノ最上部ニ於テI形桁ニ取付ケラレ鋼鐵製鎖ヲ以テ門扉ヲ支持ス
- 六、傳輪機ニハ「ウォーム」及「ウォームホイール」ヲ使用スヘカラス任意ノ位置任意ノ高サニ

門扉ヲ支持シ得ヘキ裝置ヲナシ置クモノトス

七、制水門井ノ上ニハ門扉支持鎖ノ通過ニ必要ナル部分ヲ除キ全部ヲ取除キ自在ノ模様入鋼鐵製覆ヲ取付クルモノトス

八、供給入ハ制水門ヲ構造スル一切ノ金屬材料及其ノ開閉運動ヲ要スル一切ノ機械器具并ニ附屬品ヲ供給スルモノトス

九、諸材料ハ其種ノ最良品種ヲ使用シ總テノ接合表面ハ十分ニ仕上ヲナシ總テノ穴ハ鑽孔機ヲ用ヒテ打抜セサルモノトス

十、組立ニ要スル「リベット」「ボルト」ハ總數ノ一割ノ豫備ヲ附屬セシムルモノトス

十一、供給入ハ別紙圖面ニ對照シ一切ノ組立及使用材料目錄ヲ作製シ當該主任技師者ノ承認ヲ受クヘシ但製造設計上ニ於テ必要ナルトキハ圖面寸法ノ變改ヲナスコトヲ得

一、制水門上屋根工事 木造瓦葺一棟

請負工費貳百五拾六圓

制水門ハ水量調整ノ樞器ニシテ水路保護ノ要具ナリ其ノ全體ハ地中ニ隱在シ僅カニ捲上機械ノ頭部ノミヲ地上ニ露出セリ茲ニ上屋ヲ構ヘ番人ヲ置キ以テ外物ノ接觸ヲ防キ且機械ノ操縦ニ便ナラシメタリ工事ハ明治四十五年一月十一日建築請負業者四名ヲシテ工費ヲ入札セシメシニ山本百太郎最低廉ナルヲ以テ同人ニ請負ハサシメ同月十三日工事ニ着手シ翌二月十一日契約期日則チ三十日間ヲ以テ落成シ同十五日檢

古關隧道以東水路工事

古關隧道以東ニ於ケル埋立水路ハ湖岸三保崎ニ至ル迄ヲ二百八十間三分トナス此ノ間ニ第一疏水閘門ノ北都ニ併設スル制水門アリ而シテ湖岸ヨリ隧道ニ至ルマテ此ノ制水門ヲ除ク外ハ悉ク埋立水路タルヲ以テ成工後ノ今日ニ在ツテハ其ノ實相ヲ目撃スルコト能ハス

此ノ二百八十間餘ノ水路工事タルヤ距離ニ於テハ甚ダ長カラスト雖トモ工事ノ施行ハ頗ル困難ナリキ新水路ノ位置タル湖面常水位ヨリ卑キコト七尺又南ニ併行スル舊水路ノ水庭ヨリ卑キコト七尺故ニ河底掘鑿ノ間ハ湧水多量ナルノミナラス元來此ノ間ハ大津市街ナリト雖トモ傾斜ノ度甚シク降雨ニ際スレハ長等山一帶ハ殆ント此ノ水路ノ流域タルカ似シ雨水ハ集滯シテ掘鑿ノ低地ニ溜溜セントス又此地方ハ大阪海面ヨリ高キコト殆ント三百尺ナルヲ以テ之ヲ伏見地方ニ比スレハ返塞ノ度高ク一二月ノ交ハセメント工事ヲ施スコト能ハサルコトアリ而シテ水路ハ大津市街ヲ通過セシ爲メ買收地ノ外ハ尺地ノ以テ使用スヘキ餘裕ナシ加之此ノ部落ニ對スル飲料水ノ關係アリシト及行政管轄ヲ異ニセシ爲メ種々ナル交渉條件亦鮮トセス是等ハ局外者ノ窺ヒ得サル所ニシテ工事上ニ係ル無形ノ困難ナリシモノナリ

水路開鑿ハ豫メ地盤ヲ上層下層ニ別ケ之ヲ掘鑿工事ト名付ケ開鑿ノ後成形工ヲ施スモノヲ構築工事ト稱ス掘鑿工事ハ專ラ隧道請負人西本健次郎ニ請負ハシメ構築

工事ハ工區長監督ノ下ニ直營シタルモノアリ又請負ニ付シタルモノアレトモ其ノ材料ハ悉ク購買シテ之ヲ支給シタリ此ノ堀鑿及構築ノ場處ハ之ヲ數ケ所ニ別チ時ニ應シ機ニ臨ミ施行シタルヲ以テ線路ノ順序ト施行ノ年月ト相前後セシモノアリ或ハ一區域ヲ數ケ所ニ別チ是レカ堀鑿ヲ請負ハシメ其ノ成ルニ及ンテ之ヲ一括シテ構築工事ヲ施シタルモノアリ故ニ單ニ鎖節ノ標榜ニ依ルトキハ一見了解ニ苦ムモノアリト雖トモ此等ハ皆地形ニ應シタル臨機ノ處置ナリ左ニ請負ト直營トノ區別ヲ示ス

- 一自一一鎖至二七鎖八〇節 延長百六十八間 堀鑿構築工事
- 右明治四十四年二月直營
- 一自二七鎖八〇節至二八鎖八〇節 延長十間 制水門前後水路構造工事
- 右明治四十四年二月直營
- 一自二八鎖三〇節至三七鎖七〇節 延長九十四間 構築工事
- 右明治四十二年六月直營
- 一自五一鎖至二二鎖 延長七十間 堀鑿增加工事
- 右明治四十二年七月西本健次郎請負
- 一自二二鎖至三八鎖八一節・延長百六十八間一分 堀鑿工事
- 右明治四十二年三月隧道工事ニ連帶シテ西本健次郎ニ請負ハシム
- 一自二二鎖至三八鎖八一節 延長百六十八間一分 堀鑿增加工事

自一一鎖至二七鎖八〇節水路工事

右明治四十二年七月西本健次郎請負ハシム

○ 自一一鎖至二七鎖八〇節水路工事

明治四十二年二月四日大津市測點十一鎖ヨリ二十七鎖八十節ニ至ル延長百六十八間ノ水路工事ヲ決タリ

一工費金四〇、九二四圓一一錢

總額

内

二一、八〇一圓二二錢

直營額

一八、八二二圓八九錢

請負額

内

五、一六一圓八〇錢

直營額

一三、六六一圓〇九錢

請負額

三〇〇圓

雜費

直營工費内譯表

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	金額	單價	金額	
水路構築	一六八・〇〇	二六・七九	三、〇一・二二四	三〇・七二五	五、一六一・八〇〇	四六三・〇二四

矢板補足	四四六・〇〇	五〇〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇
小計	二、八〇一・三三四	五、一六一・八〇〇	二六、九六三・〇二四
雜費	二、八〇一・三三四	三〇〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇
合計	二、八〇一・三三四	五、四六一・八〇〇	二七、二六三・〇二四

請負工費内譯表

堀 鑿	二、六〇五・八四	三、五〇〇	九、二〇・四四〇	九、二〇・四四〇
埋 戻	二、五一・三五	一、〇〇〇	二、五一・三五〇	二、五一・三五〇
矢板取付及取除	四四六・〇〇	四・五五〇	二、〇二九・三〇〇	二、〇二九・三〇〇
合計	四四六・〇〇	一三、六六一・〇九〇	一三、六六一・〇九〇	一三、六六一・〇九〇

此ノ十一鎮ナル地點ハ即チ水陸分界點ニシテ水路ノ咽喉タルヲ以テ工事施行ノ期日ハ本點以西ノ工事殆ント全成ヲ告クルニアラサレハ着手スルコト能ハス故ニ此ノ十一鎮ヨリ二十七鎮八十節ニ至ル延長百六十八間ハ最後ニ於テ施行シタリ而シテ此ノ間ハ大津市街中北國ニ通スル要路ナルト又一方ニハ湖水ノ侵入ヲ防止スル爲メ湖口ニ堰止工事ヲ施シ充分ナル豫防ヲ爲サ、ル可カラサルヲ以テ距離ニ於テハ長シト爲サ、ルモ現業ニ至ツテハ頗ル困難ニシテ且煩累ヲ極メタリ

本工事ハ明治四十二年二月四日地盤ノ堀鑿ヲ請負ニ附シ水路ノ構築ハ直營スヘキ目

自測點一五鎮至二二鎮
及自二二鎮至三八鎮八
一節水路開鑿增加工事

的ヲ以テ市參事會ニ於テ決定セシニ其後現業ニ着手セントスルニ際シ此邊一帶ハ人家稠密往來頻繁ニシテ工夫ノ使役其他ノ煩累ハ山間ニ於ケル工事ニ數倍スルヲ以テ一人トシテ請負ヲ希望スルモノナク荳蔞久物價ハ却ツテ騰貴シ當初ノ豫算額四萬〇九百貳拾四圓拾壹錢ニテ竣工セシムルコト能ハス四十四年十一月二十六日更ニ壹千五百八拾七圓五拾錢ヲ増シ又四十五年一月五拾八圓拾九錢及同年三月十五日拾九圓五拾錢ヲ加ヘ同三月二十八日遂ニ五千六百拾九圓四拾六錢ヲ追加スルニ至リタリ現業ハ明治四十四年六月十一日直營工事トシテ着手シ同四十五年三月三十一日ニ至ツテ甫メテ竣工シタリ

○ 自測點一五鎮及自二二鎮至三八鎮八節水路堀鑿增加工事

明治四十二年七月九日大津市街中測點十五鎮ヨリ二十二鎮ニ至ル延長七十間ト及二十二鎮ヨリ三十八鎮八十一節ニ至ル百六十八間一分水路堀鑿工事ヲ曩日ニ古關隧道及該道東西水路工事ヲ請負ハシメタル西本健次郎ニ請負ハシム

是レヨリ先キ此水路ノ内二二鎮以西ハ滋賀縣物産陳列場及大津聯隊司令部ノ敷地内ヲ通過スヘキヲ以テ其ノ交渉未決ノ爲メ隧道工事ニ併セテ請負ヲ命スルコト能ハサリシモ二者ノ交渉解決シタルヲ以テ茲ニ臨時事業委員ノ諮詢及市參事會ノ決

議ヲ經テ西本健次郎ニ請負ヲ契約シタリ

工事請負契約書

測點自一五鎖至二二鎖及自二二鎖至三八鎖八一節

一埋立水路一部堀鑿増工事

此請負金貳千九拾壹圓貳錢

此契約保證金貳百拾圓

竣工期限 着手ノ日ヨリ三ヶ月

右金額ヲ以テ本工事請負候ニ付テハ明治四十二年一月二十五日京都市公告第六號工
事施行規定及左記追加契約事項ヲ遵守シ且ツ設計書仕様書圖面ノ通期限内ニハ必ラ
ス竣工可致仍テ内譯書相添契約書差出候也

和歌山市小野町三丁目三十番地

明治四十二年七月十九日

西本健次郎代理 西本良吉

京都市參事會

京都市長 西郷菊次郎殿

追加契約事項

一工事施行規程第五十條ニ依ル内渡金ノ限度ハ既成部分ニ對スル見積高十分ノ九ト
ス

同工費内譯表

種類	種類	豫定數量	單價	價金	額	備考
堀鑿	八八・三三七		二・五〇〇	二、〇四五・九二五		
土留板	一一〇・〇〇〇		四・一〇〇	四五・一〇〇		
合計				二、〇九一・〇二五		古關隧道東口運搬線路 土留板掘工事費

此ノ十五鎖ヨリ二十二鎖ニ至ル間ハ第一疏水路ノ開門ノ北側ニシテ地質尤モ粗惡且
第一水路ノ水ハ常ニ開門ノ爲メ阻止セラレタルヲ以テ第二水路ヲ開鑿スルニ當リ漏
水甚シク容易ニ屢乾セシムルコト能ハス仍テ明治四十四年十月二十八日第一水路ノ
左側ニ六十間ノ防水工ヲ施シ始メテ漏水ヲ防止シタリ此工費七百〇壹圓參拾錢肆四
十五年三月二十八日水路工事大ニ進ミ防水ノ必要ナキニ至リ之レヲ撤去セリ此ノ費
九百〇參圓五拾五錢ナリ

水路堀鑿ハ明治四十二年七月着手シ同四十四年六月成功シタリ此ノ間二個年ヲ經過
シタルハ他ノ工事ニ聯關シ獨立進行セシムルコト能ハサルニ由ル工事成ルニ及ンテ
左ノ検査ヲ爲シ之ヲ報告セリ

工事竣成検査報告

工檢第六號 明治四十四年七月二十四日

施工ノ場所 自測點第一五鎖至同第二八鎖

工事ノ種類 埋立水路堀鑿

工費 金二二、六八〇圓四二錢ノ内

點測自三二鎖至三八鎖
八一節及自一八四鎖八
〇節至一九二鎖水路工
事

請負人 西本健次郎
竣工期間 自明治四十二年七月十九日至同四十四年六月三十日
竣工年月日 明治四十四年七月十八日
検査ノ成績 設計ノ通

測點自二二鎖至三八鎖八一節及自一八四鎖八〇節至一九三鎖水路工事
明治四十一年十二月十六日右關隧道掘鑿工事ニ伴ヒ該道ノ東西ニ屬スル埋立水路工
事着手ノ議ヲ決定シタリ

施工場所 自二二鎖至三八鎖八一節

隧道東口

自一八四鎖八〇節至一九三鎖

隧道西口

附記 隧道掘鑿ハ三七鎖七〇節ヲ以テ東口ノ起點トナシタルニモ拘ハラズ今埋立
水路ノ終點ヲ三八鎖八一節トナセハ此ノ間ニ於テ一鎖〇八節ヲ重複スル
嫌アレトモ此重複ハ隧道口掘割ノ跡ニシテ即チ竣工後芝伏工事ヲ要スル部
分ナリ此他此類ニ似タルモノ少カラス

施工方法 材料ノ内木材ハ市ヨリ之レヲ供給シ他ハ一切請負トナス

一工費金二〇、一八四圓〇八錢

總額

内

二、〇九五圓九七錢
一、八〇八圓一一錢

材料費
工費

一、九八六圓七二錢
一八、一九七圓三六錢

直營額
請負額

一〇九圓二五錢
一八、〇八八圓一一錢

材料費
工費

工費明細表

工事名	數量	材料費		工費		合計
		單價	金額	單價	金額	
尖板打	八〇、〇〇〇 <small>四</small>	二四・八三四 <small>四</small>	一、九八六・七二〇 <small>四</small>	一三・四四二 <small>四</small>	一、〇七五・二〇〇 <small>四</small>	三、〇六一・九二〇 <small>四</small>
東口上層掘鑿	四、四四七・一〇〇 <small>立坪</small>			二、四〇〇	一〇、六七二・〇四〇	一〇、六六二・〇四〇
同下層掘鑿	三六一・〇〇〇			三、〇〇〇	一、〇八三・〇〇〇	一、〇八三・〇〇〇
埋戻	掘鑿費ニ含ム					
張芝	一一五・〇〇〇 <small>立坪</small>	九五〇	一〇九・二五〇	・二五〇	一七・二五〇	一二六・五〇〇
西口掘鑿	二、九二〇・九〇〇 <small>立坪</small>			一・八〇〇	五、二三九・六二〇	五、二三九・六二〇
合計			二、〇九五・九七〇		一八、〇八八・一一〇	二〇、一八四・〇八〇

請負工費明細表

工事名	數量	材料費		工費		合計
		單價	金額	單價	金額	
東口上層堀鑿	四、四四七・一〇〇	運搬埋戻共 埋戻ナシ 面ヨリ七尺		二、四〇〇	一〇、六七三・〇四〇	一〇、六七三・〇四〇
同 下層堀鑿	三六一・〇〇〇	堀鑿費ニ含 運搬路モレ タル練堀埋 戻共		三、〇〇〇	一、〇八三・〇〇〇	一、〇八三・〇〇〇
埋 戻	三、七六一・〇〇〇			一、八〇〇	五、二九六・六二〇	五、二九六・六二〇
西口堀鑿	二、九一〇・九〇〇			・一五〇	一七、二五〇	一七、二五〇
張 芝	一一五・〇〇〇			一三、四四〇	一、〇七五・二〇〇	一、〇七五・二〇〇
矢 板 打	八〇・〇〇〇				一八、〇八八・一一〇	一八、〇八八・一一〇
合 計			一〇、九二五〇	一、九八六・七二〇	一、九八六・七二〇	一、九八六・七二〇

直營工費明細表

矢 板 材 料	合 計
八〇・〇〇〇	八〇・〇〇〇
二四・八三四	二四・八三四
一、九八六・七二〇	一、九八六・七二〇
一、九八六・七二〇	一、九八六・七二〇

工事請負一部變更契約書

○ 工事請負一部變更契約書本契約ハ隧道契約ノ部ヲ参照スヘシ

明治四十二年三月二十二日契約ノ内

測點自第二二鎖至第三一鎖八一節(古關隧道東口)

測點自第一八四鎖八〇節至第一九三鎖(古關隧道西口)

一埋立水路堀鑿工事

此請負金壹萬八千百圓也

竣功期限 着手ノ日ヨリ四ヶ月

右ヲ左ノ通變更

測點自第二十二鎖至第三十八鎖八十一節

測點自第八十四鎖八十節至第九十八鎖五十節

一埋立水路堀鑿工事

此請負金貳萬五百八拾九圓四拾貳

竣功期限 着手ノ日ヨリ自二二鎖至三〇鎖ハ三ヶ月 自三〇鎖至三八鎖八一節

變更ニ因ル

增加請負金貳千四百八拾九圓四拾錢

此契約保證金貳百四拾九圓

但代用整理公債額面參百圓

以下例文ニ付畧ス

和歌山市小野町三丁目三十番地
 請負人 西本健次郎代人
 大津市神出二百十二番地寄留
 西本 貞吉
 和歌山市本町七丁目六番地
 連帶保證人 島村安次郎
 同市久保町四丁目二十九番地
 同 西本 用助

京都市參事會

市長 西郷菊次郎殿

古關隧道附屬工事費請負見積内譯表

種類	豫定數量	單價	金額	摘要
堀鑿	四、八〇八・一〇 <small>立坪</small>	二、五〇〇	一一、〇二〇・二五〇 <small>円</small>	東口ノ分
同上	四、一五五・六〇	二、〇〇〇	八、三一・二〇〇	西口ノ分
張芝	一一五・〇〇 <small>坪</small>	三三〇	三七・九五〇	
矢板工	八〇・〇〇 <small>間</small>	二七五〇	二、二〇〇・〇〇	兩側分
計			二〇、五八九・四〇〇	

明治四十二年七月一日

京都市參事會

市長 西郷菊次郎殿

西本健次郎代理

西本 貞吉

明治四十四年三月七日是レヨリ先キ測點第三十鎖ヨリ第三十七鎖二十節ニ至ル延長七十二間水路ノ堀鑿及成形工施行後ニ於ケル埋戻工事ヲ隧道工事ニ聯關シテ之ヲ西本健次郎ニ請負(請負證書ハ古關隧道ノ部ニ在リ)シメシカ是ニ至ツテ竣成シタル以テ工區長ハ實地檢査ヲ遂ケ左ノ報告ヲナシタリ

工事竣成檢査報告

工檢第四號 明治四十四年三月七日

施行場所 測點自第三〇鎖至第三七鎖二〇節

工事種類 埋立水路堀鑿及埋戻共

但古關隧道堀鑿附屬埋立水路堀鑿工事

工費 請負人 西本健次郎

竣成期限 自明治四十二年十一月一日至四十四年二月十五日

同年月日 明治四十四年一月二十九日

成績 設計ノ通り

右工事ニ接續スル測點第二二鎖ヨリ三〇鎖ニ至ル八十間ノ開鑿工事ハ請負人西本健

次郎ヨリ四十二年九月一日着手シ同三〇鎖ヨリ三八鎖ハ一節ニ至ル部分ハ同年十一月一日着手ヲ届出タリ其後天候不良ノ爲メ工程進マス遂ニ延期ヲ出願シタルヲ以テ明治四十三年三月四日第三〇鎖ヨリ第三八鎖八一節ニ至ル迄ハ四十四年九月十五日ヲ限リ其延期ヲ許可シタルモ其後再度他ノ請負區域ヲ併セテ延期ヲ出願セシヲ以テ同十一月二十五日左ノ指令ヲナシタリ
臨發第一三八號

請 負 人 西本健次郎

明治四十三年十一月十日附願自測點第十五鎖至三十八鎖八十一節埋立水路掘鑿工事落成期限延期ノ件左ノ通り遵守スヘシ

- 一 自測點第十五鎖至二八鎖間ハ四十四年六月末日迄ニ竣工スヘシ
 - 一 自第三十鎖至三十七鎖二十節間ニ對シテハ十一月十六日後ハ一日ニ付金四圓九拾八錢七厘ノ割ヲ以テ延滞契約金ヲ市ニ納入スヘシ
 - 一 自第二十八鎖至三十鎖及三十七鎖二十節至三十八鎖八十一節間ハ延期ヲ許可ス
- 明治四十三年十二月一日

工事ノ成績ハ設計ヲ愈ラスト雖トモ期限ニ至ツテハ遂ニ約束ニ違フコト能ハサルヲ以テ前指令ノ如ク當初ノ契約ニ照シ四十四年十一月十六日ヨリ四十四年一月二十九日ニ至ル七十五日ノ遲滞ニ對スル一日四圓九拾八錢七厘ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徴收シタリ

工檢第五號

明治四十四年四月十八日測點第二十八鎖ヨリ三十鎖ニ至ル延長二十間ノ水路掘鑿竣成セシヲ以テ工區長ハ實檢ヲ遂ケ左ノ報告ヲ提出セリ

工事竣成検査報告

工檢第五號 明治四十四年四月十八日

施工場所 測點自二八鎖同至三〇鎖

工事種類 埋立水路掘鑿

工 費 金

請 負 人 西本健次郎

竣成期間 自明治四十二年九月一日至明治四十四年三月三十一日

竣成期日 明治四十四年四月十八日

成 績 設計ノ通

○ 測點自二八鎖三〇節 水路構築工事

此ノ測點第二十八鎖三十節ヨリ第三十七鎖七十三節即チ古關隧道東口ニ聯續スル九十四間三分ノ間ハ客年十一月其ノ掘鑿ヲ西本健次郎ニ請負ハシメシカ該掘鑿工事ノ

自二八鎖三〇節至三七鎖七三節

既ニ竣リタルヲ以テ此レカ成形工ヲ施ス爲メ明治四十二年六月三十日調査ヲ遂ケ同
 七月七日臨時事業委員ノ諮問ヲ經テ市參事會ニ於テ施行ヲ決定シタリ
 施工場所 大津市鹿關町淵點^{自二八續三〇節}至^{三七續七三節}

設計金額 二、八五八圓四三錢

工事期間 着手後六ヶ月

工事方法 直營

工費内譯

一金二、八五八圓四三錢

内

一八、五二九圓〇二錢四

三、一二九圓四〇錢六

二〇〇圓

材料費
工費
雜費

工費明細表

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	金額	單價	金額	
拱厚一尺	八七、三〇	一五五、八九三	一三、六〇九	二九、六二〇	二、三八五	一、九五、二八五
同底張石	七、〇〇	一八〇、二九四	一、二六二	二四、五四〇	二四一、七八〇	一、五〇三、八三八
外棹	一五、〇〇	二八、〇二八	四二〇、四二〇	一九、二〇〇	二八、八〇〇	四四九、二二〇
合計			一八、七二九	三、二二九	四六、〇二〇	二、八五八、四三〇

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	金額	單價	金額	
側壁棹	六〇、〇〇	一四、七〇〇	八八二、〇四〇	一、八〇〇	一〇八、〇〇〇	九九〇、〇四〇
内棹	六〇、〇〇	四六、六八九	二、〇八一	二、七五〇	一六五、〇〇〇	二、二四六、三四〇
棹付屬諸金物	一式		二七三、七〇七			二七三、七〇七
雜費			二〇〇、〇〇〇			二〇〇、〇〇〇
合計			一八、七二九	三、二二九	四六、〇二〇	二、八五八、四三〇

埋立水路構作用材見積書

名稱	材料	長	幅徑	數量	摘要
粗石		小	面一尺以上 徑一分以上 四分以下 五厘以下	二、二八八 七六、七〇〇 一三〇、二四〇	
砂		大	徑二分以上 一寸以下	二、三五七 一五四、二六〇	
セメント				四〇五、三〇〇	
火					一呎二才五分入
山					
灰					

埋立隧道内棹仕様書

一、材料ハ總テ乾燥セルモノニシテ小節ノモノ眞直材ヨリ製作シ切組箇所ハ鉋削入

- 念仕上ノコト
- 一、 木材ハ總テ拔節死節其他瑕庇アルモノヲ使用スルコトヲ許サス
 - 二、 角材ノ丸味ハ特ニ左記ノ制限ニ據ルコトヲ得
 - 三、 櫛形長五尺厚三寸切組個所ヲ除キ内側ニ限ル九寸ノ面ニ對シ一寸、三寸面ニ對シ五分以内
 - 四、 方束長三尺四寸厚三寸切組個所ヲ除キ五寸ノ面ニ對シ八分、三寸ノ面ニ對シ五分以内
 - 五、 橋梁長十二尺三寸厚三寸切組個所ヲ除キ三寸ノ面ニ對シ五分、八寸ノ面ニ對シ一寸以内
 - 六、 堅梁長十三尺厚五寸ハ七寸面ニ對シ八分、三寸面ニ對シ五分
 - 七、 松丸太ハ真直ニシテ皮ヲ剝脱シタルモノニ限ル
 - 八、 本品調達請負人ハ契約締結後七日以内ニ請負高ノ内ヲ以テ見本一組ヲ製作シ検査ヲ受クヘシ検査合格認定ヲ受ケタル後ニ非ラサレハ全部ノ製作ニ着手スヘカラス
 - 九、 ホールトハ螺旋切ヲ充分ニ切り取外ノ自由ニ出來得ルモノトス
- 埋立水路内枠請負人見積書

名	稱	材	料	長	幅	徑	數	量	摘	要
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

櫛形	松角	五尺	九寸	三寸	一八〇本					
方束	同	三、四	五寸	三寸	一二〇本					
臺梁	同	一、二、三	八寸	三寸	六〇本					
楔梁	檜角	一、〇	五寸	五寸	一二〇本					
堅梁	杉押角	一、三、〇	七寸	五寸	四〇本					
大引	松丸太	一、二、八	末口	九寸	六〇本					
上木	松角	四、〇	二寸	二寸	六、二四〇本					
下木	同	一、八	一尺	二寸	二四〇本					
亞鉛引生子板	同	(二十二番) 六、〇		三、尺	三六〇本					
丁字形金物	同	一、〇	八寸、一寸七分、二分	一寸七分、二分	二四〇本					圖面ノ通杭明ケ仕上ノコト
圓冊形金物	同	一、〇	一寸七分、二分	一寸七分、二分	四八〇本					同
ボルト	同	(備) 二寸九分	徑	五分	一、六八〇本					螺旋切長一寸五分以上座鐵ナシ
下猫取付	鐵	(備) 二寸九分	同	四分	三六〇本					座金ニ枚付二分
工手間	鐵	(備) 四寸四分	同	四分						

埋立水路 鐵筋拱 側壁圍六十組外枠十五組分 工作用金物見積書

名	稱	材	料	長	幅	徑	數	量	摘	要
鐵筋	鋼	鐵		六、二五	徑四分ノ一寸		四、六二			

大引受柱	杉丸太	六、五	末口九寸	一一〇 _本	
同 添柱	松角	五、〇	七寸一寸	一一〇 _本	
内 園板	松角	四、〇	三寸一寸	一一〇 _本	
同	同	四、〇	五寸一寸	二四〇 _本	
同	同	四、〇	四、五	一一〇 _本	
同	同	四、〇	六、〇	九六〇 _本	
外 園板	同	六、〇	七、〇	六四〇 _本	
裾地覆	同	六、〇	一〇寸	八〇 _本	ニツ捲割リモノ
立 崩	松丸太	七、〇	末口四寸	二四〇 _本	
横 崩	同	二、五	同	一六〇 _本	同
外 園板	松角	四、五	五寸一寸	一一〇 _本	
同	同	二、五	同	一一〇 _本	
同	同	四、五	同	二三五、七五〇	

本工事ハ古關隧道ノ東端ニ係ルヲ以テ隧道工事ノ進行ニ隨伴シテ事業ヲ進メサルヘカラス故ニ着手ハ明治四十二年十一月一日ニ在リト雖モ竣工ハ同四十五年三月三十一日ニ及ヘリ此ノ間日ヲ閑スルコト八百八十一日トナス而シテ構築間數ヲ以テ崩整工事ニ比セハ一鎖十一節ノ差アルハ崩整法付等ノ爲メ已ムヲ得ス此ノ無用ノ部分ヲ崩整シタルモノナリ

古關隧道

明治四十一年十二月十六日古關隧道開鑿設計成ル延長一千四百七十一間此ノ隧道ヲル第二疏水工事中ニ於テ第一ノ難關ニシテ全線成工ノ遲速及工費ノ増減一ニ之ニ繋ルヲ以テ技師長技師ハ非常ナル苦心ヲ以テ之レカ調査ニ從事シタリ當時井上技師ハ技師長ノ職ニ在リ境田技師ハ水路課長トシテ專ラ此ノ任ニ當レリ材料ハ總務課材料係ニ於テ價額ヲ調査シ之ヲ技術部ニ移牒セリ陶山事務員之レカ任ニ當レリ設計成ルニ及ントテ之ヲ臨時事業委員ニ諮詢シ市參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ決定シタリ

施工場所 自測點三七鎖七三節至一八四鎖八三節
 工費金額 金四七三、八六二圓〇六錢
 工事期間 三個月
 施工方法 崩鑿用火藥類ヲ除ク外各種ノ材料及「コンクリート」「モルタル」煉方ハ直營トナシ崩鑿及崩鑿用火藥類煉瓦工「コンクリート」運搬搗固「モルタル」塗、起拱石据付、枠組立、取除等ハ請負事業トナス

工費内譯	總額
一金四七三、八六二圓〇六錢	
内 譯	
材料費	
二二二、〇六八圓三一錢	
工費	
二五一、〇五八圓二五錢	

七三五圓五〇錢

雜費

内

請負額

二六八、四五六圓九三錢

内

工費

二四、五九七、七圓四一錢四

材料費

二、四七九圓五一錢六

直營額

二〇、五四〇、五圓一三錢

内

材料費

一九九、五八八圓七九錢

工費

五、〇八〇圓八四錢

雜費

七三五圓五〇錢

古關隧道工事及附屬工事并ニ三保崎築地埋立工事請負見積設計書

一、隧道掘鑿

火藥類、燈油、燈心等ノ諸材料代價、隧道掘鑿排水通風、支保材ノ組立、土石ノ積込搬出、及横坑填充諸手間賃、並ニ土石捨場ノ地均、法保護工事等ノ諸費等、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム

二、拱煉瓦工

煉瓦ノ洗浸積立目塗、及拱架ノ組立取除等ノ諸手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用

ヲ含ム

三、側壁煉瓦工

煉瓦ノ洗浸積立目塗、水ノ掻乾等ノ諸手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム、但モルタル練方ハ市ニ於テ行フ

四、コンクリート工

圍板ノ建付、詰込、搗固、水ノ掻乾等ノ諸手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム、但コンクリート練方ハ市ニ於テ行フ

五、インパート工塗工

コンクリート面ノ洗浸、上塗手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム、但モルタル練方ハ市ニ於テ行フ

六、起拱石据付工

起拱石据付手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム

七、上層掘鑿古關隧道東口

掘鑿、及埋戻手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム、但此土砂ハ三保ヶ崎新設築地附近市有地ニ運搬スルモノトス、並ニ此土砂ヲ使用シ埋立水路構築、後現在地盤迄埋立ツルモノトス

八、下層掘鑿古關隧道東口

埋立水路側壁底面ヨリ七尺迄掘鑿手間賃、其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム

- 但堀鑿シタル土砂ハ上層堀鑿土砂ト同様運搬スルモノトス
- 九、堀鑿古關隧道西口
堀鑿手間賃其他之レニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム但堀鑿土砂ハ山科村四ノ宮附近指定土捨場ニ運搬スルモノトス
- 十、張芝工
張芝及釘等ノ諸材料代價張芝植付手間賃其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム
- 十一、矢板工
矢板及柱杭ノ仕上、打込、取外等ノ諸手間賃其他之ニ屬スル一切ノ費用ヲ含ム
- 十二、横坑殘部堀鑿
横坑第四號第五號第六號第七號第十號ハ別紙出來高表ノ如ク未完成ニ屬スル物ノ堀鑿支保構築及全横坑ノ掃除手直等別紙横孔圖面及仕様書ニ準據シ完成セシムルニ要スル一切ノ費用ヲ含ム
- 十三、横孔填充
填充用コンクリート練方、及填充手間、横孔入口煉瓦卷直、其他復舊ニ要スル一切ノ費用ヲ含ム
- 十四、第一種石垣
土臺木据付、留杭打手間、高二間一分ノ甲種石垣積手間、裏込填充等一切ノ費用
- 十五、第二種石垣

高二間一分ノ甲種石垣積手間、裏込填充等一切ノ費用

十六、第三種石垣

土臺木据付、止抗打手間、高一間ノ甲種石垣積手間、裏込填充等一切ノ費用

十七、増築石垣

高二間二分四厘ノ甲種石垣積手間、裏込填充等一切ノ費用

十八、以上ノ外左記事項及其他工事ニ屬スル一切ノ費用ハ各工事ノ單價ニ包含ス

市及請負者ノ供給スル使用及剩餘ノ工事材料、及設備物料、器具、機械類ノ取集積卸、保管等ノ費用但工事用材料及器械器具ノ授受ノ場所ハ三保崎又ハ古關隧道東口及西口附近トス

市ヨリ供給以外ノ器械器具、作業小屋、脚場運送、其他施設物ノ費用、測量遺形、始期ノ準備終期ノ取片付、其他工事及事務執行ノ費用等

工費明細表

工 事 名	間 數 坪 數	材 料 費		工 費		合 計
		單 價	金 額	單 價	金 額	
堀 鑿	九、〇九八、六六六	二、四九五	二二、四七九、五二六	二、三七七五	二二、四二〇、八六三	二二、六六八、二二九
拱 煉 瓦 卷	一、〇〇〇、四三七	七六七八〇	八、一四一、三四三	一九五五七	二〇、七三七、〇六六	一〇、一五〇、六四九
側 壁 煉 瓦 卷	四七六、一三一	七六七八〇	三六、五五七、三三八	一、八〇三	三六、六一九、七七五	四二、一七二、一三
仰 拱 コ ン ク リ ー ト	四八〇、一四一	三六、二二〇	一八、八五九、九三八	一〇、五〇〇	五、〇〇四、四八一	二二、九〇一、四一九

工事名	間敷坪数	材料費	工費	合計
同 モルタル	五、一五八九	一、二六〇〇〇	二、四三五〇	七、七五八〇五
起拱石二枚卷	一〇〇,〇〇〇	四、四五三	四、四五二〇〇	一、一三六、七五九
同 三枚卷	一、一八〇,〇〇〇	七、二一六	八、三九六、八八〇	
同 四枚卷	一三〇,〇〇〇	一一、一四八	一、四四九、二四〇	
同 五枚卷	六、一〇〇,〇〇〇	一七、五九八	一、〇七三、四七八	
同据付二、三枚卷	一、二八〇,〇〇〇		二、二五〇	二、八八〇,〇〇〇
同 四、五枚卷	一九一,〇〇〇		三、〇〇〇	五、七〇,〇〇〇
同 モルタル	一、四七〇,〇〇〇	八、六六〇	〇、六六六	九、七〇、八六六
セメント	一、五〇〇,〇〇〇	二二、〇九〇	四、〇〇〇	六、四五〇,〇〇〇
支保材	一、四七〇,〇〇〇	四〇,四六五、〇一〇	二、五一〇、五八二、五九六	四、〇四六、五〇一〇
小計				二、五一〇、五八二、五九六
雑費	一、四七〇,〇〇〇	七、三五五、〇〇〇		七、三五五、〇〇〇
合計				四、七三三、八六二、〇六九

請負工費明細表 (セントル組立及取外ハ煉瓦工事ニ含ム)

工事名	間敷坪数	材料費	工費	合計
堀	九、〇〇九、八二六	二、四九五	三、三七五	二、三六、六八二、二九五
拱煉瓦卷	一、〇六〇、三三七		一、八七二	一、九八、五九二、三三

工事名	間敷坪数	材料費	工費	合計
側壁煉瓦卷	四七六、三三二		一、〇、九七五	五、三三、五二八
仰拱コンクリート	四八〇、一四二		四、五〇〇	二、一六〇、六三五
同 モルタル	五、九五八		二、〇七五	一、〇七〇、三九九
起拱石二、三枚卷	二八〇,〇〇〇		二、八八〇,〇〇〇	三、四四三、〇〇〇
同 四、五枚卷	一九〇,〇〇〇		三、〇〇〇	五、七三、〇〇〇
合計				二、六八四、五九九

直營工費明細表

工事名	間敷坪数	材料費	工費	合計
拱煉瓦卷材料及モルタル煉	一、〇、〇〇〇、三三七	七、六七八〇	八、八一八	八、二九、四一〇
側壁 同上	四七六、三三二	七、六七八〇	八、八一八	三、六九五、一五七
仰拱コンクリート	四八〇、一四二	三、九二八〇	六、〇〇〇	二、八八〇、八四六
同 モルタル	五、九五八	二、六〇〇〇	三、〇〇〇	一、八五七、〇〇六
起拱石二枚卷	一〇〇,〇〇〇	四、四五三	六、〇〇〇	一、一三六、四七九
同 三枚卷	一、一八〇,〇〇〇	七、二一六	八、三九六、八八〇	
同 四枚卷	一三〇,〇〇〇	一一、一四八	一、四四九、二四〇	
同 五枚卷	六、一〇〇,〇〇〇	一七、五九八	一、〇七三、四七八	
同据付モルタル	一、四七〇,〇〇〇	八、六六〇	〇、六六六	九、七〇、八六六
セメント	一、五〇〇,〇〇〇	二二、〇九〇	四、〇〇〇	六、四五〇,〇〇〇
支保材	一、四七〇,〇〇〇	四〇,四六五、〇一〇	二、五一〇、五八二、五九六	四、〇四六、五〇一〇
小計				二、五一〇、五八二、五九六
雑費	一、四七〇,〇〇〇	七、三五五、〇〇〇		七、三五五、〇〇〇
合計				三、八〇八、五〇〇

支保材	1,771,000				
小計		400,650.10		500,800.84	2,000,650.10
雜費		199,580.79		500,800.84	2,000,650.10
合計		735,500.00		500,800.84	2,000,650.10

古關隧道外二項工事請負入札

明治四十二年二月六日前掲ノ古關隧道其他二工事ニ付テ土木請負業者五名ヲシテ入札セシニ何レモ豫定金額ヲ超過シタルヲ以テ再入札ヲ行ハントセシニ或ハ辭シ或ハ出頭セサルヲ以テ翌三月十三日三度之ヲ行ヒ以テ請負ヲ定メタリ

豫定價格

一金二八九二二六圓三三錢

入札價格

二八八八〇八圓七二錢

三一二五〇〇圓

他ニ招集シタルモノ八名アリタレトモ悉ク入札ヲ辭リタリ

右ノ結果ニ依リ西本健次郎ヲ工事請負人ト定メ左ノ契約書ヲ徴シタリ

工事請負契約書

西本健次郎

鹿島岩藏

測點自三十七鎖七十三節至百八十五鎖

一古關隧道堀鑿工事

此請負金貳拾六萬八千四百四拾四圓拾五錢

竣功期限 明治四十五年三月三十一日

一測點自二十二鎖至三十八鎖八十一節古關隧道東口

一同 自百八十四鎖八十節至百九十三鎖古關隧道西口

一同上附屬埋立水路堀鑿工事

此請負金壹萬八千百圓

竣功期限 着手ノ日ヨリ四ヶ月

(本工事ハ契約ノ當時西口ニ於テ百八十五鎖八十節ヨリ百九十三鎖ニ至ルモノナリシヲ四十二年七月一日更テニ五鎖五十節ヲ延長シ之レニ對シテ工費貳千四百八拾九圓四拾錢ヲ增加セリ)

大津三保崎築地北部湖面

一三保崎築地埋立工事 (本工事ハ成功後防波堤ト名ツク須ク前章ト參照スヘシ)

此請負金貳千貳百六拾四圓參拾五錢

竣工期限 明治四十五年三月三十一日

合計金貳拾八萬八千八百〇八圓五拾錢

此契約保證金貳萬八千八百八拾壹圓

右金額ヲ以テ本工事請負候ニ付テハ明治四十二年一月二十五日京都市公告第六號工
事施行規程及左記追加契約事項ヲ遵守シ且設計書仕様書圖面ノ通期限内ニハ必
功竣功可致依テ内譯書相添契約書差出候也

明治四十二年三月二十二日

和歌山市小野町三丁目三十番地

請負人 西本健次郎

同市本町七丁目六番地

連帶保證人 島村安次郎

京都市參事會

京都市市長 西郷菊次郎殿

追加契約事項

第一條 本工事請負ノ爲メ請負人ハ必要ニ應シ市ヨリ左ノ材料ニ限リ交付ヲ受クル
モノトス

名	稱	員	數	摘	要
輕便軌條		三哩以內		附屬品共	三保崎渡
支分		左右十七組			同
轉車臺		十一臺			同

土運車		六十臺以內			同
土運船		二十二艘		三十石積	同
ボンプ		十三組以內		附屬品共	
送風機		十一組以內			
セメント		二百組以內			三保崎渡
電燈		若干			三保崎渡
燒過煉瓦		五、八三八、六一六枚			三保崎渡
コンクリート		四八〇坪一		インバート用 配合一、三、六、	隧道東西兩口渡
煉瓦積用モルタル		三六五坪		配合一、三、	同
内面塗用モルタル		五一坪六		同	同
起拱石用モルタル		一四坪七		同	同
起拱石		一、四七一間		一、三、	同
支保用材		一式			三保崎渡
矢板		八十間		兩側分	同
割石控	二尺五寸	一四五坪六		築地理立用	同
同	二尺	四九三坪九二			同
同	控二尺	一四坪五〇			同
同	控二尺	一四坪五〇			同
栗石		二五八坪七〇			同

本工事施工ニ必要ナル假設工事若クハ借入品ハ勿論前項規程ノ器具物品并ニ其數量以外ノモノニ對シテハ總テ請負人ノ負擔トス

第二條 排水ポンプ及送風機ハ必要ニ應ジ隧道兩口適宜ノ場所ニ市ニ於テ据付ヲナスモノトス此場合据付ニ要スル設備ハ請負人ニ於テ之ヲ爲スヘシ但請負人ニ於テ据付ノ位置ヲ變更セントスルトキハ市當該吏員ノ承諾ヲ得自費ヲ以テ變更スルコトヲ得

請負人ハ器械ノ効力ニ付テハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三條 市ハ請負人ニ市設火藥庫ノ一部又ハ全部ノ使用ヲ許可スルモノトス

請負人ノ使用スル火藥類ハ前項ノ火藥庫以外ニ貯藏スルコトヲ得ス但市ノ承認ヲ經タル場合ハ此限リニアラス

第四條 請負人ハ火藥類ニ關シ一般ノ法令ニ從フハ勿論火藥庫ニ看守人ヲ置キ晝夜警守セシムヘシ

第五條 火藥類ハ市當該吏員ノ立會ノ上ニアラサレハ請負人ハ任意ニ出納スルコトヲ得サルモノトス

第六條 請負人ハ火藥類使用箇所並其數量等ニ付市當該吏員ノ指揮ニ從フモノトス
第七條 市ヨリ測量ノ爲メ工事休止ヲ命セラレタル場合請負人ハ自己使用ノ職工人

夫ニ其旨申渡シ測量上ニ支障ナカラシムルハ勿論充分便利ヲ與フヘシ

第八條 堀鑿シタル土砂岩石等ハ平面圖ニ掲ケタル土捨場又ハ其附近市有地ノ内當該吏員ノ指示セル箇所ニ運搬ノ上遺棄スヘシ但市ノ承認ヲ得タルトキ請負人ノ負擔ヲ以テ他ノ場所ニ遺棄スルコトヲ得

第九條 石積煉瓦積及コンクリート積等ニハ其位置及高低ヲ示ス堅牢ナル遺形ヲ請負人ニ於テ建設スヘシ

第十條 隧道堀鑿ハ横坑ヨリ着手シ隧道東西兩口ノ堀鑿ハ當該吏員ノ指揮ヲ待テ着手スヘシ

第十一條 工事施行規程第五十條ニ依ル内渡金ノ限度ハ既成部分ニ對スル見積金高十分ノ九トス

第十二條 請負金内渡高ニ對スル契約保証金ハ請負人ノ請求ニヨリ六ヶ月毎ニ精算シテ之レヲ返付ス但計算上返付金ニ圓未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之レヲ切捨テ圓止トス

同工費請負見積内譯表

種	類	豫定數量	單價	金額	摘要
隧道	堀鑿	九、〇〇九 ^{立坪} 、八二六	二五、八〇〇 ^円	二二三、四五三、五二二 ^円	
拱棟	瓦工	一、〇六〇、三四七	二一、〇八〇	二二、三三二、一五五	梓拱組立及取除手間ヲ含ム

側壁煉瓦工	四七六、一三二	一一、〇〇〇	五、二三七、四四一	
仰拱コンクリート工	四八〇、一四一	六、〇〇〇	二、八八〇、八四六	
同モルタル上塗り	五一、五八五	一八、七〇〇	九六四、六四〇	
二三枚巻起拱石据付	一、二八〇、〇〇〇	二、八七〇	二、三九三、六〇〇	両側分
四、五、枚巻同上	一三、二七〇	二七、六〇〇	三三六、二五二	同上
横坑殘部堀鑿	二三二、〇〇〇	五、五〇〇	一、二七〇、五〇〇	
計金貳拾六萬八千四百四拾四圓拾五錢				

同附屬工費請負見積内譯表

堀鑿	四、八〇八、一〇〇	二、五〇〇	一一、〇二〇、二五〇	東口ノ分
同上	二、九一〇、九〇〇	二、〇〇〇	五、二二一、八〇〇	西口ノ分
張芝	一一五、〇〇〇	三三〇	三七、九五〇	
矢板工	八〇、〇〇〇	二、七五〇	二二、〇〇〇	兩側ノ分
計金壹萬八千百圓				

三保崎築地理立工費請負見積内譯表

第一種石垣	二八、五六〇	三、八五〇	一〇九、九五六
第二種石垣	四六五、三六〇	三、四七〇	一、六一四、七九九
第三種石垣	一四、五〇〇	二、三七〇	三四、三六五
増築石垣	一四五、六〇〇	三、四七〇	五〇五、二三二

計金貳千貳百六拾四圓參拾五錢
合計金貳拾八萬八千八百〇八圓五拾錢也

右ノ通り

明治四十二年三月十六日

和歌山市小野町三丁目三十番地

西本 良吉

明治四十二年四月六日

明治四十二年四月六日初メテ隧道開鑿ニ着手ス

是レヨリ先キ横坑十一口ヲ穿テ其ノ未タ成功セサルモノハ之ヲ増堀シ成功シタルモノハ本日ヨリ各口一齊ニ本道ノ坑道開鑿ニ着手シ請負人西本健次郎ヨリ左ノ工程豫期ノ届出ヲナシタリ

工程豫期御届

拙者御請負仕候古關隧道開鑿外二廉工事ノ工程ハ左記ノ通り進行可致豫定ニ御座候間此段及御届候也

一古關隧道開鑿工事

別紙圖表ノ通り本月十日着手明治四十五年三月十日竣工ノ見込 (別表略之)

一同隧道ヨリ東部埋立水路開鑿工事

本年六月一日ヨリ着手シ得ルモノト假定シ爾後一ヶ月平均千二百坪宛本年九月三十日迄ニ竣工ノ見込

一同西部同上

同上一ヶ月平均七百五十坪四ヶ月間本年九月三十日迄ニ竣工ノ見込

一三保ヶ崎石垣築設工事

東部埋立水路工事前記期日ニ着手スルモノト假定シ翌七月一日ヨリ一ヶ月平均二百十八坪宛本年九月三十日マテニ竣工ノ見込

明治四十二年四月八日

請負人 西本健次郎

京都市參事會

京都市長 西郷菊次郎殿

火藥類

明治四十二年四月十三日火藥類一切ヲ原價ニテ受負人ニ交付ス

是ヨリ先キ各隧道掘鑿ニ使用スル爲メ火藥類ヲ購入シ火藥庫ヲ宇治郡山科村大字四ノ宮小字熊ヶ谷ニ設ケ此ニ藏置シ看守人ヲ置キ日夜嚴守セシメシニ今回古關隧道請負人決定シ且契約上火藥類ハ總テ請負人ノ負擔ニ歸シタルヲ以テ當時藏置セシ左ノ火藥類ヲ請負人ニ交付シ請負人ハ銃砲火藥類取締法施行規則第八條ニ依リ

火藥使用ヲ滋賀縣知事ニ請願シ既ニ其許可ヲ得タルヲ以テ火藥讓渡ト同時ニ熊ヶ谷火藥庫ヲ貸付シタリ

一ダイナマイト 百五十封度

代金五五圓二〇錢

一雷管 二萬三千百三十發

代金二〇八圓一七錢

一導火線 三百尺

代金〇圓九三錢

合計二六四圓三〇錢

古關隧道工事懸賞

古關隧道工事懸賞 古關隧道ハ全線路ニ於ケル最難工事ナルヲ以テ明治四十二年三月二十二日西本健次郎ニ掘鑿工事ヲ請負ハシメ四十五年三月三十一日ヲ以テ竣工期トナセシモ爾來全線ノ工事大ニ進歩シタルヲ以テ特ニ掘鑿期限ヲ四十四年十二月末日ニ繰上ケ約九十日間ノ日子ヲ短縮セシメシ爲メ參萬圓ヲ懸賞シ以テ工事ヲ督勵セシニ請負人ハ非常ニ奮登盡瘁シ遂ニ短縮期間ヲ以テ成功セシメタリ仍テ賞金參萬圓ヲ交付セリ

古關隧道工事請負人 西本健次郎

古關隧道工事ノ全部カ明治四十四年十二月末日迄ニ竣工シタルトキハ市ハ其賞トシテ請負人ニ金參萬圓ヲ給與スヘシ

明治四十三年十一月十五日

京都市參事會

京都市長 西郷菊次郎

古關隧道導坑掘鑿工程

古關隧道工事ヲ速成セシメシメ爲メ四十一年六月以來舊隧道ヨリ新隧道ニ向ツテ十一口ノ横孔掘鑿ニ着手シ其ノ將ニ成ルニ垂ントシテ請負人石井友次郎力盡キタルヲ以テ當初契約セシ明文ニ照ラシ之ヲ解除シ更ラニ本道掘鑿請負人西本健次郎ヲシテ之レヲ承繼セシメ本道工事ニ併セテ之ヲ成就セシメタリ

四十二年四月二十一日曩日ニ成功セシ横坑十一口ノ支保工ヲ修繕ス此工費四百八拾五圓五拾八錢横坑着手以來殆ント一週年ヲ經支保ノ木材稍ヤ腐朽シタルヲ以テ此ノ修繕ヲ施シタルナリ

抑モ隧道掘鑿ノ困難ナルハ地質ノ非常ニ硬堅ナルト或ハ非常ニ柔軟ナルトヲ除ク外坑中ニ湧出スル水量ノ多キト及掘鑿ノ進行ニ伴ナヒ空氣ノ漸次稀薄ニ赴クト是ナリ舊道工事ノ如キハ此ノ三者ニ於ケルノ困難非常ナリシハ隧道地表上ノ長等山ハ勾配急峻ニシテ隨意ニ井狀坑ヲ設クヘキ位置ナカリシト及隧道線ハ湖ノ常水位以下ニアリシヲ以テ掘鑿中坑中ニ溜溜スル水量甚ク多ク且坑道ノ進ムニ伴ナヒ坑中ノ空氣ハ漸々稀薄ナリシ爲メ鹿關北國兩橋間蒸汽機關ヲ備ヘ日夜汽力ヲ藉ツテ潜水ヲ屏出シ又一方ニハ鐵管ヲ坑中ニ布設シ絶ヘス空氣ノ輸送ニ力メタリシモ新隧道掘鑿ニ至ツテハ水利事務所ヨリ送致スル電力ニ依リ常ニ唧筒ヲ運轉シ坑中ノ潜水ヲ舊道ニ吐出

セシメシモ新舊兩道間ハ直徑僅カニ九十尺ナルヲ以テ舊道ノ水ハ常ニ新道ニ浸入シ操業ニ困難ヲ與ヘシコト少カラサリキモ各横坑間ノ距離ハ其ノ短キモノハ八十間ニシテ其ノ長キモノモ亦二百間ヲ出テサルヲ以テ坑中ノ空氣ハ不足ヲ感セス加之六千尺以上ノ長洞ヲ照ラス舊道工事ノ際ハ專ラ油燈ヲ用ヒタルヲ以テ多數工夫ノ手ニスル燈火ハ油煙濛々初メテ坑ニ入ル者ハ是レカ爲メ噴塞スルニ至リシモ新道工事ニ在リテハ電火燈々更ラニ臭氣ナク坑夫執燈ノ煩ナカリシ等ノ便利ハ導坑工事急進セシメタル一大素因タルハ論ナク且此レニ由ツテ工費ヲ節省シ得タルモノナリ左ニ導坑工程ヲ示ス

位 置	着手年月日	連絡年月日	操業日子	距 離	一日平均進行
隧道 東口	四二、四月六日	四三、一月十九日	三七九日	九七八尺	二、五八
横孔 一號 西東	同	同	三〇三	八二八	二、七〇
同 二號 東西	同	同	二九九	七九八	二、六七
同 三號 東西	同	同	三一五	八〇四	二、五五
同 四號 東	同	同	同	同	同

古關隧道橫坑工事

古關隧道ハ第一疏水工事ノ際開鑿シタル第一隧道ノ北方ニ在リ延長一千四百七十一間之ヲ第一隧道ニ比スレハ長キコト百三十一間兩道ノ間隔ハ各道内ノ中心線ヨリ九十尺位置ハ舊道ヨリ卑キコト六尺構造ハ大同小異ナレトモ起工ノ目的異ナルヲ以テ彼レハ水面上ニ八尺ノ空位ヲ存シ此ハ僅ニ三尺五寸ヲ餘セリ而シテ第一隧道起工ノ當時ハ獨リ邦内空前ノ長距離タルノミナラス世界隧道中ニ於テ第四ニ位スルヲ以テ果シテ其ノ首尾ヲ全フシ得ルヤ否ヤノ論議朝野ニ喧轟タリシモ實地ニ至ツテ美事ニ成功シ世上ノ耳目ヲ聳動シタリキ此ノ隧道ノ地表タル即チ古關峠ニシテ東ハ直ニ大津市ニ逼リ山勢頗ル急峻ナリト雖モ西ハ稍緩漫ナリシヲ以テ西方ニ於テ辛フシテ二ヶ所ノ井狀坑ノ位置ヲ得タルモ全道ノ開鑿ハ頗ル困難ナリキ第二疏水起工ニ際シテハ此ノ舊隧道ヲ利用シ非常ナル便益ヲ得タリ即チ測量上ニ於ケル技術ノ簡易ナリシコト各所ニ於テ隨意ニ横坑ヲ穿チ以テ本道ニ通シ此レヨリ左右ニ分岐シテ本道ノ堀鑿ニ着手シタルコト土砂及用材ヲ水利ニ由ツテ運搬セシコト排水及送風ノ距離ヲ短縮ナラシメタルコト此ノ他便益ノ點擧シトセザリキ

明治四十一年五月二十日古關隧道着手前ニ於テ横坑十一坑堀鑿工費壹萬貳千百七拾五圓五拾壹錢及工事仕様書ヲ市參事會ノ議ヲ經テ決定シ堀鑿ニ使用スル材料ハ市ニ於テ直營事業トナシ堀鑿ハ之レヲ請負事業トナセリ

工 費

一金一二、一七五圓五一錢五

内

金六、四二七圓二三錢四
 金五、七四八圓二八錢一

總 額

材 料 費
 工 費

- 一、堀鑿スヘキ横坑ハ圖面第一號ニ示ス位置ニシテ第一號ヨリ第十一號ニ至ル十一個トス
- 二、横坑堀鑿ノ位置形狀ハ工務課ニ於テ白ペンキ又ハ其他ノ色料ヲ以テ指示スルモノトス
- 三、各横坑ニハ常ニ土運船一艘ヲ繫留シ此ノ位置ヲ明瞭ナラシムル爲メ赤色電燈ヲ設置ス
- 四、工事施行ニ關シテハ直接工務課監督員ノ指揮ヲ受クヘキモノニシテ請負者ハ其ノ事ノ如何ヲ問ハス該監督員ノ命令ニ違背スヘカラス
- 五、横坑ノ堀鑿斷面及縱斷勾配ハ圖號第二號ニ明示スト雖モ其ノ執行ニ關シテハ一監督員ノ指示スル所ニ從フヘシ
- 六、圖面第三號ニ示シタル支保工ノ位置間隔ハ實施ニ臨ミ地質ニ鑑ミテ監督員ニ於テ短縮又ハ延長ヲ命スルコトアルヘシ

- 七、支保工矢板裏面ハ空隙ヲ生セサル様注意掘鑿スヘシ萬一空隙ヲ生シタル場合ハ碎石ヲ填充シ十分搗固ムヘキモノトス
- 八、掘鑿シタル地質堅硬ニシテ支保ハ必要ナシト認メタルトキト雖モ工務課長ノ許可ナクシテ支保工ヲ省略スルコトヲ得ス
- 九、支保工ハ圖ニ示シタルカ如ク正ク設置スヘキモノニシテ監督員ノ指示ニ從ヒ切組ミ丸太面ニ能ク副フ様丸形トシ適當ナル餘留ヲナスヘキモノトス
- 十、横坑道内ノ基工面以下ニ深サ一呎巾一呎ノ脚筒用鐵管埋設溝ヲ掘設スヘシ
- 十一、脚筒及通風機ヲ設置シタルトキ其ノ運轉ハ市自ラ取扱フモノニシテ請負人ハ該器械運轉及能力如何ニ故障ヲ挿ムコトヲ得ス
- 十二、横坑入口構築ニ當リ圖面ニ明示ナシト雖モ横坑ニ導電線ヲ通スル爲メノ練鐵管(二分一吋)三條ヲ頂部ニ近キ便宜ノ位置ニ埋込ムヘキモノトス
- 十三、横坑入口ノ煉瓦卷ヲ掘鑿シ終リタルトキハ一時支保材ヲ以テ枠トシ監督員ノ指揮ニ從ヒ横坑入口ヲ構築スヘシ
- 十四、横坑入口底部ヨリ三尺ノ間ハ爆藥ヲ用ヒス掘鑿スルモノトス
- 十五、前條掘鑿終點ヨリ十五尺ニ達シタルトキハ各鑿孔ニ爆藥一本ヲ使用シ同時ニ爆發スヘキ坑數ハ五坑トス
- 十六、横坑延長三間ニ達シタルトキハ一時掘鑿ヲ中止シ圖面第三號ニ示ス如ク入口煉瓦卷立工ヲ施行スルモノトス

- 十七、掘鑿シテ得タル土石ハ指定シタル山科村四宮土捨場ニ運搬スルモノトス
- 十八、土捨場ノ捨土石ハ請負人ノ負擔ヲ以テ搔均シ斜面ハ崩壞セサル様均當ノ工事ヲ施スヘシ
- 十九、爆發ハ午前七時午後三時同十一時監督員監視ノ下ニ施行スルモノトス
- 二十、爆藥及爆發器ハ監督員自ラ携帶シ必要ナル員數ヲ坑夫ニ供給スルモノトス
- 二十一、各鑿孔ニ使用スル爆藥及爆破スヘキ鑿孔數ハ監督員ニ於テ決定スルモノトス
- 二十二、爆破ニ當リ危險ヲ豫防スル爲メニ濕ヒタル疊ヲ以テ入口ヲ覆ヒ爆破ヨリ生シタル岩石ノ坑外ニ散出スルヲ防クヘキ十分ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 二十三、本仕様書中工事ノ方法ヲ示サ、ルモノ又ハ電線用練鐵管脚筒用練鐵管及送風管ノ位置ハ總テ監督員ノ指定スル所ニ從フヘシ
- 二十四、本仕様書ニ疑義ヲ生シタルトキハ工務課長ノ判決ニ任スルモノトス

横坑位置

坑名	位置	坑名	位置
第一	五一番	第四	九四番
第二	六七、六三	第五	一一〇、四三
第三	八二、一三	第六	一一八、八三

第 七	第 八	第 九	第 十	第 十	第 十
一三六	一三八	一四九	八三	八三	一六〇
八三	八三	二三	一	一	七三
一七〇	五三				

購入材料

品名	員	數	單	價	金	額	供	給	人
煉瓦(燒過)		九、三三八		〇・〇一五	一三九・九二〇		中川	房吉	
金具一式		一一		一八・二〇〇	二〇〇・二〇〇		岩谷	秀次郎	
セメント		一八八		五・〇〇〇	九四〇・〇〇〇		藤本	武助	
礫		二三		四・二五〇	九七・五〇〇		藤澤	半七	
砂		一二		五・九五〇	七〇・〇〇〇		同		
鯨釘					一二九・七七〇		岩谷	秀次郎	

明治四十一年六月十日横坑堀鑿工事ニ對シ入札ヲ行フ

豫定價格

一金五千七百四拾八圓貳拾八錢也

入札價格

金 五、三九七圓 石井友次郎
 金 七、一九三圓 澤井市造
 金 九、二一二圓 井上清介
 金 一、七二二圓 志岐信太郎
 金 一、九八三〇圓 稻葉彌吉

同月十七日右工事入札ノ結果ニ依リ石井友次郎ヲ以テ請負人ト定メ左ノ契約書ヲ徵ス

請負證書

一金五千參百九拾七圓也
 右ハ今般第二疏水工事古關隧道横坑十一ヶ所堀鑿工事請負契約申上候就テハ京都市
 工事請負規則及追加契約書工事方法書圖面ノ通確守シ明治四十一年七月十日ヨリ着
 手シ同年十月七日迄ニ無相違竣成可致若シ本人病氣其他ノ事故ニ依リ請負事業ニ差
 支ヲ生スルトキハ總テ保證人ニ於テ引受義務完了可致尤モ請負規則ニ相背キタル廉
 アリト認定ノ上ハ直ニ第十二條ニ因リ此ノ請負ヲ解止シ保證金ヲ收得相成候ハ勿論
 請負代價ノ義モ同様ノ通リ減却相成毫モ異議無之候仍テ契約書如件

原籍群馬縣邑樂郡大川村
 大字古海百五番地

明治四十一年六月十五日

現住所大阪府下西成郡中津村
大字下三番四十六番地
土木請負人 石井友次郎
京都府南桑田郡西院村
大字万願寺二十九番戸
保證人 長澤 肇

京都市参事會
京都市長 西郷菊次郎殿
横杭堀鑿工事請負追契約書

- 第一條 請負人ハ京都市(以下單ニ市ト云フ)ノ承認ヲ經スシテ本請負ニ關スル權利ヲ讓渡シ其義務ヲ他人ニ移轉セサルモノトス
- 第二條 請負人ハ工事ニ着手ノ時ハ直ニ届出ツルモノトス
- 第三條 請負人ハ工事ノ施行ニ付市主務吏員ノ指揮監督ニ從フヘシ
- 第四條 請負人ハ工事ノ現場ニアリテ施工ニ從事スヘシ若シ事故アルトキハ市主務吏員ノ承認ヲ經タル代理人ヲ差出スヘシ
- 第五條 請負人ハ仕様書及圖面ニ明記ナキモ構造上必要缺クヘカラサルモノハ市主務吏員ノ指揮ニ從ヒ請負金額内ヲ以テ負擔スヘシ
- 第六條 市ヨリ交付ヲ受ケタル材料ヲ毀損滅失シ又ハ保管方不十分ノ爲メ材料ノ効

力ヲ失セシメタルトキハ請負人ハ其損害ヲ市ニ納付スヘシ

- 第七條 工事施行粗漏ノ爲メ市ヨリ交付ヲ受ケタル材料ノ數量カ實地仕上ノ數量ニ比シ超過シタルトキハ請負人ハ其損害ヲ市ニ納付スヘシ
- 第八條 第六條第七條ノ納付金ハ請負金ノ内ヨリ控除シ尙不足スルトキハ契約保證金ヨリ控除セラル、モ異議ヲ唱ヘサルモノトス

- 第九條 使用スル職工人夫ニシテ技能拙劣又ハ不都合ノ所爲アリト認メラレタルトキハ請負人ハ市主務吏員ノ指揮ニ從ヒ何時ニテモ其使役ヲ差止ムヘシ
- 第十條 市ニ於テ必要アルトキハ何時ニテモ契約ヲ解除シ又ハ之レヲ變更シ若シ其ノ履行ヲ中止セラル、コトアルモ請負人ハ異議ヲ唱ヘサルモノトス

前項ノ規程ニ依リ契約ヲ解除セラレタルトキハ既成部分ニ對シテハ相當ト認メラレタル金額ノ支拂ヲ受クルモノトス但此場合ニ於テハ契約保證金モ返付ヲ受クルモノトス

第一項ニ依リ契約ヲ解除セラレタルカ爲メ請負金額ニ増減ヲ生スルトキハ仕様書ノ單價ニ比準シテ之ヲ計算シ若シ比準スヘキモノナキトキハ市ニ於テ相當ト認メラル、單價ニ依ルモノトス

第十一條 前條ニ依リ契約ヲ變更シ又ハ履行ヲ中止サレタル爲メ竣成期間ヲ伸縮スルノ必要アルトキハ市ニ於テ更ラニ定メタル期間ニヨルモノトス

第十二條 請負人ハ請負證書ニ記載セル期間市工事請負規則第十三條及第十一條ニ

ヨリ延期セラレタル場合ハ其期間内ニ工事竣成セサルトキハ遅延賠償金トシテ遅延日數ニ應シ一日ニ付請負金高千分ノ五ニ相當スル金額ヲ市ニ納付スヘシ

第十三條 前條遅延日數二十日ニ及フモ尙工事竣成セサルトキハ工事請負規則第十二條ニ依リ處分セラレ、モ異議ヲ唱ヘサルモノトス

第十四條 請負人ニ於テ本請負ニ關スル義務ヲ果サ、ルトキハ保證人ニ於テ之ヲ履行スルモノトス

第十五條 請負人ハ市又ハ主務吏員ノ認定及處分ニ對シテ異議ヲ述ヘ又ハ損失賠償ヲ請求セサルモノトス

第十六條 本請負工事ノ爲メ請負人ハ市ヨリ左ノ器具材料ノ供給ヲ受クルモノトシ其他ハ一切請負人ノ負擔トス但シ供給ヲ受クル材料ノ受渡場所ハ大津三保崎築地トス

- 一 櫓付土運船三十石積二十二艘以内 毎秒零二立方尺十臺以内
- 一 排水ポンプ 毎秒零五立方尺一臺
- 一 同 同 二十三立方尺二臺以内
- 一 送風機 同 十立方尺九臺以内
- 一 同 同 九千三百二十八枚
- 一 煉瓦 二十二坪二合七勺五才
- 一 礫

- 一 砂 十一坪七合二勺六才
- 一 セメント 百八十七樽五合二勺八才
- 一 爆發藥 三千二百八十九磅
- 一 雷管 一萬九千七百三十四發
- 一 土砂滑用練鐵金具 十一組
- 一 センタク 二十二組以内
- 一 支保用木材 全部
- 一 輕便レール 五メートルレール九十六本以内
- 一 トロツク 十一臺以内

右契約ヲ遵守スル爲メ本證書差出候也
明治四十一年六月十五日
請負人 石井友次郎
保證人 長澤 肇

京都市參事會
京都市長 西郷菊次郎殿

第二疏水横坑工事十一ヶ所掘鑿工事仕様書

一金五千參百九拾七圓也
内譯

工事名稱	職名	數量	單價	金額	摘要
入口アーチ巻	煉瓦職	一四、九〇	一、〇〇〇	一四、九〇〇	煉瓦五千九百八十四枚 千枚ニ付貳圓五拾錢弱
同手	傳人	一一、〇〇	、五五〇	六、〇五〇	同 千枚ニ付壹圓強
同 側壁煉瓦積	煉瓦職	七、三五	一、〇〇〇	七、三五〇	同上三千三百四十四枚 千枚ニ付貳圓貳拾錢
同手	傳人	六、〇〇	、五五〇	三、三〇〇	同 千枚ニ付壹圓弱
アーチ及側壁用セル タル煉瓦運搬	同	二〇、〇〇	、五五〇	一一、〇〇〇	
コンクリート	同	五、〇〇	、五五〇	二、七五〇	
枕木据付	大工	一一、〇〇	、九〇〇	九、九〇〇	
同手	傳人	一〇、〇〇	、五五〇	五、五〇〇	
入口煉瓦 取毀	坑夫	六六、〇〇	一、〇〇〇	六六、〇〇〇	
同	大工	六〇、〇〇	、五五〇	三三、〇〇〇	
セントル組立及 取除	大工	一一、〇〇	、九〇〇	九、九〇〇	
同	大工	一〇、〇〇	、五五〇	五、五〇〇	
填充コンクリート	同	二三七、六〇	、五五〇	一三〇、六八〇	
同	同	七三、六八	、五五〇	四〇、五二〇	
雑役	同	三、六九六、〇〇	一、〇〇〇	三、六九六、〇〇〇	二百三十一坪 一坪ニ付拾六圓
同手	傳人	二、四六三、〇〇	、五五〇	一、三五四、六五〇	同 五圓八拾六錢強
計				五、三九七、〇〇〇	

右ノ通りニ御座候也
明治四十一年七月十五日

請負人 石井友次郎

竣工延期

明治四十一年十月四日工事請負人石井友次郎ヨリ左ノ理由書ヲ提出シテ工事延期ヲ
出願セリ工務課及第一工區長ニ於テ調査ヲ遂ケ市参事會ノ議ヲ經テ許可シタリ

工事竣成期日延期御願

一私請負仕居候京都市第二疏水古關隧道内横坑掘鑿工事ハ十月七日竣功期限ノ處別
紙理由書ノ如キ原因ノ爲メ進行遅延仕候ニ付テハ横坑掘鑿工事追契約第十二條ニ
依リ處分セラル、モ毛頭異議無之候間別紙工程表ノ通十月二十五日迄延期相成度
特別御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也

明治四十一年十月四日

請負人 石井友次郎

京都市長 西郷菊次郎殿

理由書

第一 坑夫作業時間ハ八時間勤務ナルモ交代ノ際、通船ニ由ツテ往復スル爲メ約二
時間ヲ費シ從テ就業時間短縮シ豫定人員ヲ入坑セシムルモ進行遅滞スル事
第二 土砂運搬ニ際シ通船及貨船往復頻繁ノ爲メ意ノ如ク運ハサルニ付豫定數量
ヲ搬出スルコト能ハス爲メニ坑内土砂堆積シ掘鑿ニ障害ヲ生シ止ムナク坑夫ハ

竣工延期

一時休業セサルヘカラサルコト往々有之是亦遅延ノ原因トナルコト

第三 暑中ノ如キハ疏水ノ水温ト横孔内ヨリ湧出スル冷水ト異ナル故使用人員ノ過半ハ疾病ヲ患ヘ爲メニ補缺募集スルモ實地ノ狀況ヲ見テ逃走スル者多ク殊ニ健全ナル者スラ充分ノ勞役ニ耐ヘサル有様ニテ豫定人員ヲ就業セシムル能ハサルコト

第四 御設計ノ勾配ヨリ疏水平水面ニ達スル時ハ該水面ト平均ニ浸水シ又孔内ヨリ湧出スル個所多ク既ニ九號ノ如キハ九月十一日ニ規定尺ニ達シタルモ砂水流出シ今後二週日ヲ要スルニ非ラサレハ竣成不致前陳ノ始末ニテ何レモ豫想外ノ結果ニシテ竣成遅延シタル次第ナルモ今後ハ第三項ノ如キ憂ハ無之其他ノ事項モ充分ナル準備ヲナシ工程表ノ期日ニハ必ス竣工可仕候事

工程表

横坑番號	堀鑿終了期日	竣工期日	横坑番號	堀鑿終了期日	竣工期日
一號	十月六日	十一月七日	六號	同	同
二號	同	同	七號	十月十八日	十月二十日
三號	同	同	八號	堀鑿終了	同
四號	同	同	九號	十月十八日	同
五號	同	同	十號	同	同

横穴堀鑿請負契約解除

請負契約解除

明治四十一年十一月二十日古關隧道横坑十一個處堀鑿工事請負人石井友次郎ニ對スル工事請負契約ヲ解除ス是レヨリ先本工事ハ同年十月七日ヲ以テ竣工トナシ石井友次郎ニ請負ハシメ爾來日夜工事ヲ督セシモ種々ナル故障アリテ期日内ニ竣工セシムルコト能ハス遂ニ請負人ノ情願ヲ容レテ十八日間ノ延期ヲ與ヘタリシモ元來此請負人ハ資力歉短其任ニ堪ヘス遂ニ工事ヲ完成セシムルコト能ハス是ニ於テ大杉工區長ハ狀ヲ具シテ境田工務課長ニ開申シ工務課長ハ總務課ニ移牒シテ市參事會ノ決議ヲ經契約解除ノ手續ヲナシタリ

古關隧道横坑工事請負契約解除通知書

一 明治四十一年六月十五日締結セル古關隧道横坑十一ヶ所ノ堀鑿工事請負契約ハ工事請負規則第十二條ニ基キ之レヲ解除ス

二 市カ徴收スヘキ工事遅延賠償金ハ其ノ對當額ニ付市カ支拂フヘキ工事請負金ト相殺ス

右及通知候也

明治四十一年十一月一日

石井友次郎殿

長 澤 肇殿

京都市參事會
京都市長 西郷菊次郎

四十一年十一月十二日横坑十一ヶ所ノ工事成蹟ヲ調査セシニ十一坑ノ内全ク成工セシモノハ六坑ニシテ残り五坑ハ平均二分七厘七毛ノ工事ヲ残シタリ後此残工事ハ隧道掘鑿工事請負者ニ由テ成工セシメ以テ局ヲ結ヒタリ

横坑工事出來高取調

係四十一年十一月十二日調査

番 號	出 來 高	備 考	番 號	出 來 高	備 考
第一號	二、〇〇	竣 工	第七號	一七、三八	未 竣 工
第二號	二、〇〇	同	第八號	二、〇〇	竣 工
第三號	二、〇〇	同	第九號	二、〇〇	同
第四號	一八、八三	未 竣 工	第十號	一八、八三	未 竣 工
第五號	一八、八三	同	第十一號	二、〇〇	竣 工
第六號	一七、八六	同			

古關隧道以西水路工事

第一工區ニ於テ施行セシ古關隧道以西ノ水路ハ延長二百十二間トナス此ノ内埋立水路ニ屬スルモノ百八十二間開展水路ニ屬スルモノ三十間施工ノ方法ハ隧道以東ニ於ケルモノト同シク地盤ヲ上層下層ニ劃シ先ツ下層掘鑿ノミヲ以テ請負ニ付シタルモノアリ又上下層及埋戻ヲ併セテ請負ニ付シ成形工ハ直營シタルモノアリ此ノ如ク施工方法一定セサルヲ以テ漫然距離ノ標榜タル鎖節ニ付テ見ルトキハ往々重複ヲ免レスト雖モ其實然ラス標榜ハ工事ノ種類ニ仍リ同一ノ符號ヲ襲用セサルヲ得ス便覽ノ爲メ左ニ一括シテ之ヲ掲ク

- 一自一八四鎖八〇節至一九三鎖 延長八十二間 掘鑿工事
- 右四十二年三月二十二日古關隧道ニ接續スル理由ヲ以テ隧道請負人西本健次郎ニ請負ハシム
- 一自一八五鎖至一八九鎖 延長四十間 掘鑿及埋戻工事
- 右四十二年四月二十日同上
- 一自一九八鎖五〇節至二〇五鎖三〇節 延長六十八間 掘鑿工事
- 一自一八九鎖至二〇二鎖 延長百三十間 掘鑿及埋戻工事
- 一自二〇五鎖至二〇六鎖 延長十間 同
- 一自二〇二鎖至二〇五鎖 延長三十間 掘鑿及埋戻工事

右四十四年四月二十七日同上

一自一八九鎖至二〇二鎖 延長百三十間 構築工事

一自二〇五鎖至二〇六鎖 延長十間 同

一自二〇二鎖至二〇五鎖 延長三十間 同

右四十四年四月土工ハ西本健次郎ニ請負ハシメ構築ハ直營トナス

測點自一八五鎖至一八九鎖水路工事

測點自一八五鎖至一八九鎖水路工事

明治四十三年十一月十五日古關隧道西口第一八五鎖ヨリ第一八九鎖ニ至ル四十間水路工事ヲ決定ス而シテ水路ノ構築ハ第一工區ノ直營トナシ水路ノ開掘及水路構築後ニ於ケル復土工事ハ之レヲ西本健次郎ニ隨意契約ヲ以テ請負ハシメタリ

内

材料費 五、一三四圓一六錢

工費 二、一三四圓四〇錢

内

直營額 一、一三四圓四〇錢

請負額 九、九八圓七〇錢

雜費 五〇圓

工事請負契約書

測點自一八五鎖至一八九鎖

一埋立水路崩落及埋戻請負工事

此請負金九百九拾八圓七拾錢也

此契約保證金壹百圓也

竣功期間 着手ヨリ二ヶ月以内

以下例文省略

同 内譯書

一埋立水路崩落及埋戻 三百三十二坪九合

但一坪ニ付金參圓

合計九百九拾八圓七拾錢

明治四十三年十一月四日

和歌山市小野町三丁目三十番地
西本健次郎代理
西本 良吉

工檢第一四號

工檢第一四號 明治四十五年四月二十九日

工事竣成検査報告

施工場所 測點自一八五鎖至一八九鎖
 工事種類 埋立水路掘鑿及埋戻工事
 工費 金九九八圓七〇錢
 請負人 西本健次郎
 竣成期間 自明治四十三年十一月七日至同四十五年三月三十一日 五〇九日
 竣成日 明治四十五年三月三十一日
 検査ノ成績 設計ノ通

測點自一九八鎖五〇節
 至二〇五鎖三〇節水路
 工事

自一九八鎖五〇節至二〇五鎖三〇節水路掘鑿工事

明治四十二年四月二十日古關隧道以西宇治郡山科村大字四宮地内ニ於ケル測點第百九十八鎖五十節ヨリ二百〇五鎖三十節ニ至ル延長六十八間ノ埋立水路ニ屬スル掘鑿工事ハ特選ヲ以テ西本健次郎ニ請負ハシメ左ノ契約書ヲ徵ス

工事請負契約書

測點第自一九八鎖五〇節至二〇五鎖三〇節

一埋立水路掘鑿工事

此請負金四百九拾八圓

此契約保證金五拾圓

以下例文ニ付略之

請負工費見積書

一金四百九拾八圓也

但測點自一九八鎖五〇節至二〇五鎖三〇節ノ間埋立水路掘鑿工事二百四十九坪一坪ニ付金貳圓(土坪二四九)

右ノ通りニ候也

和歌山市小野町三丁目三十番地

西本健次郎代理

西本 良 吉

明治四十二年四月二十日

明治四十二年五月二十日右工事請負人ヨリ掘鑿竣成ノ旨ヲ届出タリ抑モ此ノ八十六間ノ水路ノ上層掘鑿ヲ急施シタルハ當時材料係ニ於テ購入シタル諸材料ハ續々到着シ豫メ皮藏ニ當テタル大津湖岸ノ倉庫ハ既ニ充満セシヲ以テ他ニ運搬及供給ニ便利ナル土地ヲ選ンテ之ヲ分置セサルヲ得ス是ニ於テ第一第二兩工區接續近傍ノ所ニ新ニ土地ヲ購ヒ其低地ニハ水路ヲ掘鑿セシ土砂ヲ以テ之ヲ均ラシ以テ材料置場トナセシモノナリ

工事竣成検査報告

工檢第三號 明治四十二年五月二十五日

工檢第三號

一 施工場所 測點自第一九八鎖五〇節至二〇五鎖三〇節
 一 工事種類 埋立水路掘鑿工事
 一 工費 金四百九拾八圓
 一 請負人 西本健次郎
 一 竣成期日 自明治四十二年四月二十日
 至同 四十二年五月二十日
 一ヶ月間
 一 竣成日 明治四十二年五月二十日
 一 檢査ノ成績 設計ノ通り

測點自一八九鎖至二〇五鎖自二〇五鎖至二一〇鎖自二一〇鎖至二一五鎖自二一五鎖至二二〇鎖水路構築工事

自一八九鎖至二〇二鎖及自二〇五鎖至二〇六鎖水路構築工事
 明治四十三年十二月二十三日古關隧道西口以西測點第百八十九鎖ヨリ二百二鎖ニ至ル百三十間ト同二百五鎖ヨリ第百六鎖ニ至ル十間ト合計百四十間ノ埋立水路構築工事ヲ決定ス而シテ此工事ハ地盤ノ掘鑿土砂ノ被覆及芝植付ハ請負ニ付シ其他構築ハ直營トセリ
 一 工費金二三三八〇圓四七錢
 總 額

一三六四三圓七〇錢		九四三六圓七七錢		三二七八圓八〇錢		六二五七圓九七錢		三〇〇圓	
材料費		工費		直營額		請負額		雜費	
九四三六圓七七錢		三二七八圓八〇錢		六二五七圓九七錢		三〇〇圓		直營工費內譯表	
工種	數量	材料費	工費	合計	工種	數量	材料費	工費	合計
埋立水路構築	1,000	94,367.70	32,780.80	127,148.50	掘鑿土砂	6,958.90	5,000.00	1,158.90	7,158.90
雜費			300.00	300.00	同				
合計		94,367.70	33,080.80	127,448.50	同				

埋 同斜面前芝植付	一、〇八九、〇八五	一、〇〇〇	一、〇八九、〇八五	七四、一〇〇	六、一五七、九七五
合計	七四、一〇〇	一、〇〇〇	七四、一〇〇		

測點自二〇二鎖至二〇五鎖開展水路工事

前記ノ埋立水路中ニ介在シテ三十間ノ開展水路ヲ設クルノ必要アリ是レニ對スル工費ノ調査終リタルヲ以テ同時ニ起工スルコトニ決セリ

一 工費金六、五二一圓四九錢八
 内
 四、一三七圓三一錢三
 二、一八四圓一八錢五
 内
 一、二三一圓七〇錢五
 九五二圓四八錢
 二〇〇圓

材料費
 工費
 直營額
 請負額
 雜費

總額

直營工費内譯表

工種	數量	材料費	工費	合計
水路構築	三、〇〇〇	四、一三七圓三一錢三	一、〇三三圓〇七五	五、二一〇圓四〇八
雜費		四、一三七圓三一錢三	一、〇三三圓〇七五	五、二一〇圓四〇八
合計				五、二一〇圓四〇八

請負工費内譯表

工種	數量	材料費	工費	合計
堀鑿軟岩	10m、100		五、〇〇〇	五、〇〇〇
同土砂	一三五、六〇五		三、〇〇〇	四〇六、八二五
埋戻	二九、六六五		一、〇〇〇	二九、六六五
合計			九、〇〇〇	九、〇〇〇

前掲ニ工事ニ對シ專ラ土工ニ屬スルモノハ西本健次郎ニ前掲ノ豫定ヲ以テ請負ハシメントセシモ請負人ニ於テハ物價騰貴各所一時ニ起工ノ際ナルヲ以テ前例ニ照ラシテハ其任ニ進フルコト能ハサルコトヲ陳シ之レテ承諾セス此ノ交渉ニ殆ント三ヶ月餘ヲ費セシモ到底承諾セサルヲ以テ豫算ヲ更正シテ同人ニ請負ハシメタリ

更正豫算

工事名	直營額	請負額	合計	更正請負増額	更正總額
開渡水路	五、五六九、〇一〇	九五二、四八〇	六、五二一、四九〇	一〇三、二〇〇	六、六二四、六九〇
埋立路水	一七、二二二、五〇〇	六、一五七、九七〇	二三、三八〇、四七〇	六九五、八九〇	二四、〇七六、三六〇
合計	二二、七九一、五二〇	七、一一〇、四五〇	二九、九〇一、九六〇	七九九、〇九〇	三〇、七二一、〇五〇

工事請負契約書

自一八九九額至二〇二額自二〇五額至二〇六額

一埋立水路堀鑿埋戻請負工事

此請負金六千八百九圓參拾四錢也

此契約保證金六百八拾壹圓也

竣功期限明治四十四年十二月末日

右金額ヲ以テ本工事請負候ニ付テハ明治四十二年一月二十五日京都市公告第六號工
事施行規程ヲ遵守シ且設計書并ニ仕様書追加契約事項ヲ遵守シ圖面ノ通期限内ニハ
竣功可致依テ仕様書相添契約書差出候也

和歌山市小野町三丁目三十番地

西本健次郎代理

西本 良 吉

明治四十四年四月二十七日

京都市參事會

京都市長 西郷菊次郎殿

追加契約事項

第一項 排水ポンプハ古關隧道工事ニ使用ノモノニシテ該工事ニ支障ナキ限リ本工
事ニ使用スルコトヲ得

第二項 埋立水路ノ埋立ヲ終リタルトキハ其ノ表面ヲ凹凸ナキ様搔均シ盛土料面ニ
ハ筋芝ヲ殖付ケ其ノ左右ニ監督員ノ指揮ニ從ヒ適當ナル下水溝ヲ堀鑿スヘシ

工費内譯書

種別	數量	單價	金額	摘要
堀鑿軟岩	六九五、八九〇	六、〇〇〇	四、一七五、三四〇	堀鑿及運搬手間
同土砂	五〇五、〇八〇	三、〇〇〇	一、五一五、二四〇	同
埋戻灰	一、〇八九、〇八五	一、〇〇〇	一、〇八九、〇八五	運搬區間及盛土左右下水溝堀鑿手間
筋芝植付	七四、二〇〇	、四〇〇	二九、六八〇	筋芝代及植付手間
合計			六、八〇九、三四五	

工事請負契約書

自二〇二鎖至二〇五鎖

一 開展水路堀鑿埋戻請負工事

此請負金壹千五拾五圓六拾八錢也

此契約保證金壹百六圓也

竣功期限 明治四十四年十二月末日

以下前文ニ同シ略之

和歌山市小野町三丁目三十番地

西本健次郎代理

西本 良 吉

明治四十四年四月二十七日

京都市 參事會

京都市 市長 西郷菊次郎殿

工費内譯書

種別	數量	單價	金額	摘要
堀鑿軟岩	一〇三、二〇〇	六、〇〇〇	六一九、二〇〇	堀鑿及運搬共
同土砂	一三五、六〇五	三、〇〇〇	四〇六、八一五	同
合計			一、〇五五、六八〇	運搬及掘固共

工檢第一五號

工事竣成検査報告

工檢第一五號 明治四十五年四月二十九日

施工場所 測點自一八九鎖至二〇二鎖 自二〇五鎖至二〇六鎖

工事種類 埋立水路堀鑿埋戻工事

工費 金六、八〇九圓三四錢

請負人 西本健次郎

竣成期間 自明治四十四年五月一日至同四十五年三月三十一日 三三六日

竣成日 明治四十五年二月二十日

検査成績 設計ノ通

工事竣成検査報告

工檢第一六號

工檢第一六號 明治四十五年四月二十九日

施工場所 測點自二〇二鎖至二〇五鎖

工事種類 開展水路堀鑿埋戻工事

工費 金一〇五五圓六八錢

請負人 西本健次郎

竣工期間 自明治四十四年五月一日至同四十五年三月三十一日 三三六日
 竣工日 明治四十五年一月十日
 檢査成績 設計ノ通

水路工事施行ニ當ツテ附帶ノ雜工事起リ工費ノ多額ナルモノハ其ノ内譯ヲ記スト
 雖モ其ノ小額ナルモノハ之ヲ略ス

明治四十一年十二月十六日古關隧道東西兩口及大津市街ニ係ル雜工事ノ施行ヲ決セ

一 施工場所

- 一 古關隧道西口石垣取毀
 - 二 第三十五鎮第三十八鎮間隧道東口石垣取毀并再築
 - 三 第三十四鎮第三十八鎮溝渠新築石垣取毀并再築
 - 四 大津市鹿關町及北國通陸橋架設
- 工事期間 三ヶ年間
 工費金 一、一八八圓五七錢
 施工方法 總テ直營トナス
 材料及工費明細表

費目	間敷又		材料費		工費		合計
	坪數	又	單價	金額	單價	金額	
隧道西口石垣取毀	四〇	坪	一、八二七	七三、〇八〇	一、二〇〇	四八、〇〇〇	四八、〇〇〇
三五鎮三八鎮間石垣取毀及再築	四〇	坪	二八〇	五、六〇〇	一、二〇〇	一六八、〇〇〇	二四九、〇八〇
同上本欄木	二〇	坪	三、二〇〇	四八、〇〇〇	一、四〇〇	二八、〇〇〇	一三九、二〇〇
三四鎮三八鎮間溝渠新築	一五	坪	二、七〇〇	四〇、五〇〇	一、四〇〇	二一、〇〇〇	七五、二〇〇
全取毀及再築	二六	坪	三、四八〇	九〇、六〇〇	一、二〇〇	三一、二〇〇	一二七、六八〇
鹿關橋架設	中八、二間	半間		三、四八、三四四		八九、六〇四	七五二、二九四
北國橋架設	中四、二間	半間		一、九六、六六六		五二六、八八四	一二八八、五七四
合計				六七一、六九〇		一一八八、五七四	

明治四十二年七月二日左ノ附屬工事施行ヲ決定シ同年十月十五日竣工セリ

- 一 施工場所 大津市下六門町
- 工事種類 大津聯隊區司令部裏板塀建設 同飲料水井及井戸家形建設 同木樋及井戸家形解放取片付并杉苗植替 同表門内丸庭築山
- 工費金 一五八圓〇二錢
- 工事期間 三十日

水路ハ大津聯隊區司令部敷地内ヲ通過スル爲メ工事中該敷地ノ一部ヲ借用シ又實施ノ際ハ右敷地内ニアル建物ヲ一時他ニ移轉セサルヲ得ス是レ此ノ附屬工事ヲ施工シタル所以ナリ

○
施工場所 大津聯隊區司令部構内
工事種類 堤防築造工事
工費金 二七圓八一錢
工事方法 直營

○
施工場所 古關隧道西口附近下水附替工事
工費金 四九圓三二錢
工事期間 一ヶ月間
工事方法 直營

○
施工場所 測點自一五鎖至二七鎖
工事種類 大津市自一五鎖至二七鎖溝渠一部改築
工費金 九七圓二〇錢

工事期間 四十四年二月末日
工事方法 直營

○
明治四十四年三月十八日水路埋戻ノ進歩ニ依リ先ニ架設シタル鹿關町假橋ヲ解放ス
一 施工場所 大津市鹿關町
工事種類 假橋解放
工費金 五五圓六二錢
工事期間 着手後十日間
工事方法 直營

○
明治四十四年二月四日左ノ工事ヲ決定ス
施工場所 測點自一一鎖至二八鎖三〇節
工事種類 土留及溝石垣工事
工事期間 明治四十四年十二月三十一日
施工方法 材料ハ直營トナシ工事ハ一切請負ニ付ス
一 工費金 八〇一圓二三錢
總 額

内

五五七圓五八錢
二二三圓六五錢

材料費
工費

本工事ハ同區間ニ於ケル埋立水路及ヒ制水門工事ト關聯シテ離分スルコト能ハサル
ヲ以テ西本健次郎ニ請負ハシメタリ

大津市西部飲料水補給
工事

大津市西部飲料水補給工事

大津市西部飲料水補給事件ニ係ル該市トノ交渉顛末ハ載セテ前集ニ在リ則チ明治四
十一年九月兩市ノ協約成リ淨水池ヲ第一隧道南側ノ地ニ設ケ此レヨリ各戸ニ配水セ
ントセシニ其後該市ノ請求ニ由リ淨水池ヲ右關山麓ニ移シ以テ水頭ヲ增加スルコト
ニ改メタリ而シテ脚筒室ハ之ヲ隧道口畔ニ設ケ發動器ヲ据付ケ鐵上發電所ヨリ送致
スル電力ニ由リ以テ所用水量ヲ淨水池ニ送り且配水區域ニハ鐵管ヲ布設シ各戸ニ給
水シ以テ工事ヲ終リタルモノナリ

第二疏水工事施行方法ハ之ヲ大別シテ材料購買工事施行ノ二トナシ材料ハ總務課
之ヲ購買シ工事ハ水路課之ヲ施行ス而シテ又工事施行ニ二操アリ一チ直營トナシ
一チ請負トナス直營ハ總テ工事ト特殊ノ技術ヲ要スルト他ニ附帶事件ノ關係アル
モノトニ限リ請負ハ普通一般ノ工事ニシテ如上ノ範圍外ニ係ルモノニ限ル大津飲
料水工事ハ即チ前段ニ攝スルヲ以テ特ニ之レヲ第一工區ノ分擔トナシ大杉技師ヲ
シテ之レヲ監督セシメ以テ豫定ノ期日ニ竣功シタリ左ニ工費及材料中特種ノ物品

購買ノ手續ヲ掲ケ以テ本工事ノ終始ヲ明瞭ナラシム

工費 豫算

大津飲料水ハ大體ニ於テハ前記ノ如ク直營工事トナセトモ此ノ内事務室及脚筒室并
ニ淨水池ノ屋蓋及材料置場等ハ普通工事ナルヲ以テ之ヲ請負工事トナセリ而シテ直
營ト請負トニ係ル工費ノ豫算ハ左ノ如シ

豫算總額

一金參參壹四參圓〇壹錢

材料費

内

金貳貳六七七圓貳八錢

直營額

金貳壹八五六圓四貳錢八

請負額

金八貳〇圓八五錢貳

工事費

内

金九四參五圓七參錢

直營額

金八七〇〇圓六參錢

請負額

金貳〇五圓壹〇錢

工事雜費

金壹〇參〇圓

及事務所雜料費

此ノ豫算ハ末葉ニ掲ケタル精算ト對照スヘシ

大津飲料水直營工費內譯表

工種	材料費	工費	雜費	小計
水源	三、五〇二、八五四	一、六九一、八六〇	一〇〇、〇〇〇	五、二九四、七一四
木柵	七二、〇三三	三二、七六〇	一〇、〇〇〇	一一四、七九三
放水土管	一一三、二四〇	一二九、四八〇	〇	二四二、七二〇
取入口	六四七、六五六	九七〇、七九〇	五〇、〇〇〇	一、六六八、四四六
送水配水	一七、三五四、七八四	四、九三五、二四〇	三〇〇、〇〇〇	二二、五九〇、〇二四
鹿關鐵管	四三、六一二	八、〇〇〇	五、〇〇〇	五六、六一二
北國鐵管	一、六五〇	一一、〇〇〇	五、〇〇〇	一八、六五〇
水源地給水	二六、一〇〇	二六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六二、一〇〇
舊水道取除	九四、五〇〇	八九四、五〇〇	五〇、〇〇〇	一、〇三九、〇〇〇
雜費其他	〇	〇	一、〇三〇、〇〇〇	一、〇三〇、〇〇〇
計	二一、八五六、四二八	八、七〇〇、六三〇	一、五六〇、〇〇〇	三二、一七〇、〇五八

同請負工費內譯表

工種	材料費	工費	雜費	小計
淨水地屋根	三三〇、一七八	八〇、六五五	〇	四〇〇、八三三
翻筒室及事務室	三五三、四六三	七二、八五〇	〇	四二六、三一三
材料置場	二四七、二一五	五一、六〇〇	〇	一九八、八一五
計	八二〇、八五二	二〇五、一〇〇	〇	一、〇二五、九五二

水道材料

水道材料

飲料水工事ニ係ル諸材料ハ事務取扱規程ニ基キ總務課ニ於テ購買シ以テ之ヲ水路課ニ交付セリ而シテ該購買品中特殊ノ物品ニ限リ左ニ之ヲ掲ク以テ本工事ニ對スル用意ノ程度ヲ示セリ

鐵管

- 一直形鐵管各種八十三噸七三五六
- 但一噸ニ付金六拾六圓
- 一異形鐵管各種六噸一〇七五
- 但一噸ニ付壹百圓

內譯

逆水管之部

種類	内徑	一本重量	本數	重量合計	單價	價金	額
直ソケット形付	六時	三三〇、一〇四	一三〇	三六、〇一二、四八〇	八、四二三	一、〇六一、〇八一	
同	同	二二〇、〇九五	三	六六〇、二八五	九、八二五	二九、四七五	
同	同	一三九、九一五	四	五五九、六六〇	六、二四一	二四、九八三	
同	同	一九五、二二一	二	三九〇、四四二	八、七一四	一七、四二八	
同	同	一三七、一五〇	二	二七四、三〇〇	六、一二〇	一二、二四〇	
同	同	三三三、八一四	一	三三三、八一四	一四、〇〇八	一四、〇〇八	
同	同	九〇、一二〇	一	九〇、一二〇	四、〇二三	四、〇二三	
同	同	九〇、一二〇	二	一八〇、二四〇	四、〇二三	八、〇四六	
同	同	九〇、一二〇	四	三六〇、四八〇	四、二〇三	一六、〇九二	
同	同	九〇、一二〇	二	一八〇、二四〇	四、〇二三	八、〇四六	
同	同	七五、一四二	二	一五〇、二八四	三、三五四	六、七〇八	
同	同	二二〇、六〇九	三	六六一、八二四	九、四〇一	二八、二〇五	
同	同	九七、四三三	一	九七、四三三	四、三九九	五二、一八八	
同	同	一一一、一七八	一	一一一、一七八	四、九九二	四、九九二	
同	同	四四、三六〇	三	一三三、〇八〇	一、九八〇	五、九四〇	

合計	六時	三四、三〇	二	六八、二六〇	一、五二三	三、〇四六
異形管				三六、〇一二、四八〇	六六、〇〇〇	一、〇六一、〇八一
				五、二七三、四〇六	一〇〇、〇〇〇	二三五、四二〇

水源地之部

種類	内徑	一本重量	本數	重量合計	單價	價金	額
片ビスレンヂ	五時	二二八、一一五	七	一、五九六、八〇五	一〇、一八三	七二、二八一	
同	同	一〇九、六二七	四	四三八、五〇八	四、八九三	一九、五七二	
同	同	五〇、五二二	一	五〇、五二二	二、二七九	二、二七九	
同	同	二四五、八一二	一	二四五、八一二	一〇、九七三	一〇、九七三	
同	同	二九二、〇九四	一	二九二、〇九四	一三、〇三九	一三、〇三九	
同	同	一〇一、七二二	二	二〇三、四四二	四、五四〇	九、〇八〇	
同	同	一七五、三八八	二	三五〇、七七六	七、八二九	一五、六五八	
同	同	一五三、八五三	一	一五三、八五三	六、八六八	三、八六八	
同	同	六六、三七二	二	一三二、七四〇	五、九六二	五、九二四	
同	同	八九、六六一	四	三五八、六四四	四、〇〇二	一六、〇〇八	
同	同	三一、二三八	四	一二四、九五二	一、三九四	五、五七六	

總計	直管	異形管	直形	異形
一五、五五五、六〇	六六、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六六、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
四、四六五、四六七	一七六、〇一〇	五、五二六、五五〇	六、一〇七、五	六、一〇七、五

附屬品之部

種類	種類	内徑	個數	單價	價金	額
制水機	六吋	六吋	三	三三、〇〇〇	九九、〇〇〇	
同	五吋	五吋	一二	二七、〇〇〇	三、三四、〇〇〇	
同	三吋	三吋	五	一五、〇〇〇	七五、〇〇〇	
六吋フレンツ管 用ボルトナツト	同	同	二四	〇、八〇	一九、二〇〇	
三吋管 用排水機	同	同	九〇	〇、六五	五、八五〇	
合計			二	一一、〇〇〇	二四、〇〇〇	五六七、八五〇

納入人

陸中釜石鐵山製鐵所主 田中長兵衛

唧筒及電動機

- 一 タービンポンプ アレン社製 二 臺
- 代金壹千貳百參拾四圓
- 一 七馬力半電動機 ハウス社製 二 臺
- 代金五百五拾七圓
- 一 右兩品附屬品一切
- 代金四拾圓
- 合計金壹千八百參拾壹圓
- 仕樣書 二 臺
- 一 電動機直結ポンプ
- 及附屬品一切
- (4) 唧筒
- 一 用途 水道給水用
- 一 形式 タービン式
- 一 水頭 全水頭八十六呎 吸水々頭十五呎 排水々頭六十四呎 損失水頭七呎
- 一 水量 一秒間〇四立方呎以上
- 一 効率 六五%以上

一、本唧筒ニ使用スル鐵管ハ吸水及排水共ニ直徑六吋トス

一、唧筒附屬品

イ、ホール又ハウイング等ノ金屬製フートバルブ

ロ、壓除

ハ、唧筒排水口ニ取付クル「ストップバルブ付」ノンレタンバルブ

ニ、同パイパス

其他必要ナル一切ノ附屬品

(ロ) 電動機

一、用途 前述唧筒ニ直結スルモノ

一、馬力數 六馬力半

一、電壓 二百二十ボルト

一、周波數 六十サイクル

一、アソバメント効率 七十二%以上ニシテ「パワーファクター」ハ〇・八以上タルヘシ

一、温度上昇 八時間以上引續全負荷ノ下ニテ攝氏五十度以下

一、形式 「スターター付」シヨウト、サーキテッドローターイオンダクシヨソ
タイプ

一、電動機ニハ左ノ品ヲ附屬セシムヘシ

イ、三極開閉器

一

ロ、安全器

三

ハ、フレキシブルカップリング

(ハ) 附屬品

一、用途 スイッチボート用 通過電流 三〇アンペリア

一、品目 三極開閉器

電流計「五〇アンペア」

安全器

大阪市北區中之島二丁目十八番地

合資高田商會大阪支店

納入人 支店長 石川 慎 一

變壓器

一五キロワット變壓器 三個

此供給代金貳百九拾七圓

仕様書

(一) 變壓器ハ總テ單相式ノモノニシテ其電壓周波數其他ハ左記ノ通りタルヘシ

容量 五キロワット 一次電壓 三二〇〇ヴォルト

二次電壓 二三〇ヴォルト 周波數 六〇サイクル

コリアー、ロツス 七セツト以下 調 整 二、二パーセント以下
能 率 九六五パーセント以上

(二) 變壓器ノ温度上昇ハ全負荷ヲ以テ八時間引續キ之レヲ使用シタル後外氣ノ温度ヲ
超過スルコト攝氏五十度以下タルヘシ

温度ハ試験前後ニ於ケル巻線ノ抵抗ノ差ヨリ算出スルモノトス

(三) 變壓器ノ一次巻線ト二次巻線間及一次巻線ト鐵心又ハ鐵函間ノ「タイエレクトリツ
ク、ストレンジス」ハ一分間交流電壓一〇〇〇「ヴォルト」ノ刺透試験ニ堪フルモノタ
ルヘク又二次巻線ト鐵心又ハ鐵函間ハ同シク一分間交流電壓二、〇〇〇「ヴォルト」ニ
堪フルモノタルヘシ

(四) 變壓器ハ完全ナル鐵函ハンガー「油油入變壓器ニアリテハ」高壓安全器「變壓器一個ニ
其他必要ナル附屬品一式ヲ具備シタルモノタルヘシ

神戸市三菱造船所
右納入人 所 長 杉 谷 安 一

調 水 器

一 遮水量調節裝置 一個
此供給代金壹百圓也

供給人 岩 谷 秀 次 郎

鉛 管

一 水道給水用内徑四分 三萬五千尺
但厚一分 水壓試験百五十封度以上堪ヘ得ルモノトス
此供給代金參千九百九拾五圓也

同

一 水道給水用内徑四分 七千尺
但厚一分 水壓力一百五十封度以上ニ堪フルモノトス
百尺ニ付單價金九圓拾貳錢八厘
總代金六百參拾八圓九拾六錢

下京區河原町通松原北入二丁目
富永町七四

納入人 倉 田 捨 吉

給 水 栓

品種	數量	單價	全價	摘要
專用給水栓	四五三	六〇〇 <small>円</small>	二七一、八〇〇	標本ノ通
共用給水栓	九七	八〇〇	七七、六〇〇	同
止水栓	五五〇	四五〇	二四七、五〇〇	同
接合管	五五〇	三七七	二七〇、五〇〇	同
鐵蓋	五五〇	三〇〇	一六五、〇〇〇	圖面ノ通
合計	六〇〇		九六九、四〇〇	

防火栓

納入人 林 晋 吉

品名	員數	單價	金額	摘要
孔徑三吋鐵蓋	八	一一、四〇	九一、二〇	京都市鐵管試驗工場納品ノ通り
排氣用鐵蓋	一	五、五〇	四四、〇〇	同上
制水用鐵蓋	五	一、八〇	九、〇〇	京都市納品ノ通
合計			一五一、二〇	

納入人 小 森 元 藏

鉛塊

トレール印生子形
一鉛塊六千四百九十九封度
此供給代金四百七圓六拾七錢也

納入人 戸 田 傳 次 郎

錫及鉛

品名	單量	單價	全價	摘要
錫	二五〇 <small>斤</small>	八二四 <small>円</small>	二〇六、〇〇	
鉛	三〇〇	〇七〇	二一、〇〇	
合計			二二七、〇〇	

納入人 倉 田 捨 吉

木材

一檢及杉 一千二百四十點
此供給代金參百五拾五圓貳拾錢也

供給 人 古澤 豊次郎

砂

一 洗砂利 一寸以下二分止 六十三坪一合
一 洗砂 五厘以下 三十五坪三合

此供給代金九百八拾四圓也

供給 人 小西 總太郎

簡筒室及事務所

簡筒室及事務所

明治四十三年十二月九日簡筒室及事務所建設工事ヲ入札ノ結果後藤甚之助ニ請負ヲ契約ス

一 桁長三十六尺 梁行十二尺 此坪數十二坪
一 附屬便所桁行六尺 梁行三尺 同 五合

此請負金四〇九圓八〇錢

工事竣成検査報告

工檢第九二號

工檢第九二號 明治四十五年四月十二日

施工場所 古關隧道口

工事種類 大津市上水道簡筒室及事務室建設工事

上水池上家工事

上水池上家工事

工 費 金四〇九圓八〇錢
請 負 人 後藤甚之助
工事期間 明治四十三年十二月三日ヨリ同四十四年一月十七日ニ至ル

明治四十三年十月二十一日上水池上家工事ヲ入札ノ結果後藤甚之助ニ請負ヲ契約ス
一 桁行柱真々四十一尺五寸 梁行二十五尺五寸 此坪數二十九坪四合

軒高石口ヨリ軒桁真天迄 一尺八寸
根屋 四寸勾配 切妻造檼瓦葺 周圍羽目板透付金網付 兩妻入口取設兩脇鐵板
張 外部ベニキ塗

此請負金四百圓也

工事竣成検査報告

工檢第九三號 明治四十三年十二月二日

施工場所 大津市上水池

工事種類 上屋建設工事

工 費 金四百圓

請 負 人 後藤甚之助

竣成期間 自四十三年十月十六日至同四十四年十一月三十日 四五日間

工費精算

工事ハ明治四十三年三月二十日着手シ同年十二月末日ヲ以テ其ノ大體ヲ竣リ翌年一月一日ヨリ新設水道ニ由ツテ各戸ニ給水セリ而シテ之ニ附帶スル雜工事ハ氣候ノ爲メ遅延シ三月十五日竣工セシヲ以テ之ヲ大津市ニ引渡セリ是ニ於テ第一疏水工事以來殆ント二十六年間ニ亘レル問題ヲ解決シ兩市間ニ於テ圓滿ニ物件ノ授受ヲ了シタリキ

一金參萬五千六百八拾六圓七拾錢五厘

内

- 諸池費 金四千六百拾壹圓六拾九錢五厘
- 揚水場費 金八百八拾壹圓六拾九錢五厘
- 水管費 金六千七百貳拾八圓貳錢
- 諸井費 金百五拾參圓六拾五錢六厘
- 排水費 金八拾參圓八拾錢
- 架橋費 金五拾參圓九拾貳錢
- 脚筒費 金四千貳百八圓九拾八錢
- 機械器具費 金五百六拾貳圓七拾壹錢
- 給水裝置費 金九千七百參拾壹圓九拾錢

- 建築物造費 金八百九圓八拾錢
- 運搬費 金參百四拾六圓七拾八錢
- 土工費 金參千六拾七圓五拾八錢
- 總係費 金參千五百貳拾七圓貳拾七錢
- 雜費 金八百壹圓貳拾七錢
- 鐵管試驗費 金百拾七圓參拾八錢

- 建築物造費
- 運搬費
- 土工費
- 總係費
- 雜費
- 鐵管試驗費

第二工區

第一工區
第二工區
第三工區
第四工區
第五工區
第六工區
第七工區
第八工區
第九工區
第十工區
第十一工區
第十二工區
第十三工區
第十四工區
第十五工區
第十六工區
第十七工區
第十八工區
第十九工區
第二十工區
第二十一工區
第二十二工區
第二十三工區
第二十四工區
第二十五工區
第二十六工區
第二十七工區
第二十八工區
第二十九工區
第三十工區
第三十一工區
第三十二工區
第三十三工區
第三十四工區
第三十五工區
第三十六工區
第三十七工區
第三十八工區
第三十九工區
第四十工區
第四十一工區
第四十二工區
第四十三工區
第四十四工區
第四十五工區
第四十六工區
第四十七工區
第四十八工區
第四十九工區
第五十工區
第五十一工區
第五十二工區
第五十三工區
第五十四工區
第五十五工區
第五十六工區
第五十七工區
第五十八工區
第五十九工區
第六十工區
第六十一工區
第六十二工區
第六十三工區
第六十四工區
第六十五工區
第六十六工區
第六十七工區
第六十八工區
第六十九工區
第七十工區
第七十一工區
第七十二工區
第七十三工區
第七十四工區
第七十五工區
第七十六工區
第七十七工區
第七十八工區
第七十九工區
第八十工區
第八十一工區
第八十二工區
第八十三工區
第八十四工區
第八十五工區
第八十六工區
第八十七工區
第八十八工區
第八十九工區
第九十工區
第九十一工區
第九十二工區
第九十三工區
第九十四工區
第九十五工區
第九十六工區
第九十七工區
第九十八工區
第九十九工區
第一百工區

第二工區

本工區ニ於テ施工シタル水路ノ全長ハ一千七百七十五間六分四厘ニシテ其ノ内隧道ニ屬スルモノハ柳山ノ三百五十八間三分安祥寺ノ四百六間合計七百六十四間三分其ノ埋立水路ニ屬スルモノハ柳山隧道以東九十五間六分柳山安祥寺隧道間百六十五間安祥寺隧道以四百五十七間七分四厘合計四百一十一間三分四厘ト反是等ノ各工事ニ附帶スル雜工事トナス此ノ各工事ヲ設計スルニ當リ地形上之レヲ七項ニ分チ各工費ヲ調査シ之ヲ事業委員ニ諮リ市參事會ノ決議ヲ經テ數名ノ當業者ヲ集メ競争入札ヲ行ヒ其ノ結果ニ依リ最低價ナル大丸組ニ請負ハシメタリ工事入札毎ニ偶然ニモ同一ノ請負人ニ落札セシチ以テ自然此ノ區間ニ於ケル單獨ノ請負トナリシ爲メ軋轢葛藤ノ患ナク圓滿ニ其ノ工ヲ竣リタリ左ニ掲グル目次ハ市參事會ノ決議ヲ經タル工事ノ種類ニ由リ位置ノ順序ヲ逐フタルモノナリ實地ノ施工ハ專ラ柳山安祥寺兩隧道ヲ主眼トナシ其他東西及中間ノ各埋立水路ハ隧道ノ起工ニ應シテ各着手セリ是レ地形上施工ノ便宜ニ出テタルモノナリ

目次

- 一 第二工區事務所
- 一 埋立水路九十五間六分
- 一 柳山隧道三百五十八間三分
- 一 埋立水路百二十四間

- 一埋立水路四十一間
- 一安祥寺隧道四百六間
- 一埋立水路三十間七分四厘
- 一埋立水路百二十間
- 以上合計一千百七十五間六分四厘
- 一附帶工事

第二工區事務所

第二工區事務所

本工區ハ東ハ第一工區ノ尾端ヲ承ケ西ハ第三工區ノ首端ニ接シ其間ニ於ケル一千百七十五間六分四厘ノ工事ヲ辦理監督スル爲メニ事務所ヲ宇治郡山科村大字安米ニ設ケ又工事見張所ヲ柳山及安祥寺ノ各東西ニ置キテ左ニ技手以上ノ職員ヲ掲ク

- 工區長技師 永田兵三郎
- 柳山隧道東口主任技手 中村清磨
- 同 西口主任技手 中島學
- 安祥寺隧道 主任技手 手島環
- 事務員 松城二威
- 事務員 篠原順三郎
- 技手 前野龍一
- 手 國澤能正

本工區ニ屬スル柳山隧道工事ニ着手セントスレハ地勢上上流ナル測點二百六鎖ヨリ同二百十五鎖五十六鎖山科村四宮地内ニ至ルモノト及下流ナル二百五十三鎖六十節ヨリ二百六十六鎖山科村安米地内ニ至ル埋立水路及之ニ附帶スル雜工事トテ併舉セサルヘカラス仍テ此等ノ調査ヲ遂ケ明治四十二年二月臨時事業委員ニ諮リ市參事會ノ決議ヲ經テ左ノ豫算金額ヲ定メタリ

柳山隧道工事費

柳山隧道工事費豫算

一金一〇九、七六一圓七八錢	內譯	材料費	直營額
金四八、八二四圓八六錢	內	直營額	請負額
四三、九〇〇圓八五錢五		請負額	
四、九二四圓〇〇錢五		工事費	
金五七、二七圓一九錢	內	直營額	請負額
二、一四二圓六九錢六			
五五、一三四圓四九錢四			

金二、六五九圓七三錢
金一、〇〇〇圓〇〇〇

直營起拱石費
雜費

工種	數量	材料費	工費	合計
瀟整	二、一八三、五九九	二、一八三、五九九	〇	二、一八三、五九九
拱煉瓦工	二、五七、七八五	七、二四八〇	二、〇七、九四〇	九、三二五、九四〇
側壁煉瓦工	二、三三、三三六	七、二四八〇	二、二三八九	九、四九六、八三六
拱コソクシート	二、二六、三三八	四〇、一九四	一〇、〇〇〇	五、七四、六三二
同モルタル	二、二五、六六九	一、七五、九〇〇	二、四、九〇〇	四、九六、四〇九
起拱石一枚卷	三、八三、〇〇〇	四、四三三	〇	四、四七、四三三
同三枚卷	二、〇〇、〇〇〇	七、一六六	〇	二、〇七、一六六
同四枚卷	二、〇〇、〇〇〇	一、一四八	〇	二、〇一、一四八
同五枚卷	一、〇〇、〇〇〇	一、五五九	〇	一、〇一、五五九
起拱石兼付二三枚卷	三、八三、〇〇〇	八、一一一	二、六六五	七、五〇九、六六五
同四五枚卷	三、〇〇、〇〇〇	八、一一一	三、五七三	七、〇九〇、六八四
セメント	六、八〇、〇〇〇	二、〇九〇	四、四四〇	九、〇〇〇、〇〇〇
支保工材	三、五八、三三〇	〇	〇	三、五八、三三〇

工種	数量	材料費		工費		合計
		単價	合計	単價	合計	
堀煉瓦工	二、一八三、五九九	二、二五五	四、九三三、〇〇七	二、二三四	四、六三三、〇〇七	五、一三二、四八三
拱煉瓦工	二五、一七九五	〇	〇	一〇、九三〇	五、〇一八、〇七五	五、〇一八、〇七五
側壁同上	一、三三三、三三六	〇	〇	二、五三三	一、三〇六、一九七	一、三〇六、一九七
起拱石据付	三、三八三〇〇	〇	〇	二、五〇〇	八、二〇、七五〇	八、二〇〇、〇〇〇
同四五枚卷	三、〇〇〇〇〇	〇	〇	三、三〇〇	九、九〇〇、〇〇〇	九、九〇〇、〇〇〇
埋道土	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	四、九二四、〇〇七	一、五〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
合計					五五、一三四、四九八	六〇〇、五八五、〇〇五

同請負工費内譯表

支保材	小計	雑費	合計
三五八、二〇〇			九、五五四、六一一
			四八、七〇三、二八三
			一、〇〇〇、〇〇〇
			二、一四二、六九六
			二、一四二、六九六
			四九七、〇〇〇、二二七

同直營工費内譯

工種	数量	材料費		工費		合計
		単價	合計	単價	合計	
拱煉瓦工	二五、一七九五	七、四八〇	一八二、四七五、三七七	八、六六四	二、二七五、四二二	一、八四六、六一九
側煉瓦工	一、三三三、三三六	七、四八〇	八、二四一、五九三	八、六六四	九、七七三、二二二	八、三二二、五一一
仰コンクリート	一、一六三、二二八	四〇、一九四	四六、七五五、六八八	一〇、二〇〇	一、八六五、五四六	五、八三三、三三四
同モルタル	一、一五六九	一、七九〇〇	一、四八一、八八五	二、四一九〇〇	三、三一九、六八八	一、七五四、八五三
起拱石二枚卷	二、八三〇〇	四、四五三	一、二五、九三二	〇	〇	一、二五、九三二
同三枚卷	三、〇〇〇〇〇	七、一六	二、一三四、八〇〇	〇	〇	二、一三四、八〇〇
同四枚卷	二〇、〇〇〇	一、一四八	二二、一九六〇	〇	〇	二二、一九六〇
同五枚卷	一〇、〇〇〇	一、七九九九	一七、五九九〇	〇	〇	一七、五九九〇
起拱石据付用	三、五八〇〇〇	八、一一	二九〇、五八一	〇、七三	二、五七九、八	三、一六三、七三
モルタル	六、八〇〇〇	二、〇九〇	一、四三四、二二〇	四、四〇〇	三〇、一三〇、二〇	一、七三六、〇四〇
合計						一、七三六、〇四〇

小計	雑費	合計
一、五〇〇、〇〇〇		一、五〇〇、〇〇〇
五、一四八、四九四		一〇、八七六、二八八
一、〇〇〇、〇〇〇		一、〇〇〇、〇〇〇
五、二四八、四九四		一〇、九七六、二八八

東部埋立水路

一金四五一五三圓一〇錢	內 譯	材料費
金三一六九一圓五九錢三	內	工事費
金一二三六一圓五〇錢八	內	直營額
三〇八八圓九八錢	○	請負額
九二七二圓五二錢	○	雜費
金一一〇〇圓〇〇〇	○	
東部埋立水路工費		
一金一八七一八圓九四錢	內 譯	材料費
金一三、八四一圓三六錢	內	工事費
金四、三七七圓五八錢	內	直營額
一、三五五圓六〇錢		請負額
三〇二一圓九八錢		雜費
金五〇〇圓〇〇〇		

工費内譯表 (表中六寸又ハ一尺トアルハ混凝土ナリ以下概之)

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	合計	單價	合計	
堀 鑿	六、六二二七		一、八五八、八二六	一、五〇〇	一、八九一、八二六	一、八九一、八二六
水路構築(六寸)	八、五六〇〇		一〇、八五四、八五〇	二、六九八	一、八五七、七七八	二、七二二、〇二八
同 (一尺)	一〇、〇〇〇		一、六〇七、七六〇	二、五六六	二、五六六、六〇〇	六、〇四四、〇三〇
水替	九、五六〇〇			一、〇〇〇	九、五六〇〇	九、五六〇〇
張芝	七、三四〇			一、三五〇	一、一五九	一、一五九
柳川堀鑿	七、〇〇〇〇			一、五〇〇	一、〇六〇、五〇〇	一、〇六〇、五〇〇
拱橋	二、〇〇〇〇	三、〇七六	六、一五二、四〇〇	四、三五〇	八、七〇〇〇	七、〇二二、四〇〇
側壁	二、〇〇〇〇	二、三三九	二、四七一、八〇〇	一、九六〇	三、九二二、〇〇〇	二、八六三、八〇〇
拱外柱	二、〇〇〇〇	二、五六一	五、一六四、二〇〇	二、〇八〇	四、一六六、〇〇〇	五、五八〇、二〇〇
小計			一、三、八四一、二六〇		四、三、七七五、八三三	一、八、二二八、九四三
雜費			五〇〇、〇〇〇			五〇〇、〇〇〇
合計			一、四、三四一、二六〇		四、三、七七五、八三三	一、八、七、一、八、四四三

直營工費内譯表

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	合計	單價	合計	
水路構築(六寸)	八五六〇〇	二六・八〇九	二,二八四,八五〇	二・三六	二〇,三八八,八四二	二,八九三,六九二
同 (一尺)	一〇,〇〇〇	二六・七六七	二,六七六,七〇〇	四・九九六	四〇,八九九,六〇〇	一,七五九,六〇〇
拱壁	二〇,〇〇〇	三〇・七三三	六,一四七,四〇〇	四・三五〇	八七,〇〇〇	七〇,二四〇
側壁	二〇,〇〇〇	二・三五九	二四七,一八〇	一・九六〇	二九,二〇〇	二八,二四〇
外棹	二〇,〇〇〇	二・五八二	五一六,四四〇	一・〇八〇	四一,六〇〇	五五,六〇〇
小計			一三,八四一,六六〇		一,三五五,六〇三	一五,一九六,九六三
雜費			五〇〇,〇〇〇			五〇〇,〇〇〇
合計			一四,三四一,六六〇		一,三五五,六〇三	一五,六九七,二六三

同請負工費內譯

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	合計	單價	合計	
堀	二二六・二二七					一,八九一,八二六
水路構築(六寸)	八五六〇〇					八一八,三三六
同 (一尺)	一〇,〇〇〇					一〇七,六〇〇
水替	九五六〇〇					九五六,〇〇〇
合計						三,〇五三,〇六二

張	柳川堀	芝	合計	
			單價	合計
七・三三〇	七,〇〇〇		七,三三〇	
七・五〇〇				七,五〇〇
合計			七,三三〇	一四,八三〇

西部埋立水路工費

一金二六,四三四圓一六錢

內譯

- 金一七,八五〇圓二三錢二
- 金七,九八三圓九二錢八
- 內
- 金一,七三三圓三八錢四
- 金六,二五〇圓五四錢四
- 金六〇〇圓〇〇〇

工費內譯表

- 材料費
- 工事費
- 直營額
- 請負額
- 雜費

工種	數量	材料費		工費		合計
		單價	合計	單價	合計	
堀	二,三七九坪	〇	〇	二,〇〇〇	四,七五九・八六	四,七五九・八六

水路構築(六寸)	同(一尺)	水替	張芝	拱樁	側壁樁	拱外樁	小計	雜費	合計
101,000	22,000	13,000	9,000	3,000	2,000	2,000	20,000	1,000	101,000
22,600.9	1,600.7	0	0	3,000.0	2,250.0	2,250.0	20,000.0	1,000.0	22,600.9
2,934.5	3,536.8	0	0	6,150.0	2,250.0	2,250.0	20,000.0	1,000.0	2,934.5
2,169.6	2,565.6	2,000.0	3,151.8	4,500.0	1,960.0	2,080.0	20,000.0	7,992.9	2,169.6
5,147.5	5,641.3	2,000.0	3,151.8	8,000.0	2,920.0	4,160.0	20,000.0	26,433.4	5,147.5
1,014.5	1,107.5	2,000.0	3,151.8	5,500.0	2,920.0	5,500.0	20,000.0	26,433.4	1,014.5

同直營工費內譯

水路構築(六寸)	同(一尺)	拱樁	側壁樁	工種	數量	材料費	工費	合計
101,000	22,000	2,000	2,000	101,000	22,000	2,000	2,000	101,000
22,600.9	1,600.7	2,250.0	2,250.0	22,600.9	1,600.7	2,250.0	2,250.0	22,600.9
2,934.5	3,536.8	6,150.0	2,250.0	2,934.5	3,536.8	6,150.0	2,250.0	2,934.5
2,169.6	2,565.6	4,500.0	1,960.0	2,169.6	2,565.6	4,500.0	1,960.0	2,169.6
5,147.5	5,641.3	8,000.0	2,920.0	5,147.5	5,641.3	8,000.0	2,920.0	5,147.5
1,014.5	1,107.5	5,500.0	2,920.0	1,014.5	1,107.5	5,500.0	2,920.0	1,014.5

拱外樁	小計	雜費	合計
22,600.9	1,600.7	2,000.0	22,600.9
2,934.5	3,536.8	6,000.0	2,934.5
2,169.6	2,565.6	1,733.3	2,169.6
5,147.5	5,641.3	6,000.0	5,147.5

附帶工事

附帶工事費

埋立水路橫斷工事

一金一、二二圓六二錢
 內譯
 金七、七九圓二六錢
 金三、一三圓三六錢
 內
 金一、五圓三二錢
 金二、九八圓〇四錢
 金二、七四圓九二錢
 內譯
 金一、四九圓九八錢五
 金一、一九圓九三錢五

材料費
 工事費
 直營額
 請負額
 大立寺道蓋土工事、安茶道及
 シホ1+設器工事、下東工事

内

金八圓一九錢七
金一一圓七三錢八
金五圓〇〇〇

直營額
請負額
雜費

工費說明

工費說明

一 隧道掘鑿

火藥類燈油燈心等ノ諸材料代價掘鑿排水通風支保材ノ組立土石ノ搬出并ニ土石捨場ノ地均法保護等ノ諸費其他之レニ屬スル一切ノ費用支保材土運車輕便軌條同附屬品一切ヲ支給シ排水及通風機ハ市ヨリ貸與ス

一 煉瓦工

煉瓦ノ洗滌小運搬卷立目塗水ノ搔乾及拱ノ組立取除諸材料小運搬等ノ諸手間賃及ヒ之ニ屬スル一切ノ費用

煉瓦拱棒及卷立用モルタルハ隧道東西兩口附近ニ於テ支給ス但モルタル練方ハ市ニ於テニ於テ之ヲ行フ

一 起拱石据付

起拱石及据付用モルタルノ小運搬及据付等ノ手間賃

起拱石及モルタルハ隧道東西兩口附近ニ於テ支給ス但モルタル練方ハ市ニ於

テ之ヲ行フ

一 隧道兩口埋立

埋立土砂ノ運搬地均法保護又ハ永久切取部ノ張芝等

一 埋立水路掘鑿

土砂岩石平均ノ單價ニシテ掘鑿排水及土捨場迄土石ノ運搬及土捨場ノ地均法保護土砂留工及本區域内水路上部ノ埋戻等

一 水路構築

側壁枠ノ小運搬組立取除インパート遺形設置同コンクリート練方小運搬搗固メ水搔乾等一切ノ費用

材料ハ市ヨリ支給ス水路アトチハ市ニ於テ施工ス
側壁及インパートコンクリート一間當リ立坪左ノ如シ

種 類	土質六寸	岩質六寸	土質一尺	岩質一尺
側 壁	〇、八七四	〇、五〇〇	一、〇四一	〇、五〇〇
インパート	〇、三六三	〇、三六三	〇、三六三	〇、三六三

一 張芝

水路埋戻ニ當リ法保護ノ爲メ行フモノニシテ芝止杭等ノ代價及張芝手間賃等一

切ノ費用

一柳川堀鑿

埋立水路又ハ隧道堀鑿ニ當リ排水ノ目的ニ出ルモノニシテ堀鑿及土石運搬土捨場ノ地均法保護等ノ費用

一横斷下水道路復舊マンホール

構造物完成ニ要スル一切ノ費用

工事請負

工事請負

明治四十二年三月三十一日本工事ニ對スル請負入札ヲ行ヒシニ其結果左ノ如シ

豫定價格

一金六九七四〇圓八〇一

入札價格

六三、四一〇圓二五錢

七二、九〇〇圓〇二錢

七九、二七二圓七七錢三

九八、七七九圓六六錢七

低價鈴木辰五郎ヲ請負人ト定メ左ノ契約書ヲ徴セリ

工事請負契約書

工事請負契約書

鈴木辰五郎
西木健次郎
有馬組
稻葉彌吉

一柳山隧道開鑿外五廉工事

此請負金六萬參千四百拾圓貳拾五錢也

此契約保證金六千參百四拾貳圓也

竣工期限 明治四十三年十二月八日

右金額ヲ以テ本工事請負候ニ付テハ明治四十二年一月二十五日京都市公告第六號工事施行規程及左記追加契約事項ヲ遵守シ且設計書仕様書圖面ノ通期限内ニハ必ス竣工可致候仍テ内譯書相添契約書差出候也

大阪市東區今橋四町目十五番屋敷

大丸組大阪支店

明治四十二年四月六日

支配人 鈴木辰五郎

同 市西區幸町通四丁目二十七番屋敷

連帶保證人 鈴木勝太郎

京都市參事會

京都市長 西郷菊次郎殿

追加契約事項

第一條 請負工事ノ爲メ請負人ハ必要ニ應シ市ヨリ左ノ材料ニ限り交付ヲ受クルモノトス

追加契約

名稱	數量	備考
輕便軌條	一哩	
支分部組	四組	
土運車	三〇輛	
セントル	六八組	
電燈	若干	
燒過煉瓦	一、三六七、四六〇枚	拱用九五六、七八三枚側壁用四三〇、六七七枚
モルタル	九一坪二一	配合、一、三、拱用六〇坪四三、側壁用一七坪二、起拱据付用三坪五
起拱石	三五八間三分	一才八六ノモノ一七〇個 三才七六ノモノ一、八〇〇個 四才二
支保用材	一式	六ノモノ一二〇個 六才一六ノモノ六〇個

本工事施行ニ必要ナル假設工事若シハ借入品ハ勿論前項規定ノ器具物件并ニ其ノ數量以外ノモノニ對シテハ請負人ノ負擔トス但材料ノ交付ハ東西兩隧道口又ハ兩隧道口最寄便宜ノ位置ヲ指定スト雖モ時宜ニ依リ第二工區事務所附近ニ於テ交付スルコトアルヘシ

第二條 排水ポンプ送風機ハ必要ニ應シ隧道兩口適宜ノ場所ニ市ニ於テ据付ヲナスモノトス此場合据付ニ要スル設備ハ請負人ニ於テ之ヲ爲スヘシ但請負人ニ於テ据

付ノ位置ヲ變更セントスルトキハ市當該吏員ノ承認ヲ得自費ヲ以テ變更スルコトヲ得

請負人ハ器械ノ効力ニ就キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三條 市ハ請負人ニ市設火藥庫ノ一部又ハ全部ノ使用ヲ許可スルモノトス請負人ノ使用スル火藥類ハ火藥庫以外ニ貯藏スルコトヲ得ス但市ノ承認ヲ得タル場合ハ此限リニアラス

第四條 請負人ハ火藥庫ニ關スル一般ノ法令ニ從フハ勿論火藥庫ニ看守人ヲ置キ晝夜警守セシムヘシ

第五條 火藥庫ハ市當該吏員立會ノ上ニアラサレハ請負人任意ニ出納スルコトヲ得サルモノトス

第六條 請負人ハ火藥類使用箇所並ニ其ノ數量ニ付市當該吏員ノ指揮ニ從フモノトス

第七條 市ヨリ測量ノ爲メ工事休止ヲ命セラレタルトキハ請負人ハ自己使用職工人夫等ニ其旨申渡測量上ニ支障ナカラシムルハ勿論充分便利ヲ與フヘシ

第八條 掘鑿シタル土砂岩石等ハ平面圖ニ掲ケタル土捨場又ハ其ノ附近市有地ノ内市當該吏員ノ指示セル箇所ニ運搬ノ上遺棄スヘシ但市ノ承認ヲ得タルトキハ他ノ場所ニ遺棄スルコトヲ得

第九條 總テ工事ハ其ノ位置及高低ヲ示ス爲メ堅牢ナル遺形ヲ請負人ノ負擔ヲ以テ

建設スヘシ

第十條 工事施行規程第五十條ニ依ル内譯金ノ限度ハ既成部分ニ對スル見積高十分ノ九トス

第十一條 工程五分以上ニ達シタルトキハ請負金内渡高ニ對スル契約保證金ヲ請負人ノ請求ニヨリ還付ス但計算上返付金ニ圓未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ圓止トス

追加契約事項

埋立水路及横斷下水雜工事ニ係ル分

第一條 請負工事ノ爲メ請負人ハ必要ニ應シ市ヨリ左ノ材料ニ限り交付ヲ受クルモノトス

名 稱	自一〇六 續	自一五三 續六〇 節	自二二一 續一〇 節	大立寺及安米道マンホ ール
松丸太	〇	〇	〇	九坪二二
割石尺五	〇	〇	〇	一坪八二四
栗石	〇	〇	〇	一坪八二四
礮	一二〇立坪	一五七立坪	二四坪七五	一坪一六
砂	六〇立坪	七八立坪五	〇	一三尺六
切石尺角	〇	〇	〇	〇

火 山 灰	セメント	側 壁 棒	鯨
四四〇駄四	七一五樽四	二〇組	〇
五六七駄六	九四二樽	二〇組	六一本

本工事施行ニ必要ナル假設工事若クハ借入品ハ勿論前項規程ノ器具物件并ニ其ノ數量以外ノモノニ對シテハ總テ請負人ノ自辨トス但材料ノ交付ハ木工區内ニ相當スル現在疏水運河附近ニ於テ其ノ位置ヲ指定スト雖モ時宜ニ依リ第二工區事務所附近ニ於テ交付スルコトアルヘシ

第二條 水路堀鑿ニ當リ火藥ヲ用フルノ必要ヲ生シタルトキハ市ヨリ請負人ニ市設火藥庫ノ一部又ハ全部ノ使用ヲ許可スヘシ請負人ノ使用スル火藥類ハ前項火藥庫以外ニ貯藏スルコトヲ爲ス但シ市ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限リニアラス

第三條 請負人ハ火藥庫ニ關スル法令ニ從フハ勿論火藥庫ニ看守人ヲ置キ晝夜警守セシムヘシ

第四條 火藥類ハ市當該吏員立會ノ上ニアラサレハ請負人任意ニ出納スルコトヲ得ス

第五條 請負人ハ火藥類使用個處並ニ其ノ數量ニ付當市該吏員ノ指揮ニ從フヘキモノトス

第六條 市ヨリ測量ノ爲メ工事中止ヲ命セラレタル場合ハ請負人ハ自己使用ノ職工人夫等ニ其ノ旨申渡シ測量上ニ支障ナカラシムルハ勿論充分便利ヲ與フヘシ

第七條 堀鑿シタル土石ハ平面圖ニ掲ケタル土捨場及ヒ其ノ附近市有地ノ内當該吏員ノ指示セル個處ニ運搬ノ上遺棄スヘシ但市ノ承認ヲ得タルトキハ他ノ場所ニ遺棄スルコトヲ得

第八條 堀鑿及構築ハ其ノ位置及ヒ高低ヲ示ス堅牢ナル遺形ヲ請負人ノ負擔ヲ以テ建設スヘシ

第九條 市ニ於テ必要ト認メタルトキハ「コンクリート」工ヲ直營トナスコトアルヘシ

第十條 工事施行規程第五十條ニ依ル内渡金ノ限度ハ既成部分ニ對スル見積金高ノ十分ノ九トス

第十一條 工程五分以上ニ達シタルトキハ請負金内渡高ニ對スル契約保證金ヲ請負人ノ請求ニヨリ一回之レヲ還付ス但計算上返付金ニ圓未満ノ端數ヲ生スルトキハ之レヲ切捨テ圓止トス

名稱	數量	單價	金額	摘要
隧道堀鑿	二、一八三、五九五	二二・七〇〇	四七、三八四・〇一五	火藥ヲ含ム
拱煉瓦工	二五、一七八五	一六・〇〇〇	四、〇二八・五六〇	梓組立及取除ヲ含ム
合計				

自二百〇六號埋立水路工事内譯書
至二百十五號五十六節

一全參千百八拾六圓九拾七錢也

名稱	數量	單價	金額	摘要
堀煉瓦工	一、一三、三三六	一三・〇〇〇	一、四七三・三六〇	
起拱石掘付工	三、二八、三八〇	・八〇〇	二六、二六四・〇〇〇	兩側
同四五枚卷	三〇、〇〇〇	・八〇〇	二四・〇〇〇	同
隧道西口埋戻土砂	一〇〇〇、〇〇〇	・七六〇	七六〇、〇〇〇	
合計			五三、九三二・五七〇	

名稱	數量	單價	金額	摘要
堀鑿	一、二六、一三七	一・七五〇	二、二〇七・七一二	水替ヲ含ム
水路構築(六寸)	八五、六〇〇	九・三五〇	八〇〇、三六〇	側壁梓組立取除ヲ含ム
同(一尺)	一〇、〇〇〇	一〇・六〇〇	一〇六、〇〇〇	同
張芝	七、三四	・三八〇	二、七九〇	芝草ヲ含ム
柳川堀鑿	七〇、七〇	一・〇〇〇	七〇、七〇〇	木替ヲ含ム
合計			三、一八六・九七〇	

自二五三番六〇番埋立水路工事内譯書
至二六六番埋立水路工事内譯書
一金五千九百八拾圓參拾錢

名稱	數量	單價	金額	摘要
堀鑿	二、三、七、九、五、九、三	二、〇〇〇	四、七、五、九、一、八〇	
水路構渠(六寸)	一〇、二、〇〇〇	九、三、五〇	九、五三、七〇〇	
同(一尺)	二、二、〇〇〇	一〇、六〇〇	二、三三、二〇〇	
張芝	九〇〇、五〇	三、八〇	三、四二、二〇〇	
合計			五、九八〇、〇〇〇	

横斷下水工事内譯書
一金貳百參拾六圓五拾貳錢也

名稱	數量	單價	金額	摘要
堀鑿	二、〇、〇〇〇	六、七〇	一、三、四〇〇	
盛土	四、七、〇〇〇	五、〇〇	二、三、五〇〇	
下水側壁石垣	八、九、二〇〇	二、七〇〇	一、七、八、四〇〇	裏栗(一分五厘)詰込土敷木据付止杭打込等ノ手間賃ヲ含ム
落口石垣	五、五、五〇	一、六〇〇	八、八、八〇〇	裏栗(一分)詰込手間ヲ含ム
合計			二、三、六、五、二〇〇	

二五五番二〇番大立寺道盛土、二六六番七三番安茶道マンホール、二六四番四〇番下水工事内譯書
一金七拾參圓八拾九錢也

名稱	數量	單價	金額	摘要
二五五番二〇番大立寺道盛土	三、三、七、五〇	六、〇〇	二〇、〇二五〇	
マンホール蓋石垣	二、七、二〇〇	五、〇〇	一、三、六〇〇	据付手間ヲ含ム
溝石垣	五、一、二〇〇	二、〇〇〇	一〇、二、四〇〇	裏栗(一分)詰込手間ヲ含ム
同路上敷砂利	六、〇〇〇	三、〇〇	一、八〇〇	申一四尺厚五寸
假道敷設	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
二六四番四〇番溝石垣	四、〇〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	裏栗(二分)詰込手間ヲ含ム
合計			七三、八、九〇	

隧道及水路工事

明治四十二年四月十五日是レヨリ先キ柳山隧道外五項ノ工事ハ入札ノ結果之レヲ大丸組ニ請負ハシメタルヲ以テ第二工區長永田技師ハ隧道ヲ中央ヨリ兩分シ東ヲ東口ト西ヲ西口ト稱シ各工事見張所ヲ置キ而シテ第一工區ノ境界ナル第二百六鎖ヨリ第二百十六鎖ニ至ル即チ隧道東口ニ至ル百間ノ水路埋立ト及ヒ之レニ附屬セル雜工事ヲ東口ニ附屬セシメ又隧道西口以西即チ三百二十一鎖ヨリ三百三十七鎖ニ至ル百六十間ノ埋立水路ト及ヒ之レニ附屬スル雜工事トナシ西口ニ隸シ東西ニ主任各一名ヲ置キ工手以下ヲ分屬シ技手中村清磨ヲ東口主任ニ技手中島學ヲ西口主任ニナシ以テ工事ヲ指揮監督セシム又請負人ヲシテ工程豫定表ヲ提出セシム

工程御届

工種	着手	竣工	期間	平均一日進行	摘要
隧道両口掘鑿	四二年四月二日	四二年五月五日	三四日	!	
一號	同 五・一五	同 四三・七・二	四一四	五・三	西口三尺 東二尺三寸
大背	同 七・一	同 八・一〇	四〇六	五・三	西口三尺 東口二尺三寸
煉瓦	同 九・一	同 八・二八	三六二	五・九	
堀鑿	同 四・二二	同 六・二四	六〇		自二〇六鎖至二二二鎖
水路構築	同 六・二二	同 八・三一	九二		同上

堀鑿	同 四・二二	同 九・三〇	五三七		自二二二鎖至二二五鎖五六節
水路構築	同 四三・九・一	同 一〇・二〇	五〇		同上
埋戻	同 一・一	同 一・二・五	三五		隧道東口附近
堀鑿	同 四・二二	同 一〇・二二	一八四		自二五七鎖至二六六鎖
水路構築	同 八・一	同 一・三〇	一一二		同上
堀鑿	同 四・二二	同 九・三〇	五三七		自二五三鎖六〇節至二五七鎖
水路構築	同 四三・九・一	同 一〇・二〇	五〇		同上
埋戻	同 一・一	同 一・二・五	三五		隧道西口附近

下水道路附替等ノ諸工事ハ各相當水路構築期間ニ施工スルモノトス

大丸組支配人

鈴木辰五郎代理

明治四十二年四月十八日

小畑常次郎

京都市参事會

榎元安太郎

京都市長 西郷菊次郎殿

明治四十二年四月十六日工事請負契約ニ照シ請負人ノ請求ニ由リ左ノ器具ヲ貸附ス

品目	隧道東口分	同	西口分	合	計
十二封度レール	一八二		四六二	六四四	六四四
同上用狭接板	三六四		九二四	一二八八	一二八八
ボイントクロツシグ異形狭接板	四		二	一六	一六
狭接板用ボールド	七三六		一、八七二	二、六〇八	二、六〇八
狗釘	三、〇〇〇		七、五六〇	一〇、五六〇	一〇、五六〇
ボイントクロツシグ(右)	一		一	二	二
同上(左)					
土運車(車共)	八		三	一一	一一
ト					
枕木					二、六四〇

明治四十二年五月八日初メテ東口開鑿ニ着手シ續テ同月二十六日西口ニ着手ス四十

三年七月二十日無事ニ導坑貫通東西連絡ス隧道掘整ノ方法タルヤ豫メ坑中ヲ嵩シテ五段トナシ第一段ヲ導坑ト稱ス導坑連絡ノ遲速ハ著シク他ノ作業ニ影響スルヲ以テ着手以來東西各主任ハ相競フテ請負人ヲ督シ工事ノ進捗ヲ圖リタルヲ以テ遂ニ四百五十九日間ヲ以テ無事ニ貫通セリ

東西共通三五八間三分 一日平均 四尺六八
 東口 一七九間八分 同 二尺三五強
 西口 一七八間五分 同 二尺三三強

第二段掘整 東口ハ四十二年五月三十日西口ハ六月二十五日着手シ此他第三第四及ヒ第五即坑底掘整等ハ一方ニハ成形工ヲ施スヲ以テ勢該工事ト緩急相應スルノ必要アリ故ニ着手ノ日亦同シカラサルモ一切ノ竣工ヲ告ケシハ四十四年五月十五日ニシテ此間日ヲ開スルコト七百二十八殆ント二ヶ年ナリトス

本工事ハ初メ四十二年十二月五日ヲ竣工期ト豫定セシニ同年九月七日午後二時東口ヲ距ル九十間點ヨリ百二間點ニ至ル約十二間ノ間ニ於テ俄然坑内崩壊シテ通道ヲ填塞セリ此ノ位置タル四十二年十一月頃ノ掘整ニ係リ地質ハ粘盤岩ニシテ當時ハ漏水甚ク少ク地盤軟弱ヲモ認メサリシカ元來此ノ地表ハ即チ豁谷ニシテ且開坑後既ニ一歳ニ垂タレトモ未ダ成形工ヲ施スノ場合ニ至ラサリシヲ以テ自然支保工ノ解弛ナキヲ保シ難ク殊ニ九月ノ候ハ山城地方ニ於ケル最大雨量期タルヲ以テ積日ノ雨水豁谷ヨリ岩層石理ヲ傳フニ滲漏シ其ノ水量漸次増加シ爲メニ上部壓迫ノ力大ニ加ハリ支

保工ヲシテ支持ノ力ニ堪フルコト能ハサラシメ遂ニ此ノ不幸ヲ惹起シタルヘキモ幸ニシテ一人ノ死傷者ナカリシ而シテ崩壞距離ハ僅ニ十二間ニ過キスト雖トモ上部ニ一大空隙ヲ生シ崩落土砂ヲ除クニ隨ヒ土砂益墜落シ復舊頗ル困難ナリシ工區長ハ主任技手以下及請負人ヲ督勵シ日夜土石ノ排除坑道ノ開通ニ力メシニ遂ニ同月二十五日ヲ以テ兩道ヲ連絡セシムルコトヲ得且上部空隙ノ處ニハ更ラニ塊石ヲ填充シテ全ク舊形ニ復シタリ

坑内地質 東口以西約四十間ハ純ラ角矽岩ニシテ此レヨリ導坑ノ部分ニ石盤岩ヲ露ハシ長サ四十間ニ達シ再度角矽質ニ復ス此ノ間僅ニ六間ニシテ粘盤岩ニ變シ遂ニ西口ト連絡シタリ西口ハ坑口十六間ハ硬質粘土ニシテ夫レヨリ角矽岩ト沙岩トヲ混スルコト五十間ニシテ僅カノ石盤岩ヲ露ハシ再度角矽岩ニ變ス此ノ間ニ二百五十間ニシテ僅少ノ砂岩質ヲ混シタル粘盤岩トナリ以テ東口ト連絡シタリ是ノ如キ地質ナリシヲ以テ隧道掘鑿ノ程度ハ所謂剛柔其ノ中ヲ得タルモノニシテ之ヲ小關隧道ニ比スレハ甚タシキ困難ナカリキ

湧水 隧道掘鑿ニ伴フ湧水ハ殆ント免ルヘカラサルモノナレトモ東口ハ坑口ヨリ導坑ノ掘鑿六十間ニ達シ初メテ少量ノ湧水アリタル爲メ水汲人夫一人ヲ役シテ之ヲ辱出セリ爾後一人ニテ能ク辱水ヲ全セリ其ノ後東部ノ埋立水路開掘ニ着手スルニ及ンテ此ノ部分ニ多量ノ湧水アリタルヲ以テ四十三年一月二十一日請負人ニ於テ唧筒一臺ヲ据付ケ以テ兩所ノ排水ニ兼用シタリ西口ハ東口ニ比スレハ坑道進行ノ遅々ニモ

拘ハラス湧水多カリシヲ以テ四十二年九月十一日ヨリ直營事業ノ一部トシテ唧筒ヲ据付ケ以テ辱水ニ勉メタリ而シテ此唧筒運轉ニ要セシ動力ハ水利事務所ヨリ電力ヲ送り以テ其ノ用ニ供シタリ

成形工 本隧道ノ構造ハ穹窿及側壁ニハ悉ク煉瓦ヲ用ヒ壁礎ニハ人造石ヲ用ヒ下穹ハセメントニ火山灰ヲ混用シタルコンクリートヲ用ヒタリ而シテ瓷磚ハ地質ノ硬軟ニ由リ其枚數ヲ異ニシ其ノ硬堅ナル所ニハ二枚乃至三枚其柔軟ナル所ニハ四枚乃至五枚ヲ用ヒ或ハ右側ハ硬ニシテ左側ハ軟ナリシ爲メ左右各其ノ枚數ヲ異ニセシ部分アリ左ニ着手及成功ノ月日ヲ掲ケ以テ進行ノ程度ヲ示ス

工種	東		西	
	着手	成工日數	着手	成工日數
穹窿	四三年一月二十四日	四三年二月五日	四二年一月三日	四四年二月一日
側壁	同 一九	四四年二月二日	同 二〇	同 一三〇
壁礎	同 四	同 同	同 一・二〇	同 同
穹下	四四年五月六日	同 五・六	四三年一月七日	同 五・六

又隧道掘鑿ニ消費セシ火藥類左ノ如シ

種類	東	西	計
ダイナマイト	四、八二四、二	七、六八四、二	一二、五〇八、三

雷管	三六、一九二	五五、七六六	九一、九五八
導火線	四九、八四二	七四、九六四	一二四、八〇五

請負一部變更

請負一部變更

明治四十四年四月十七日はヨリ先キ柳山隧道其他聯屬工事ハ同月十五日ヲ以テ竣工期トナシ隧道東西両口埋戻工事ノ一部ヲ除ク外ハ全部竣工セシモ其附近ニ於ケル直營工事ニ係ル埋立水路穹窿工ノ成ルニアラサレハ隧道東西両口埋戻工事ノ殘部ヲ竣成セシムルコト能ハス而シテ直營工事ニ係ル部分ハ刻下早急ニ竣工セシムルコト能ハサリシヲ以テ寧ロ此際大丸組ノ請負ニ屬スル殘工事ノ一部ヲ解キ之ヲ直營トナスノ便利ナルヲ以テ請負人へ協議ヲ遂ケ市參事會ノ決議ヲ經テ之レヲ變更シタリ

一埋戻請負高一千立坪
此工費七百六拾圓但單價七拾六錢

内

本月十五日迄 請負人大丸組ニ
請負人埋戻高 一百二十立坪 於テ施工済ノ分
此工費九拾壹圓貳拾錢
差引殘高 八百八十立坪
此工費六百六拾八圓八拾錢 今後直營施行
セントスル分

工事竣成

工事竣成

明治四十四年五月十日大丸組請負ニ係ル柳山隧道外五項ノ工事竣成ス是レヨリ先キ本工事ハ四十二年四月六日ノ契約ヲ以テ四十三年十二月五日ヲ以テ竣功期ト定メシモ同年九月七日隧道内ノ一部崩壞シ之レカ復舊ニ多數ノ日子ヲ消費セシヲ以テ同年十一月十二日市參事會ノ決議ヲ經テ四十四年五月十日迄延期ノ許可ヲ與ヘシニ爾來請負人ニ於テ精勵シテ許可期日内ニ竣工セシムルコトヲ得タルヲ以テ四月十五日水路課長及第二工區長檢分シ左ノ檢査狀ヲ交付シタリ

工事竣成檢査報告

工檢第五號

工檢第五號 明治四十四年五月十日

施工場所 二〇六鎮二六六鎮間
工事種類 柳山隧道開鑿外五項工事
工費 金六萬貳千參圓九拾七錢
請負人 大丸組大阪支店支配人鈴木辰五郎
竣成期間 自明治四十二年四月十二日 七三四日間
至同 四十四年四月十五日
竣成日 明治四十四年四月十五日
檢査成績 佳

備考 最初請負ノ金額ト記載ノ工費金額ト差アルハ一部分契約ヲ解除シ又各工事中豫定ノ支出ヲ要セサル部分ヲ生シ之レヲ控除セシニ由ル

安祥寺山隧道

本隧道ハ宇治郡山科村宇安祥寺地内ニ在ルヲ以テ安祥寺隧道ト名ツシ延長四百六間東ハ百六十五間ヲ距テ、柳山隧道アリ西ハ四百十八間三分四厘ヲ距テ、黒岩隧道アリ全線中最モ避隔ノ地ニシテ材料ノ運搬不便ナレトモ土地高燥ニシテ湧水殆ソトナカリシハ堀鑿上非常ノ便利ナリキ明治四十二年三月二十九日工費ノ調査ヲ終ヘ事業委員ニ諮リ市参事會ノ決議ヲ經テ左ノ費額ヲ決定セリ

隧道工費

安祥寺山隧道工費
一金一二二六九四圓九二錢

總額

内譯
金五七〇七六圓七四錢

材料費

内
金五一五〇一圓八〇錢

直營額

金五五七四圓九三錢

諸負額

内
金六四六一八圓一八錢

工費
直營額
諸負額

金一〇〇〇圓〇〇

雜費

同明細表

工種	數量	材料單價	材料費額	工單價	工費額	合計
掘鑿	二、四七八、二五四	二、二五五	五、五七四、九三三	五四三、〇八四	五、四〇六、六八五	五、四〇六、六八五
拱卷立	二八四、五五八	七、四八〇	二、一〇六、七六四	九、九二〇、七九五	五、九一八、五二二	二、六五四、二八六
側壁煉瓦	二二八、〇七八	七、四八〇	一、七〇二、〇九三	一、五二二、二八九	一、五八六、七五八	一、〇八六、九八一
仰拉コンクリート	一、四二五〇	四〇、一九四	五、七三、五五九	一、〇八、一〇〇	一、二三、八〇一	一、二三、八〇一
同モルタル塗	一、四二五〇	一、七九〇	二、五六〇、〇七五	三、四九〇〇	三、四四八、二五	二、〇二四、〇〇〇
起拱石二枚卷	四〇、〇〇〇	四、四五〇	一、七八〇、〇〇〇	〇	一、七八〇、〇〇〇	一、七八〇、〇〇〇
同三枚卷	三、二六〇〇〇	七、二一六	二、三六、九八一	〇	二、三六、九八一	二、三六、九八一
同四枚卷	三、〇〇〇〇	一、一四八	三、三四四、〇〇〇	〇	三、三四四、〇〇〇	三、三四四、〇〇〇
同五枚卷	一、〇〇〇〇	一、七五九	一、七五九、〇〇〇	〇	一、七五九、〇〇〇	一、七五九、〇〇〇
同掘付及一枚卷	四〇、〇〇〇	八、一一	三、二四四、〇〇〇	二、一五七、〇〇〇	一、〇八六、九九	一、〇八六、九九
同三枚卷	三、二六〇〇〇	八、一一	二、六四二、六六	八、八五七、〇〇〇	五、二〇四、七二	一、一〇二、八五八
同四枚卷	三、〇〇〇〇	八、一一	二、四二六、〇〇	一、三三、〇〇〇	一、〇九三、〇〇〇	一、〇九三、〇〇〇
同五枚卷	一、〇〇〇〇	八、一一	八、一一〇、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	一、三三、〇〇〇
支保工	四〇、〇〇〇	〇	九、七〇〇、八八五	〇	九、七〇〇、八八五	九、七〇〇、八八五